

神奈川大学・横須賀市共同市民アンケート調査

身近な気候の変化と気象災害に関する市民意識調査

最終報告書

平成 28 年 3 月 25 日

神奈川大学人間科学部

松本 安生

目次

1. 調査の概要	2
1-1. 目的	2
1-2. 調査概要	2
1-3. 調査項目	2
1-4. 調査結果の留意点	2
2. 第1回調査の結果	3
2-1. 回答者の属性	3
2-2. 単純集計の結果	5
2-3. 自由記述（近年の気候変化やその影響について）の結果	13
3. クロス集計の結果	27
3-1. 性別による回答の違い	29
3-2. 年齢層別による回答の違い	47
4. 第2回調査の結果	56
4-1. 回答者の属性	56
4-2. 単純集計の結果	57
4-3. 自由記述（気候変化やその影響、対策についての必要な情報）	66
5. 第1回調査から第2回調査における意識の変化	73
5-1. 気候変化による影響（被害）に対する不安感の変化	76
5-2. 近年の気候の変化とその影響（被害）に対する実感の変化	78
5-3. 将来の気候の変化とその影響に対する認識の変化	82
6. リーフレット別の結果	85
6-1. リーフレットの概要	85
6-2. リーフレット別の集計結果	86
7. 本調査のまとめ	94

1. 調査の概要

1-1. 目的

本調査では、近年の気候変化とその影響と考えられる様々な気象災害、さらには将来の気候変動に対する市民の意識や行動を把握するため、一般市民 2000 人を対象とした市民アンケート調査を実施し、その結果を今後の行政施策や研究のための基礎的知見とすることを目的とする（第1回調査）。また、同じ対象者に対して近年の気候変化や将来の気候変動についての科学的な知見を情報提供する社会実験を行い、情報提供が市民の意識変化や行動変容に与える効果について把握するとともに、情報提供手段の違いが与える影響について検証を行うことを目的とする（第2回調査）。

1-2. 調査概要

- ①対象地域：横須賀市全域
- ②調査対象：市内在住の 20～69 歳の男女 2000 人
- ③抽出方法：無作為抽出法
- ④調査方法：郵送による調査票の配布・回収
- ⑤実施時期：[第1回] 平成 27 年 9 月～11 月、[第2回] 平成 27 年 11 月～平成 28 年 1 月

1-3. 調査項目

（1）第1回調査

- ①近年の気候の変化とその影響（被害）に対する実感（問 1～問 5）
- ②将来の気候の変化とその影響（被害）に関する認識（問 6～問 10）
- ③気候変化による影響（被害）への対策に関する認識と取り組み（問 11～問 13）
- ④気候変化による影響（被害）に対する不安感（問 14）
- ⑤個人属性（性別・年齢・居住区・職業・居住年数・世帯人数・居住形態・近隣環境・情報源）

（2）第2回調査

- ①情報提供に対する評価・要望（問 1～問 3）
- ②気候変化による影響（被害）に対する不安感（問 4）
- ③近年の気候の変化とその影響（被害）に対する実感（問 5～問 9）
- ④将来の気候の変化とその影響（被害）に関する認識（問 10～問 14）
- ⑤気候変化による影響（被害）への対策に関する取り組み（問 15）
- ⑥個人属性（性別・年齢・居住区・情報源）

1-4. 調査結果の留意点

- （1）N は質問に対する回答者数で、各項目の比率（%）算出の基数である。
- （2）標本誤差（95%信頼できる誤差範囲）は、最大（回答比率が 50%の場合）で $\pm 3.3\%$ である。
※横須賀市人口 415 千人（2015 年 10 月現在）、有効回収数 917 人
- （3）回答比率が 5%以下の場合は原則として図中の数値は削除している。

2. 第1回調査の結果

2-1. 回答者の属性

- ・有効発送数：1971 人（宛先不明返戻：29 人）
- ・有効回収数：917 人
- ・有効回収率：46.5%
- ・基本属性

Q1 性別		(SA)		
No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	男	357	38.9	38.9
2	女	513	55.9	55.9
3	無回答	47	5.1	5.1
	無効	0	0.0	
	N (%ベース)	917	100	917

Q2 年齢		(SA)		
No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	10歳代	0	0.0	0.0
2	20歳代	77	8.4	8.4
3	30歳代	141	15.4	15.4
4	40歳代	206	22.5	22.5
5	50歳代	173	18.9	18.9
6	60歳代	303	33.0	33.0
7	70歳代	10	1.1	1.1
8	無回答	7	0.8	0.8
	無効	0	0.0	
	N (%ベース)	917	100	917

Q3 お住まいの区		(SA)		
No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	本庁地域	129	14.1	14.1
2	追浜行政センター地域	74	8.1	8.1
3	田浦行政センター地域	44	4.8	4.8
4	逸見行政センター地域	30	3.3	3.3
5	衣笠行政センター地域	136	14.8	14.8
6	大津行政センター地域	77	8.4	8.4
7	浦賀行政センター地域	114	12.4	12.4
8	久里浜行政センター地域	134	14.6	14.6
9	北下浦行政センター地域	74	8.1	8.1
10	西行政センター地域	90	9.8	9.8
11	無回答	15	1.6	1.6
	無効	0	0.0	
	N (%ベース)	917	100	917

Q4 お仕事(職業)

(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	雇われている人(会社員等)	375	40.9	40.9
2	自営業主	46	5.0	5.0
3	家族従業者	8	0.9	0.9
4	公務員	68	7.4	7.4
5	学生	13	1.4	1.4
6	主婦	234	25.5	25.5
7	無職(定年退職した人など)	126	13.7	13.7
8	その他	34	3.7	3.7
9	無回答	13	1.4	1.4
	無効	0	0.0	
	N (%ベース)	917	100	917

Q5 居住年数

(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	2年未満	24	2.6	2.6
2	2年以上～5年未満	48	5.2	5.2
3	5年以上～10年未満	75	8.2	8.2
4	10年以上～20年未満	109	11.9	11.9
5	20年以上	657	71.6	71.6
6	無回答	4	0.4	0.4
	無効	0	0.0	
	N (%ベース)	917	100	917

Q6 同居家族

(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	1人	193	21.0	21.0
2	2人	298	32.5	32.5
3	3人	216	23.6	23.6
4	4人	141	15.4	15.4
5	5人	39	4.3	4.3
6	6人	12	1.3	1.3
7	7人以上	8	0.9	0.9
8	無回答	10	1.1	1.1
	無効	0	0.0	
	N (%ベース)	917	100	917

Q7 お住まい(居住形態)

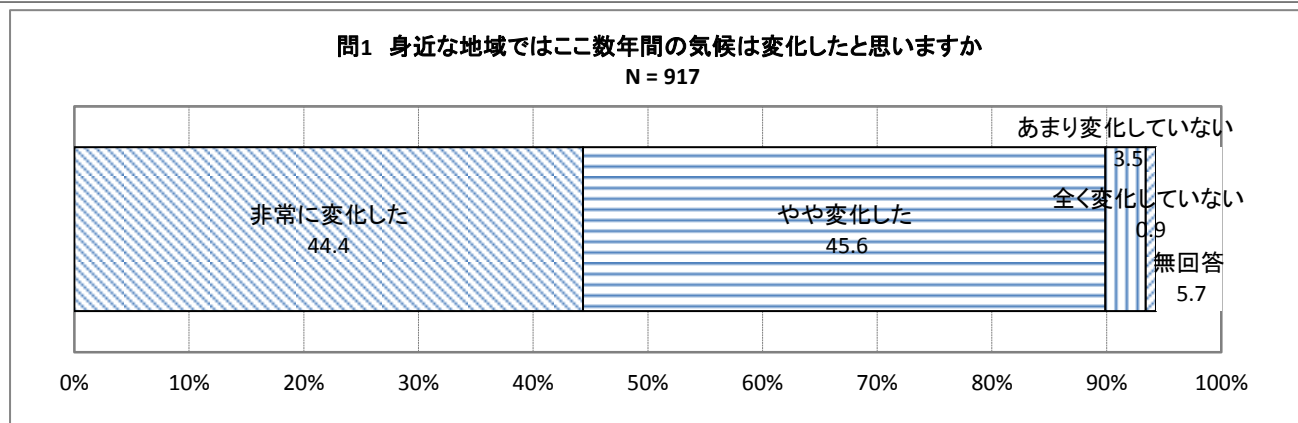
(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	持ち家(一戸建て)	532	58.0	58.0
2	持ち家(マンション・共同住宅)	177	19.3	19.3
3	借家(一戸建て)	30	3.3	3.3
4	借家(マンション・共同住宅)	151	16.5	16.5
5	その他	20	2.2	2.2
6	無回答	7	0.8	0.8
	無効	0	0.0	
	N (%ベース)	917	100	917

2-2. 単純集計の結果

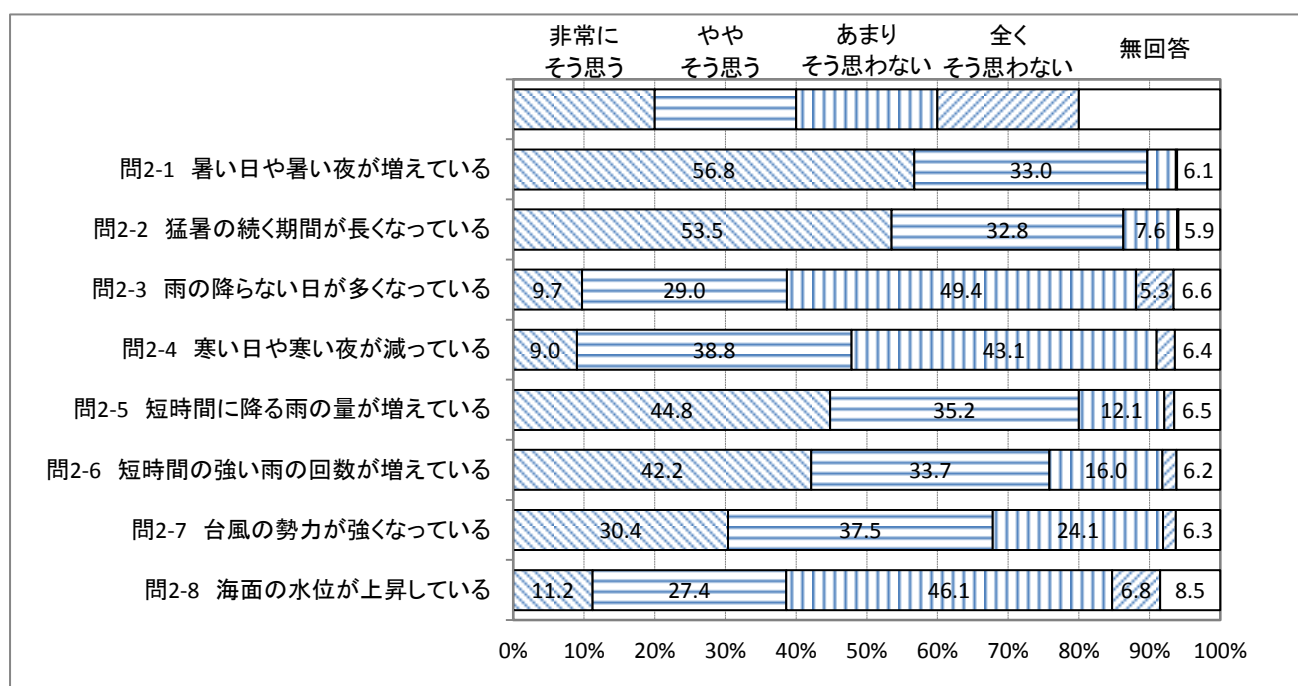
(1) 近年の気候の変化とその影響（被害）に対する実感

問1 あなたの身近な地域では、10年ぐらい前に比べてここ数年間の気候（気温や降水量など）は変化しましたか。あてはまるもの一つに○をつけてください。



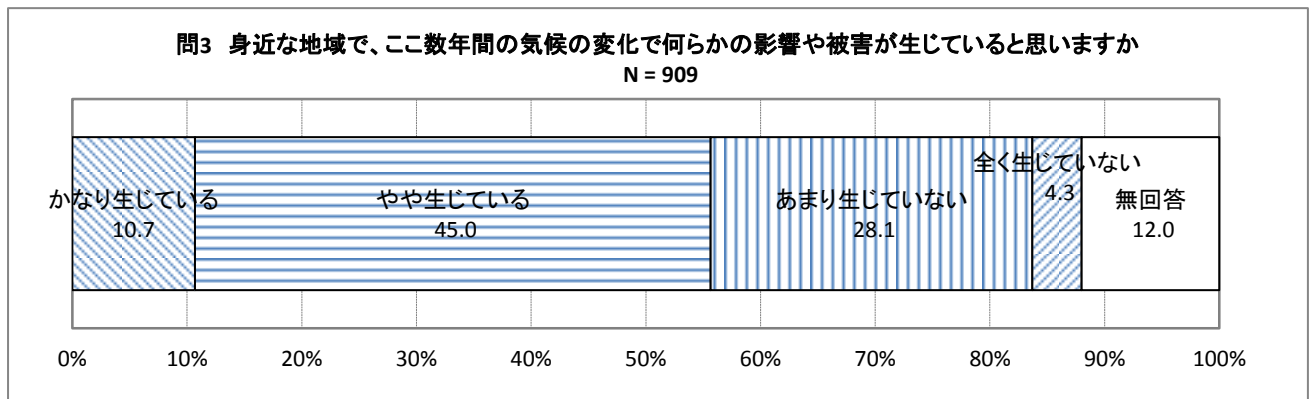
◆回答者の約44%の方が「非常に変化した」と回答し、「やや変化した」と合わせると回答者の約90%の人が身近な地域でここ数年間に気候が変化したと感じている。

問2 あなたの身近な地域では、10年ぐらい前に比べてここ数年間で次のような気候の変化が生じていると思いますか。それぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。



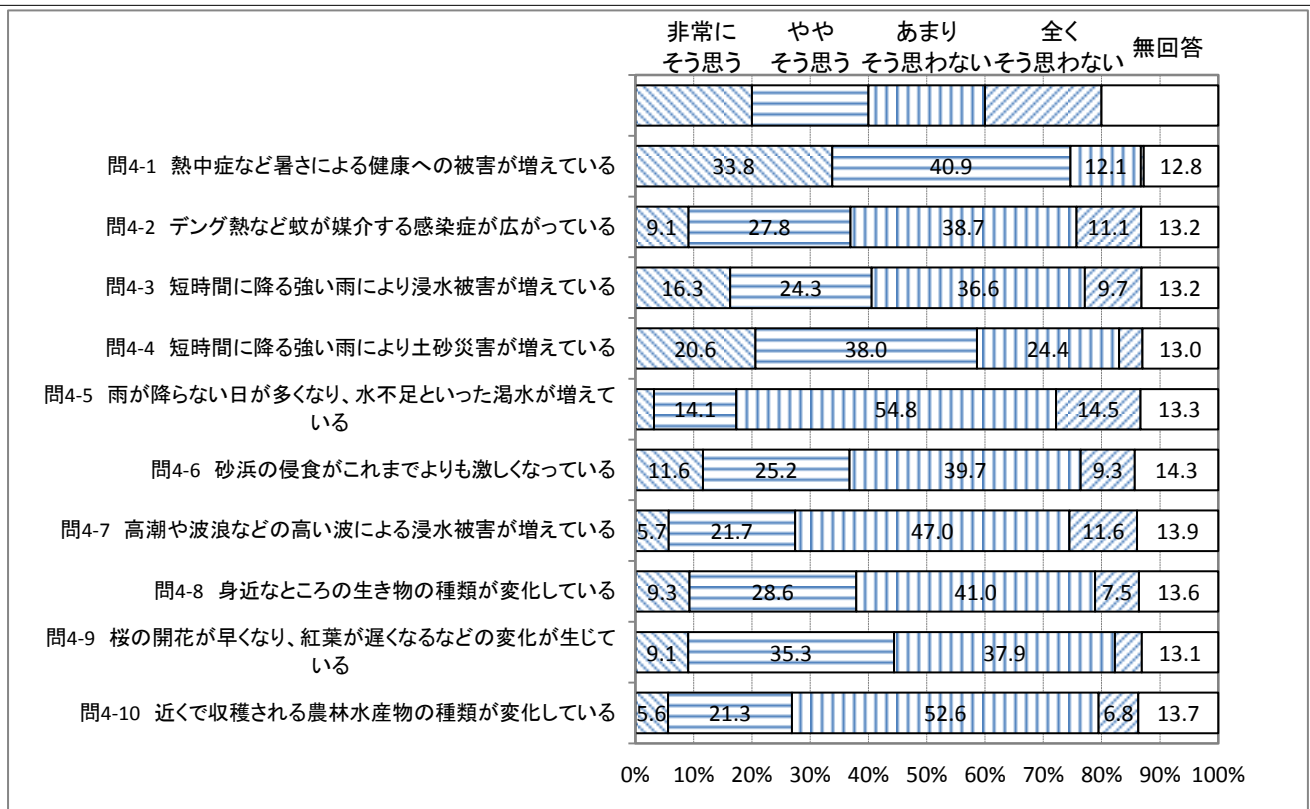
◆気候が変化したと感じている分野として、「暑い日や暑い夜が増えている」「猛暑の続く期間が長くなっている」といった暑さに関する項目を回答した人が最も多く、次いで「短時間に降る雨の量が増えている」「短時間の強い雨の回数が増えている」などの豪雨に関する項目を回答した人が多くなっている。

問3 あなたの身近な地域では、ここ数年間の気候の変化で何らかの影響や被害が生じていると思いますか。あてはまるもの一つに○をつけてください。



◆身近な地域でここ数年間に気候の変化で何らかの影響や被害が、かなりあるいはやや「生じている」と感じている人は回答者の 50%を上回るが、あまりあるいは全く「生じていない」と感じている人も回答者の約 30%にのぼり、これについては回答者の間でもやや意見が分かれています。

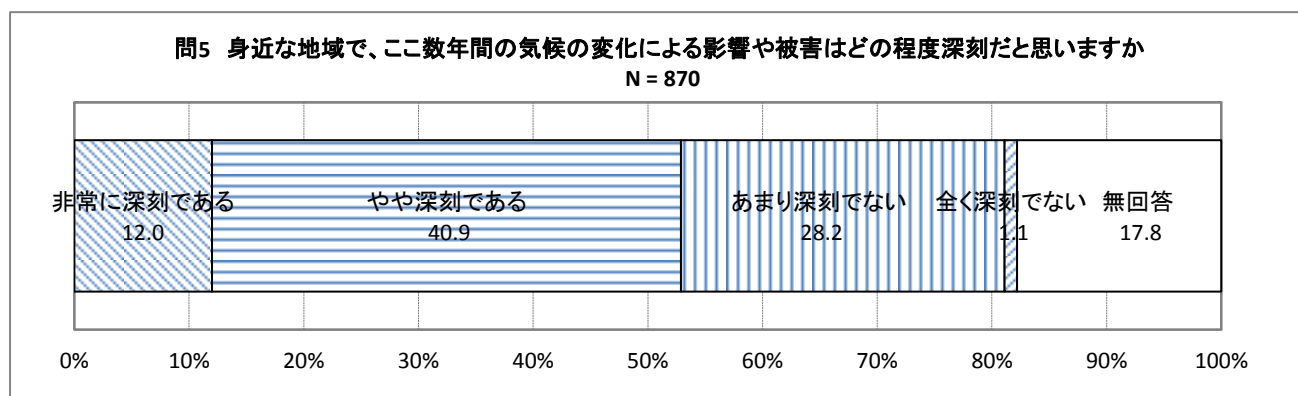
問4 あなたの身近な地域では、ここ数年間の気候の変化で次のような影響や被害が生じていると思いますか。それぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。



◆身近な地域でここ数年間に気候の変化で影響や被害が生じていると感じている分野として、「熱中症など暑さによる健康の被害が増えている」と思う人が回答者の 70%以上と最も多くなっている。次いで、「短時間に降る強い雨により土砂災害が増えている」と思う人がそれぞれ 60%近くにもなる。また、「桜

の開花が早くなり、紅葉が遅くなるなどの変化が生じている」と思う人も40%以上にのぼる。

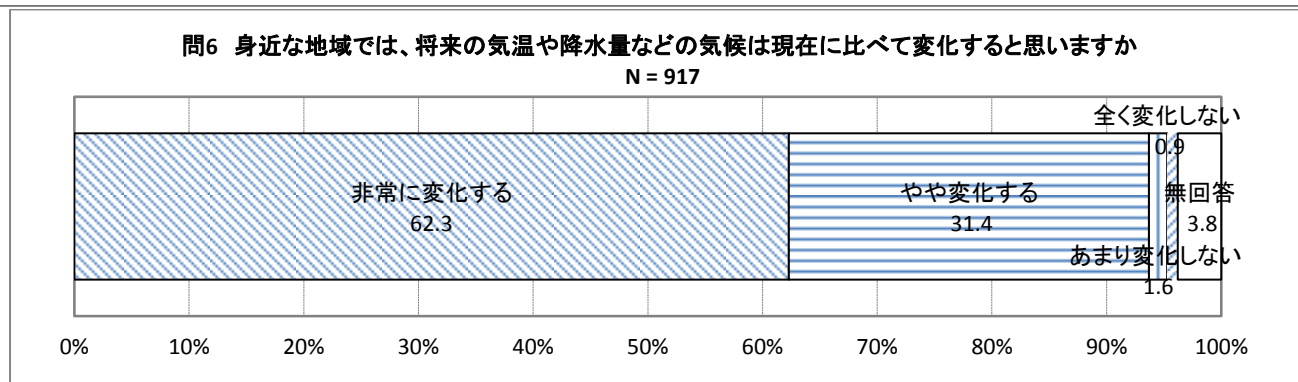
問5 あなたの身近な地域で、ここ数年間の気候の変化による影響や被害はどの程度深刻だと思いますか。あてはまるもの一つに○をつけてください。



◆身近な地域でここ数年間の気候の変化による影響や被害が非常にあるいはやや深刻であると感じている人が回答者の約50%の一方で、あまりあるいは全く深刻でないと感じている人も回答者の30%程度にのぼり、影響や被害が生じているかどうかと同様に回答者の間ではやや意見が分かれています。

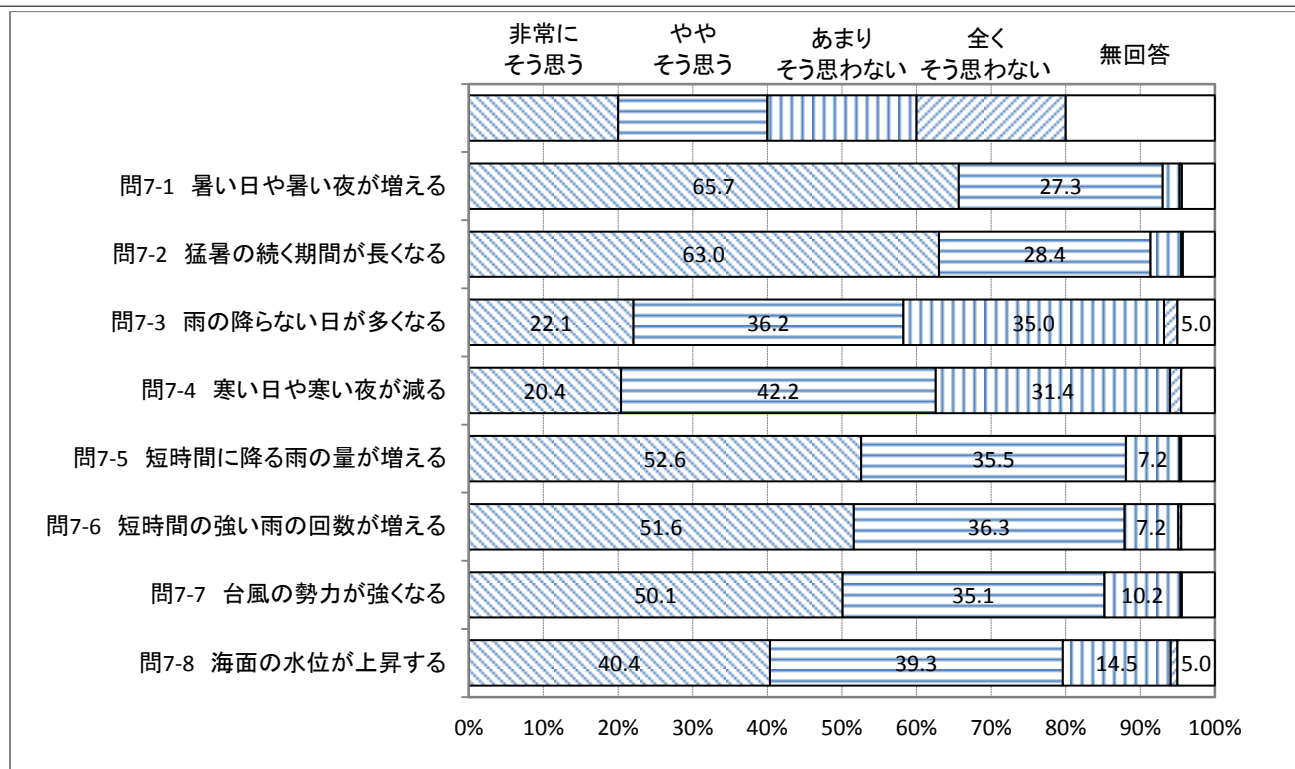
(2) 将来の気候の変化とその影響（被害）に関する認識

問6 あなたの身近な地域では、将来（およそ50年後）の気温や降水量などの気候は現在に比べて変化すると思いますか。あてはまるもの一つに○をつけてください。



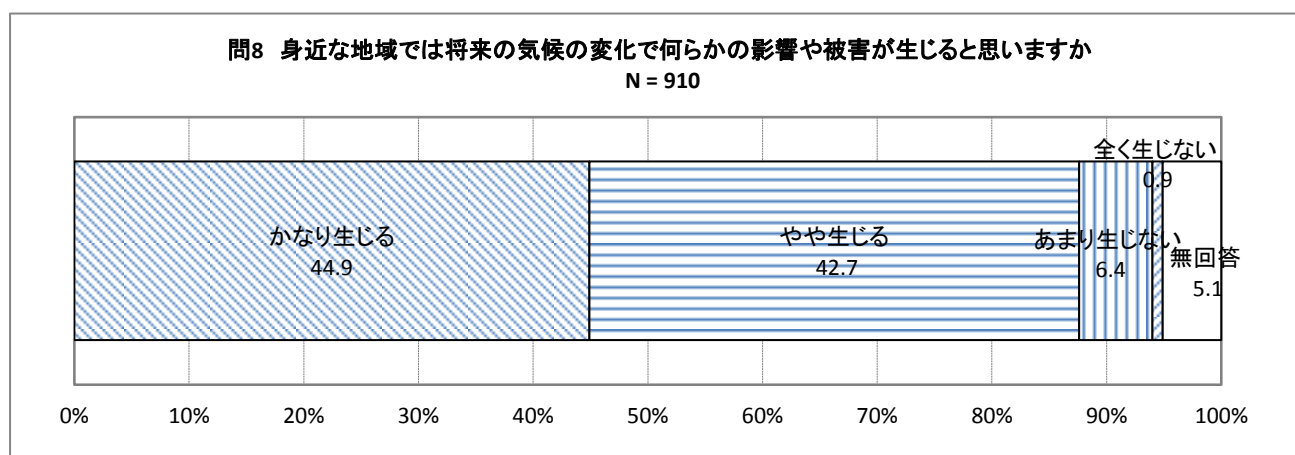
◆身近な地域において将来（およそ50年後）の気候が現在に比べて「非常に変化すると」と感じている人は回答者の60%を越え、将来の気候が「やや変化する」と感じている人を合わせると回答者の90%以上の人は将来の気候が変化すると考えている。

問 7 あなたの身近な地域では、将来（およそ 50 年後）に次のような気候の変化が生じると思いますか。それぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。



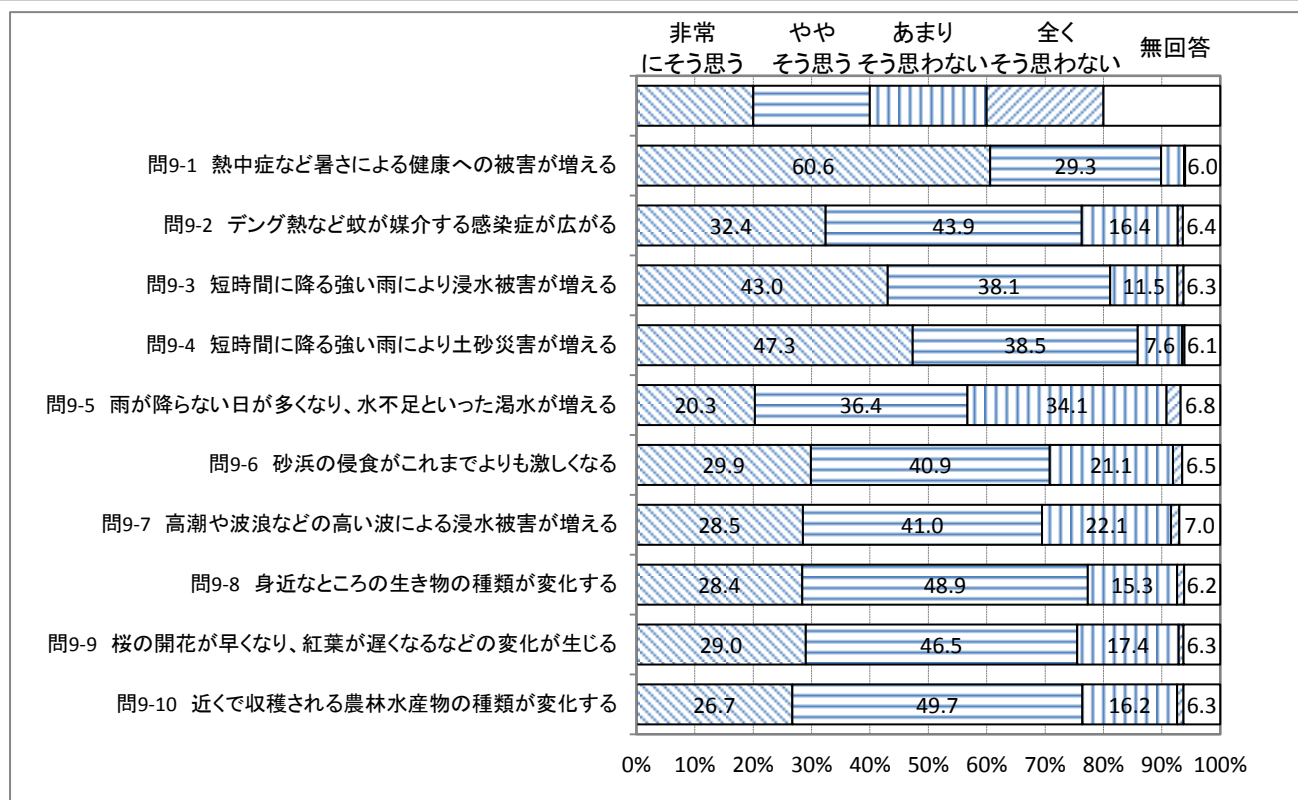
◆身近な地域において将来（およそ 50 年後）に気候が変化すると感じている分野としては、「暑い日や暑い夜が増える」などの暑さに関することや、「短時間に降る雨の量が増える」などの豪雨に関するところで「非常にそう思う」とする回答が多くなっている。また、「台風の勢力が強くなる」についても、「非常にそう思う」とする回答が 50% 近くとなっている。

問 8 あなたの身近な地域では、将来（およそ 50 年後）の気候の変化で何らかの影響や被害が生じると思いますか。あてはまるもの一つに○をつけてください。



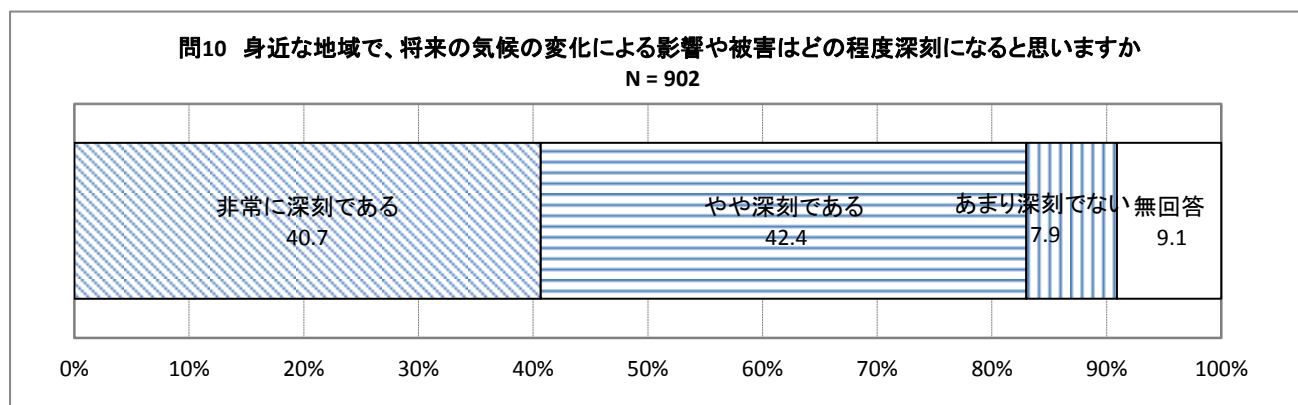
◆将来（およそ 50 年後）の気候の変化が身近な地域に何らかの影響や被害を生じさせると感じている人は、「かなり生じる」と「やや生じる」を合わせると回答者の 90% 近くとなり、多くの人が身近な地域でも将来に何らかの影響や被害が生じると考えている。

問 9 あなたの身近な地域では、将来（およそ 50 年後）の気候の変化で次のような影響や被害が生じると思われますか。それぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。



◆将来の気候の変化で身近な地域で何らかの影響や被害が生じると考えられる分野として、「熱中症など暑さによる健康の被害が増える」ことを「非常にそう思う」と回答した人が回答者の 60%を超え、次いで「短時間に降る強い雨による浸水被害が増える」や「短時間に降る強い雨による土砂災害が増える」など豪雨による被害の増加を「非常にそう思う」と回答した人がいずれも 40%以上となっている。

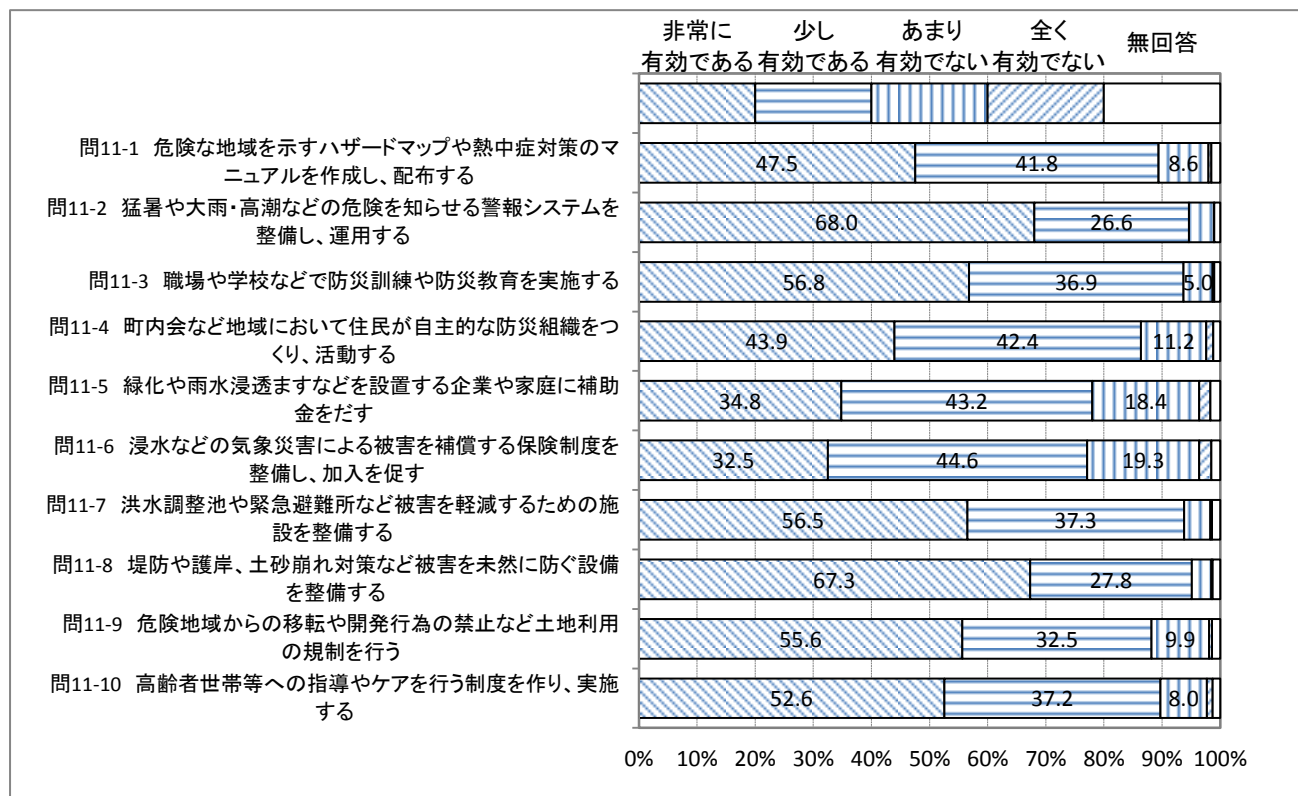
問 10 あなたの身近な地域で、将来（およそ 50 年後）の気候の変化による影響や被害はどの程度深刻になると思われますか。あてはまるもの一つに○をつけてください。



◆将来の気候の変化による影響や被害が身近な地域で「非常に深刻になる」と感じている人は回答者の約 40%で、「やや深刻になる」と感じていると合わせると回答者の 80%以上が身近な地域で将来の気候の変化による影響や被害は「深刻になる」と感じている。

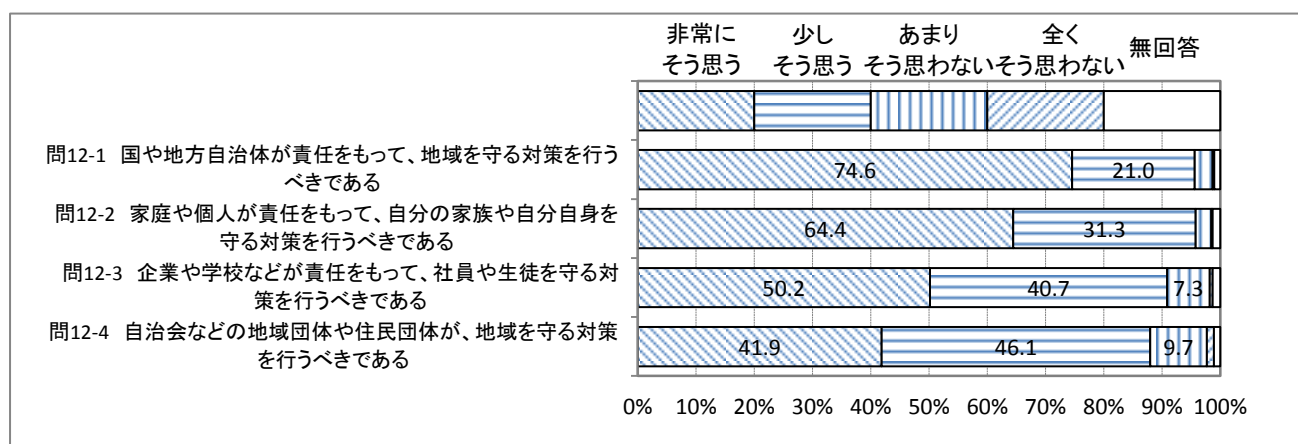
(3) 気候の変化による影響（被害）への対策に関する認識と取り組み

問 11 気候の変化による影響や被害を抑えるための対策として、次のような取り組みはどの程度有効だと思いますか。それぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。



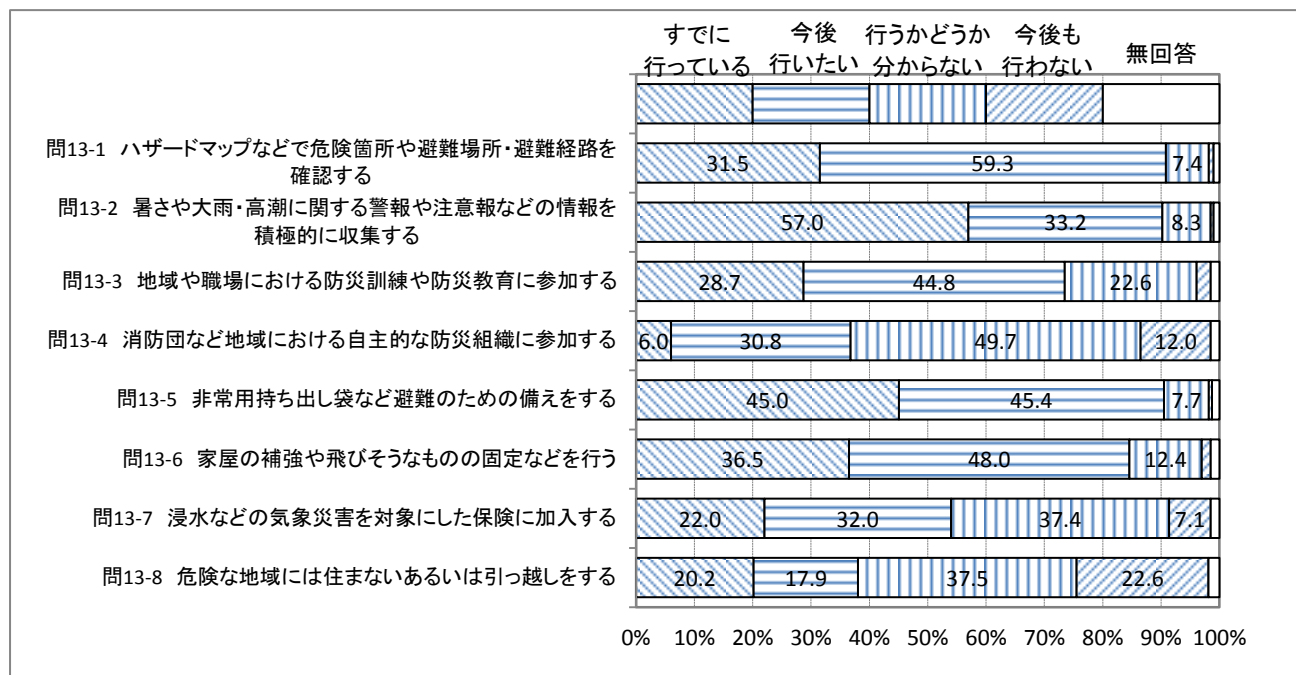
◆気候の変化による影響や被害を抑えるための対策として、警報システムの整備、運用や、土砂崩れ対策などの設備の整備などの対策が「非常に有効」とする回答が多い。

問 12 気候の変化による影響や被害を抑えるためには、どのような取り組みを行うべきだと思いますか。それぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。



◆気候の変化による影響や被害を抑えるための取り組みとして、国や自治体が責任をもって対策を行うべきだと強く思う人は70%を超えるが、自治会などが行うべきだと強く思う人は約40%にとどまる。

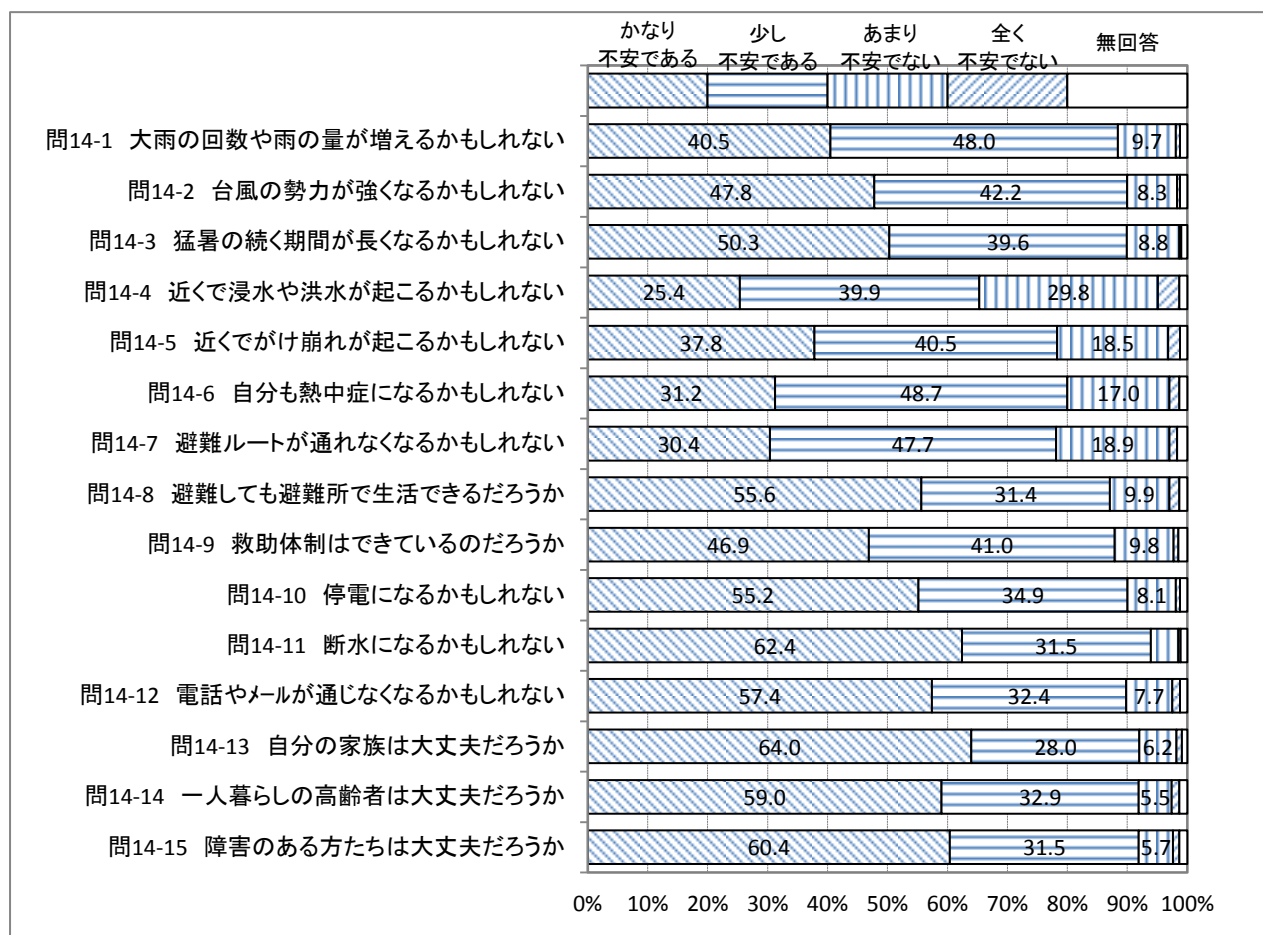
問 13 あなたご自身は、気候の変化による被害を減らすために、次のような取り組みを行っていますか。
あるいは今後、行いたいと思いますか。それぞれについてあてはまるものに○をつけてください。



◆被害を減らすために「すでに行っている」取り組みとしては、気象情報の積極的な収集のほか非常用持ち出し袋などの備え、家屋の補強・固定などが多くなっている。

（４）気候の変化による影響（被害）に対する不安感

問 14 あなたは、気候の変化による影響や被害に対して次のような不安がありますか。それぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。



◆気候の変化による影響や被害に対する不安として、「自分の家族」「障害のある方」「一人暮らしの高齢者」など他者の被災について「かなり不安」とする回答はいずれも 50%を超え、「停電」「断水」「電話やメール」などのインフラの被災についても「かなり不安」とする回答も 50%を超えて多かった。一方で、「近くで浸水や洪水」「自分が熱中症」など自分自身やその周辺での被災については、「かなり不安」とする回答が少なかった。

2-3. 自由記述（近年の気候変化やその影響について）の結果

問 15 地球温暖化による近年の気候の変化やこれに伴う影響や被害に対して、あなたのご意見やお考えをご自由にお書き下さい。

- 本当に地球温暖化が進んでいるのか、それとそれは一種のゆらぎ現象にすぎないのか、どこにも説明されていないように思います。
- 居候する地域の海岸の海水面の上昇（下降）予想を 10 スパンくらいで予測値（その理由）を公表してもらいたい。
- 一人一人がほんの少し気を付けたら地球は大きく変わります。私たち自身が源だと思う。これから生まれ育つ子どもたちの未来のために、大人が意識を変えていきたいと思う。
- 夏の暑さに耐えられる身体づくりが必要である。
- ウォーターゲート事件などについても広く国民は知るべきである。
- 自然エネルギー関連の開発や普及に力を注ぐべきなのに、政府の政策も県や市の政策も必ずしもその方向に向いていないのが心配である。企業（特に大手）も自らの利益を積み上げるのに熱心だが、こうした面への負担を嫌い、原発再稼働を迫るなど許せない！
- 横須賀の自然を生かし、企業と行政で町づくりを進める。風力エネルギー（山・海）、太陽光（山）、農業（山）、漁業（海）。
- 最近の気候を考えると、昔に比べてかなり変化してきていると思う。夏暑く、冬寒いのは当たり前であるが、周期がだいぶ違う様に感じる。また、護岸施設が充実し浸水等が減ってきてはいるものの、集中豪雨の被害が増してきたように思う。下水道の設備が追い付かない所が、出てきていると感じる。今までの規定をオーバーした短時間での雨量になっていると思う。
- 東北震災の復興地を見てきた後に、今回のアンケートが来ていました。台風の回数、一度に二つが発生するなど、異常気象は続いているし、以前見かけていた虫も見なくなっています。あと、この暑さは体が対応できないレベル。その中で今の環境として何が欠けているのか、きちんと学ぶべきかもしれない。横須賀は雨の近くと山の上に家がすごく多い。この差はどうなのか。人間同士の助け合いが全くない、薄い地域だと感じています。それは米軍基地とも関係あるのかもしれませんが、もっと対策がないのでしょうか？こんなアンケートで何がわかるのでしょうか？
- 最近の気象変化は将来起こる（もっと）に不安な要素を示していると思います。自身でできることの対策をしたいと思います。
- 避難指示などは勇気をもって出してほしい（災害時には）。
- さらにこれからは地球温暖化が進み、気候の変化による影響が増えていくので、自然災害に備える必要がある。一人一人が意識しないと守るべきものを失うことになる。
- 新築の家に対し、屋根に緑とか、緑化や太陽光発電を義務付ければいいのに…。
- 野菜類の高値が非常に困る。
- 宇宙誕生から 150 億年、地球誕生から 45 億年、生命誕生から 35 億年、幾度の寒冷化、幾度の温暖化の中、生命は繁栄し続けております。多少の気温上昇を議論しても、人知の及ばぬ世界ではないのでしょうか。人類の行く末を気遣って調査なら、どんな厳しい環境でも育つ動物、植物を開発されてはいかがでしょうか。食物連鎖の頂点にいますからね。
- 地球温暖化により南極の氷が溶け、日本は沈没する。
- 特にありません。本アンケートの実施は評価できます。
- 夏の暑さが異常になってきていて、熱中症の心配がある。停電になってクーラーが使用できなくなるのが一番不安で

す。避難場所は近くに学校があるので安心です。

➤ 市及び町内会が中心となり、地域の防災意識の啓蒙施策を推進させる。・地域別危険マップ等を作成し、日ごろから地域の方々に浸透させる。・生活サークル、環境等必要な連絡ネットワークを作成する（電気水道等）。

- 防災訓練を行ってほしいです。
- 毎年、動植物の変化を観察しています。ツバメの渡りやセミの鳴く時期、秋虫の声、魚の回遊時期などである程度の変化が起きているので、夏の長さなどがわかるようになりました。
- 影響は家にいる時ばかりではないので、様々なハザードマップも準備する必要があると思います。若いうちは SNS でも、高齢になると会話が大切なので、何かお口が関わる対策も必要かな？と思います。
- 最近春と秋がないような気がする。
- 横須賀の気候は温暖で、台風の被害が少なく、心地よく生活していましたが、最近の自然気象に不安を感じる。ここは「小川町」！地名から昔の地形を知ることができると情報で知った。越してきて 2 年、安全について（地震、水害等）不安を感じる！災害に遭った時、できるだけ（2〜3 日は）自活できるよう、食品や便利グッズを揃えている。以前より意識が高くなった！
- 1 年を通して気候が変化しているのは確かだと思う。
- 収入が少ないので、保険加入等は先々も難しいかもしれない。低所得者や一人親世帯、障がい者も無理なく安全に暮らしていけるようになればいいと望んでいます。
- 個人から国までの防災対策も重要だが、世界規模の対策が必須だと考える。
- どうしようもない部分もあり、適応するしかないかも。しかし、世界レベルで協力しないとどんどん悪くなる。
- 自然のことはいくら人間が研究してもわかるものではないと思うので、あまり専門家の意見はあてにならないと思っています。そのために、いろいろな分野の予言者じみたものが流行るのだと思います。
- 今年の夏は暑い日が長く続き、いつまで続くのかと不安になった。洗濯物が、干してから 1 時間で乾いてしまい、驚いた。
- 15 年前にこちらに来た時（当時）に比べ、湿度がすごく上がっている気がしています。部屋の結露もひどく、カビが生える頻度も上がっております。夏も暑く、過ごしにくい日が増えていると感じています。台風、強風などで突如交通の便がひどく悪くなることも不安要素ではあります。
- 夏は各家庭でエアコンを使うのではなくて、電気代節約のためにホールやショッピングモールとかに集まって避暑できるといいと思う（なかなか難しいですが…）。
- 夏場のエアコン使用量を抑え、窓など自然の風を有効利用する。使わない電気はこまめに切る。このような小さな積み重ねにより、温度上昇を抑えることができるのではないだろうか。また、電力会社よりエコプランの提示などがあると、より地球温暖化に対しての意識や注目が高まり、少々影響を抑えることができるのではないだろうか。
- 節電、節水、エコカー使用等個人の意識改革も必要！さらに、中国等の企業による CO2 問題を早期に改善する必要があると思う。
- 近年の洪水や土砂災害のニュースを見ていると人災と言ってもいいのでは（業者による無謀な開発 etc.）と思える。国や地方自治体はくだらない箱物を作ったり、他の国にお金をばらまいたりしないで、災害対策に税金を使用すべきではないかと思う。
- 国や県など行政がもっとしっかりしてリーダーシップを取ってもらいたい。
- 地球温暖化がこのまま継続した場合、最悪のケースではどのような現象が起こりうるのか専門家の方のお話を聞いてみたいです。・熱を吸収するようなコンクリートの開発、普及がされるといいと思います。

➤ 近年思いもよらぬ災害が起きているが、基本的には行政に頼らずに1〜2日過ごせる心づもりでいるべきと思う（自宅に残れる場合）。・東日本大震災の時、一番必要だったのは「情報」だったように思う。・高齢者に冷房使用を勧めても「嫌いだから…」と使わない人が多く、その人たちにただ使えと言っても使ってもらえない。高齢者の気温の感じ方が若い人と違うことや、具体的に「〇〇度になったら設定〇〇度でスイッチオン」くらいまで言わないといけないのかもしれない。

- 台風は予測できるが、竜巻は対応できない。
- 小・中・高校生に猛暑日に無理やり外で運動させるのはやめてほしい。子どもたちは言われれば素直にやってしまいます。ニュースで聞かたびに子どもたちが気の毒に思います。大人は何を考えているのだろう、と思います。救急隊の人にも迷惑です。猛暑だというのに何故運動させるのか？室内で筋トレ、プールで体力づくり等ではダメなのでしょう。か？「昔とは気温が違う」ということをわかっていない指導者が多いのでは？これだけ「熱中症には気を付けて」、「外での運動は控えて」とテレビで言っているのに、何故わからないのでしょうか？指導者に対して指導するべきです。熱中症は命にも関わることなので甘く見ないでほしいです。
- 3.11を忘れたかのようにTV局、町のネオン、ゲームセンターやパチンコ店等々、無駄な電気の消費が多すぎる。小さなことから気を付けないと温暖化は防げない！
- 蚊の出現する時期が遅くまでになったように感じる（冬の11月）。東京に夏に行くと、ゲリラ豪雨に遭うので驚いた。こういう変化が「不安」の種のような気がする。
- 5年くらい前から思っていますが、市からの大雨警報のアナウンスが激しい雨風で聞こえないことが多く、何を言っているのかもわからないことがある。聞こえないとより不安になるので、何とかしてもらいたいと思います。
- 私自身は50年は生きていられないと思うが、残った家族が心配です。何かあったら誰が救ってくれるのか？生きていても心配、死んでも心配。もっと早くあの世とやらに行きたかったな。
- 吉田横須賀市長、環境企画課（整備景観課）御中 これ程毎年暑い夏にも関わらず、強い選定で日陰を全く作らない街路樹。毎夏この古い銀杏の木葉が茂り、影を作ってくれればどんなにいいかと思う。長年の強い選定で古い大きな木も唯の電信柱状態。政府からも日陰を選んで歩くようにとあるのに逆行している。街路樹だけでなくベルニー公園のベンチの横の木も何の役にも立たずに棒として立っている。景観も何もあったもんじゃない。お役所はやはり何も考えてはいない。なんともムナシイ。
- 地球温暖化防止のため、原子力発電所の活用は必要。火力発電は減らすべきで、民主党の行った原発停止は異常。使える原発は稼働する。菅のやった高浜原発停止は異常であり、20数メートルの防波堤は異常。できても稼働させないのはバカだ。
- 大雨、長雨による土砂災害がとても心配。昔よりも大きなマンションもたくさんできていて、それも平地でなく山を削って建てることが多く、緑が少なくなっているのも気候変動の大きな原因の一つだと思います。暮らしが便利になるのは、今後とてもありがたいことだが、自然も大切にしたいけどももっといいのだが…。
- 何でもエアコンにたよる生活を見直す必要がある。
- 気象災害は森や林をなくすと被害が生じると思います。
- 私は人間の知恵を信じているから、地球の将来に少し不安はあるが、悲観はしていない。我々人類、生物の唯一の宿処、地球を大切にしましょう。
- わが家は数十年前に竜巻被害に遭いました。当時、竜巻警報などありませんでした。近年、注意報などが発令されるようになり、気候が変化したと強く感じます。
- 熱中症や土砂災害の増加は、気候変動だけでなく宅地の造成や風通しの悪い間取り、緑地の減少によるもので

はないか。・浸水、洪水、手雨電、断水等一度も経験がなく、危機意識は低いように思う。・横須賀市において、避難所に身を寄せる事態とは、どのような状況だろうか。

- 温暖化に伴って起きる災害は、すべて人間が生活していくうえで出す CO2 が原因である。いくらエコエネルギーと言っても限界がある。地球上の人口増が原因。人間がすべての要因であることは明らかだ。昔の生活に戻すことも不可能だということはわかっている。原子力エネルギーも東日本大震災でさんざんな目にあった。どんなに対策を立てても、人間が考え、やれることに対して、自然の脅威はあまりにも厳しく抗うことはできない。ならば、地球上の人口減、出生減を目指していかないと…。各国が真剣にこの問題を考えてかないと、地球に人間が住めなくなってしまう。テレビでも特集を組み報道しているが、このままだと 30 年後 50 年後はこうになってしまう、その時人類はどのように考え、行動を起こすのかとは言っているが、どうすればよいとは触れない。私は思うのだが、その時ではもう遅い。気候変動は、世界中くまなくすべてをひっくり返して影響し合っているのです、日本だけ考えてもむなし。
- 皆死にます。人をあてにはできません。寿命です。人も生きていますが、自然も生きています。今まで殺して自然との共存を考えない人間が悪い。金になるから…変化、壊した現実、どこまで戻せるかが問題。一人一人が考えることでしょう。不言実行でしょう。
- 不安に思うことは多いが、備えを行うにも費用がかかったり、消費期限のチェックなど、なかなかうまく備えを行うことができていない。
- 温暖化を年々感じており、自分が年を取った時の環境がすごく気になる。自分の子どもの子供も…その子たちは大丈夫なのか。昔は 12 月になると厚手のジャンパー、コートを着ていたが、最近は 1 月でもコートがいらなくなっている。本当に寒いのは 2 月だけになってきている。大雨や地震、津波等、自然災害が増えている。この間の夜中の津波警報はすごく不安になり、心配で眠れなくなった。もし津波が来たら、寝ている子どもたちを起こして荷物を持って…と想像していたら本当に怖くなった。
- 地球温暖化について耳にすることはあるが、頻繁に報道されていることではないので、認知度は低い気がします。でも、ここ近年起こっている異常気象が温暖化の影響なのか、目に見えてきているので恐怖を覚えます。日本では国全体で温暖化対策として、リサイクル等自然と皆が活動していますが、これは世界的な問題なので世界全体で行わないと小さな努力で終わってしまうと思います。その先数百年後、人類が誕生した歴史とは逆に、人類が破滅していくような気がします。地球温暖化によって起きている具体的な問題、対策方法をネットを使って全世界へ呼びかけられないものかと思います。
- 「かもしれない」はナンセンス。支給自体が活動期に入ったと思っているので、生き残れたらラッキー。
- 事故で電気が止まったり、停電などに不安な所がある。温暖化に毎年なってくるので、熱中症や病気にならないようにしたい。
- 農家の減少により地産地消ができなくなる。
- 地球温暖化はゆっくりと着実に進んでいます。ここに書かれていたようにおそらく春が早く終わり、すぐ夏になり、秋はなかなか訪れない。猛暑日が続く、冷房熱でさらに外気温が上昇して悪循環になる。体力のない幼児や高齢者、患者や療養者を国など行政がいかにケアし、守れるかが今後必要かつ重要な課題と考えます。
- 地球温暖化等、テレビなどで取り上げているのはよく見るが、その対策として自分が何をすべきかまいちよくわからない。
- 森林伐採、大気汚染等を減らさなければ、環境破壊がどんどん進み、地球そのものが存続しないだろう。
 - 注意報や警報が出てもどの程度で避難してよいかわからない。・避難場所に全員分の食料があるのか心配。
- 最近局所的な雨が多く、近くには小さい山や崖があるので、土砂崩れが起きないように地質調査や対策が可能であ

ばやってもらいたいと思っています。

- ゴミの分別帳など市を通して配布されているので助かっていますから、同様に地球温暖化に対して個人でどのようなことをすれば温暖化の防止につながるのか、何か冊子を配布してくれたらと思います。できるだけわかりやすくお願いできれば助かります。
- 最近の気候の変化には驚いています。地球規模のこのような変化を人間の力ではとても食い止められませんので、せめて自分にできること、ささやかですがゴミの分別や電気、車の利用などを考えながら暮らしたいと思っています。
- CO2 の増加を抑ええるための政策を強力に進めるべき（多少生活が困ったとしても）。
- 一人一人が注意するべきです。自分は大丈夫と思わないことが大切だと思います。
- 身近に、数年前までは砂浜だったのに砂がすっかりなくなり岩だらけになっているところがあります。気候の変化の影響なのかはわかりませんが、自然が変化する様を目にしている気がします。
- 大雨による自然災害が多増するのではないかと思います。
- 温暖化には直接関係ないのかもしれませんが、崖、急斜面の多い横須賀で崖下の宅地開発が許可されている現状は問題です。素人目にも危険そうと思われる場所に新たに住宅が建設されるのを見て、不安に思います。
- 毎回課題に上がることで、一人一人が意識を持つべきだと思います。例えば、エアコン温度、ゴミ分別など「私一人くらい大丈夫でしょう？」という考えをなくすことだと思います。これはマナーにもつながり、やさしさだと思います。できることはしようという考え、行動。心が大切なことだと思っています。
- ここ数年、昔はいなかったクマゼミがよく鳴きます。以前は伊豆の方にしかいなかったと思います。
- 西暦 2000 年を迎えた時は「ミレニアム」を祝ったが、2011 年の東日本大震災以降、確かに 1000 年単位に地球規模の変化を実感した。今後はそれらを踏まえた対策をする必要があると思う。
- 崖崩れのための整備が最も心配です。
- 無駄な森林伐採をして、ゴミ処理施設やマンション建設などをさせず森林を増やし、自然環境を良くし、暮らしやすい市にしてほしい。もうすぐ南関東大震災もやってくるので、安全に暮らせるようにしてほしい。
- 日本ばかりでなく世界単位で考え直さなければ意味がないと思う。
- 地球温暖化は CO2 の排出の増加が原因で個人で解決できるものではない。しかし、個々に努力することで増加を減少に導くことはできるので、太陽光発電や節水、ゴミ焼却量を減らすこと、資源回収に積極的に臨んでいきたい。次の世代に安全な生活環境を残せるように努力していきたい。太陽光発電、生ゴミ処理やってます。
- 昔から山を削り、道路を開発し緑がなくなり、横須賀の自然が少なくなっていく。変化は当然かな？
- 気候の変化に伴い豪雨等が増すと思われるので、市政→町内会等、現在の側溝並びに川（市街地に流れているような）の護岸、深さの再整備を広げていけたらと思う。
- 台風（非常に強い大型の）、竜巻、大雨は明らかに最近増えている。すべての大きな河川は高い堤防を築き、川の増水による水害を防ぐ手立てをとってほしい。
- 横須賀市は公共機関（救急医療センター等）を埋立地に建設するなど、危機管理体制に疑問が生じる。
- 他の市町村で取り入れていることを横須賀市でも積極的に取り入れてほしい（熱を吸収するアスファルト等）。
 - 町内会の活動などは身近で参加しやすいので、そこでできる対策活動を次々実施するとよいと思う。例えば、コンクリート壁やコンクリート崖の蔦類（アイビーetc.）の緑化など。あらゆる公園のコンクリート面を緑化したら、多少なりとも夏は涼しげになると思う。・商店街の緑のカーテンもとても感心するし、意識としてもとてもよいと思う（上町など）。
- 子どもたちが、学校の往復時に事故（雷、雨が多く、交通事故）に遭わなければよいととても心配しています。

- 私たちより、今の子どもたちの生きていく世界が心配です。
 - IPCC パネル報告などの情報を一般の人が知りやすくしてもらいたい。どういう行動をしていくべきか、多くの人（部門横断的に）が一緒に考えられえる機会を多くしていくとよい。
 - アンケートの設問がデータを取るのに適したものが疑問。なぜ「気候の変化」がテーマになっているのか、その原因は何なのかを省いて「対策」とか「取り組み」とか言っても、末端の話ではないか。京都議定書だの COP21 だの、専門家は何やってるんでしょう？
 - 冷房使用時外気の温度が上がり、涼しい空気がないので、外に出る空気が熱くならないように開発できたらいいと思う。車内（電車等）の冷房等を強く節約してほしい（温度差が激しい）。
 - 自然災害の予知が行政でできるとよいと思います。そして早い段階で広報してもらい、被害を最小限にするよう住民が地域、町内で協力し、積極的に行動する意識を日ごろから持つことが、今後必要に思えます。
 - 今のうちから外来生物や農業、水産業の変化に対応できるよう、施策、研究を願いたく存じます。
 - 日本だけでなく世界各地で起こる災害、被害が年々数多く発生しているなど感じています。次は自分の身の回りに起こりうることに對して、今一度一人一人が非常事態に備えた対策を考える必要があるかと思います。
 - 秋を感じる事が本当に少なくなった。暑い日が多い。
 - エアコンの室外機から出る温風なども温暖化の一因であると思う。エアコンの使用時間に制限をかけるなどしないと（個人個人でできること）、温暖化は加速すると思う。太陽パネルの助成を増やしたり、緑のカーテン運動を広げたり、公共のアナウンスをもっとすべきだと思う。
 - 夏場はなるべくエアコンなどを使わずに打ち水をしたり、寝る時は氷枕をしたり、なるべく自然に暮らせるように努力はしている。
 - 中国、アメリカがもう少し積極的に改善しないのであれば、予想のようになりえることが多いと思います。個人的な防災意識はとても有意義ではあるけれど、国、行政の主体でなければと思います。また、災害のたびに地域のコミュニケーションはとても重要だと思います。
- 野菜の高騰・熱中症になりやすくなった。
- 確かに気温は上がって天候気候も変化しているが、人為的な CO2 排出による地球温暖化の説は本当に正しいのか疑問もあります。地球規模の環境問題を考えることは大切ですが、「人為的原因」の温暖化の名のもとに原発を推進し、新たな経済的需要を生み出しているだけなのではないか？（例えばエコカーは乗用車を持たない者に比べはるかに CO2 を出すだろう）温暖化にとどまらず広い視野で環境保全や防災を考える必要があると思う。
 - 皆が少しずつエネルギーの消費を抑えるべきだと思います。
 - 温暖化がもたらす弊害が顕著となり、事後対応だけでは対処に限界を感じ、得意の「学識経験者への丸投げ」ですか。この問題は私が小学生だった頃にはすでに「近未来の災害」として「森林伐採やダム、宅地の造成…他の支援破壊がもたらす自然の報復についての警鐘」として、政府に対しての改善勧告が出されていたはずで（専門でない小学生の私でも入手できたのです！）それを無視し、経済至上主義で突き進んできた結果が今の災害をもたらしているのです。現在、政府が推し進める「原発再稼働」が推進されれば、日本の海水温度は急激に上昇し、温暖化が加速されることは明確な事実です。これは、原発が停止していた間に「熱帯化していた海底の自然環境が驚異的な回復を見せ、本来の生態系が復活したこと」は、TV の報道でも目にしていると思います。先日の報道では「今後も経済至上で行く」とのことですから、今回どのような報告書を提出したとしても、従来のように無視され、有効な提案はなかった！ということになるでしょう。今回のアンケートの問題も、温暖化が直接の原因でない項目が多いですね。それぞれに對する対策案もありますが、無用でしょう。数合わせのアンケートは迷惑なだけです。この意味は、教室を出て様々

な職業や年齢の方たちと付き合えば理解できると思います。以上！

- たいしたことではないのかもしれませんが、つる性の植物が非常に増え、松の木などに絡みついている。松の木など、日本従来の樹木は巻き付かれても大丈夫なのか？
 - 警報の情報も市役所で発表する防災無線でしか情報を得ることできないので、少しでも早く情報を流してほしいです。・土砂崩れなどが気になり、引っ越しをできたらと思いますが、それも簡単なことではないので…。
 - 気候の変化による大雨や台風の被害、ニュース等で非常に不安に思う。しかし、今私たちの地域ではなにもないが、もしそうなったと思うと不安です。・気候の変化や地球の温暖化に対する知識がない。もっと情報がほしいと思います。・50年先、生きてはいないが、将来のことも考えてほしい。
- 防災ブックなど（東京都で出されているようなもの）を配布してくださると、心強い。
- 2年連続で秋が来なかったのも、今年は秋が来てうれしいのですが、早すぎではないかと思います。今年は残暑が感じられませんでした。
- 人間の便利さや快適さのために自然が破壊され、天候が不順となり大きな災害が増えてきて大変心を痛めています。太陽光、風力・水力発電など、地球にやさしいエネルギーで未来を守っていきたい！と強く感じています。
- 地球温暖化により、電力の多大な消費や水不足などによってライフラインがストップした場合、体の不自由な方、病気の方、老人、子ども、ペットなどを抱えてどうやって生きていけるのか、とても危機感を覚えます。
- 昨年、私どもの家も台風で屋根の瓦が 60 枚ほど飛ばされました。まさかこんなことになるとは思っていませんでした。
- ここ数十年は気候の変化を感じており、9 月 18 日の洪水災害は他人事ではないと感じた。行政については、マニュアルだけでなく色々なことを想定し災害を少しでもなくす町づくりを行ってほしい。災害が万が一起きた時は、警察や自衛隊や消防と連携をとり、色々と考えてほしい。企業についても、考えを改めてほしいと思うし、エネルギー政策や環境政策についても色々難しい問題が多いが、少しずつ改善していったほしいと思います。
- 気候の変化による影響や災害等の予告を早めに発信するシステムを確立してほしい。
- 危険な地域に住まれている方たちが今後すごく心配です。
- 開発に伴う環境の変化で災害が増加しているので、むやみな宅地造成等は避けるべき。横須賀は自然（山、海）が多い。また、人口増も期待できない（電車がいない）ので、今あるものを整備し、住みやすい町づくりをしてほしい。
- 竜巻や落雷などを防ぐことが難しい災害について、保障制度の作成や避雷針等の防災設備の充実を望みます。
 - 暑い日が早くなっていると感じている（涼しくなるじきも早い）。・横須賀は台風の影響による被害がとても少ない方だと思う。・野比の砂浜の侵食の道路補修、いつまでかかっているの？
- 人類の長年にわたる経済活動により、地球環境の変化（悪化）を招いてきたと思われるが、その恩恵に浴してきたことも事実。昨今の災害関係の報道に接するたび、生きている地球が病んでいると感じる。意識改革が必要ですね。簡単ではないが・・・。
- 住宅が増えて緑が減ってきているので、緑が多い、木々や草木が多い公園を作り、水遊びができる場所を増やし、夏場にグリーンカーテンをする方には国や市町村から少しでもいいから補助金を出してもらい、道路に打ち水などもして、ゴミの分別もちゃんとする。一人一人が気を付ければ、10年後 20年後少しは変わってくるのではないかと思います。
- 体感的に春、秋が短いように感じる。
- 今年は猛暑で熱中症で亡くなった方が多かったように思える。自然災害は防ごうと思っていてもそう簡単に防げるものではないが、できる限り身近な所から災害に備えた準備をしたいと思います。

- 自身の住んでいる所は雨等による被害は今のところ少なく、むしろ地震による津波の方が危険だと感じています。ただ、近年の傾向を見ると、より一層危機意識を持たないといけないと思いました。
- 身近な地域の環境を見ても、地域の海の環境の悪化がかなり進んでいるようです。長井地区の素潜りの人の話では、水塩の上昇により海藻がほとんどなく、それをエサとするサザエ、アワビ、トコブシといった貝類が近年ほとんど生息していないとのことです。何とか温暖化ストップを身近に感じていかないと、海の環境変化だけを見ても、取り返しのつかないことになってしまうような気がしています。
- 台風の大規模化、爆弾低気圧、それによる被害の多さがここ何年か続いています。自宅が普段でも風当たりが強いところなので、自宅も吹き飛ばされないか心配です。この間も、火災保険の家財にも入るよう勧められました。恐ろしい思いはしたくないですね。
- 地球温暖化は、地球規模の問題なので全体で考えていかなければいけないことだが、その前に個人個人でもやれることもあると思った。あと、中国が問題ですね。あと横須賀は、日本の中で見ると比較的温暖化の影響は受けていないように思います。
- 1 点に集中した激しい雨の降る機会が増えた。10 年前に比べたら東北でも猛暑日が増えて暮らしにくくなった。
- 猛暑のため、水不足が考えられる。また、毒性の強い昆虫、生物が身近に発生するのではないかな。
- 気候の変化では地球温暖化の影響のせいですね。素人の考えでは緑化を促し、冷房の調節をしないと無理だと思います。もちろんそれだけではダメですが…ゴミの問題とか一つ一つ大切です。
- 地球温暖化はすぐにでも対応、対策をとり、自然環境を維持すべき。取り組みを始めていかなければならないと思います。自然と共存できる社会を作っていかなければ、人類の未来は衰退していくと思います。
- 自然の成り行きなので仕方がない。それに合わせて生きていくしかない。自然には逆らえない。
- 身近には起きてはいないが、日本各地で自然災害にみまわれている。今後温暖化だけでなく火山爆発などにより低温化も考えられる。健全な大地を作ること（山、川の手入れ）、農地の有効利用、食料自給率をあげる、限りある資源、自然を大切にすること。自然の力は大きい。人、物を大切にすることしか、我々にできることはない。
- 化石燃料によらない発電システムの整備（原子力、風、水、地熱等）。河川、急斜面等の防災工事の強化。防疫力の強化。防災拠点の整備。個人の意識改革（国、自治体との連携を等を含む）
- 自身の体温が低体温になるので、35 度以上の暑さには耐えられなくなり、各自、企業～今後将来のことを十分考えながら、行動、生活していくことが大切であり、自分のできることからより良い環境づくりに貢献できるようにしていきたい。
- 待ったなしの温暖化と言われ続けながらもメディアを活用した情報提供が非常に少ないと思います。毎日の天気予報くらいの割合で個人の意識を改革に向けて刷り込みをしていってほしいと思う。何かあった時の情報ばかりに TV やニュースがあるのではなく、先進国としてこれからも温暖化対策が世界一である国であってほしい。企業のゴミの仕分け基準が緩いと思うところがあるのも、すごく気になっています。
- これからは減災施策に軸足を置くべきだと思う。
- 最近報道などで竜巻が発生したというニュースをよく聞く。強風（突風）がこの地域でも増えてくると思うが、その場合の対処法が知りたい。
- 近年というより、30 年前は、冬はオーバーを着なければ寒かったと思うのですが、もう 20 年前くらいにはそこまで寒くなかったと思うのですが。記憶が定かではありませんが。
- 東京都が提供している非常時マニュアル等、神奈川県民にも提供してほしい。
- 農村が多い地域、オフィスビルが立ち並ぶ地域等、地域によっては大きく差があるが、住民団体なのか企業に協力を

求めるのか国がしっかり取りまとめてほしい。

- これから高齢者が増えていくと思われる。災害時、避難が難しい高齢者の救助体制、避難後のケアを国という大きなものではなく各地方自治体でしっかりと行うべきであると思う。
- アンケートの目的がわからない！行政は意識調査などより本当に必要と思うことをすれば良いと思う。
 - 春、秋が短くなった。春、秋雨が多く、湿度も高く、日照時間が少ない。寒暖差が大きい。・夏は猛暑、台風（ダブル、トリプル）、ゲリラ的な雨が多く夜も涼しくならない。湿度が高い日が続き、カビの発生が多くなる。日照時間が少ない。・冬は意外に寒い日が多い。雪がドカッと降る。・全体的に熱帯気候になっているように思う。これから先、感染症が増える気がします。
- 10年後 20年後の気候がとても心配です。
- 大雨、猛暑で野菜等の高値が気になる。
- ここ数年の暑さに体がついていけず大変不安になります。
- 放送設備の改善要す。大雨等の放送が聞き取りにくい（大津地区）。
- 本人は重度障害がありますので、母（60代）代筆しました。温暖化による気候変動は大変心配していますが…グローバルに考えていかないと、大変なことに～！
- 木陰になるような街路樹が少ない。整備維持するのに経費等がかかりますが、ご一考を！歩道に日陰を！
- 地球温暖化による水不足が心配。国産米や野菜に影響が出るかもしれないのが心配。
- 危険個所の認知を行うだけでも多少の効果はあると思う。
- 地球温暖化は自然界の計り知れない力がそうさせているのかもしれませんが、人間ができることはできるだけ努力したい。エコ対策を強化することによって冷暖による放熱を抑えたら、少しは温暖化を防ぐことができるのだろうか…といつも感じています。
- 今回のアンケートでは身近な地域とあったが、私の場合 10年前は他の地域に住んでいたため、今回の調査に正確に回答できたかわからない。質問に「10年前はどこに住んでいたか」「今と同じ場所か」を加えた方がいいと思う。
- この数年の夏の暑さには体力がついていかず、無理をしないように気を付けています。地球温暖化は 10年、20年前から気になっています。自然には大変興味があり、家庭菜園やメダカや金魚、カエルを飼っています。最寄り駅まで 30分程度歩きます。途中で切り通しがあり、夏はひんやりとした涼しい風が心地いです。街路樹を増やして屋上庭園にしたりと緑を増やすことも、ストップ温暖化になると思います。一番心配していることは健康への被害です。3年連続食欲不振でダウンしてしまいました。来年こそは暑い夏を元気に乗り越えたいです！
- 以前は南でできるものが今は北の方でできるようになった。また、海ではあまり多く見かけることがなかったものが、今は見かけることが多くなったように思います。
- 現状、今住んでいる所が崖を背負っていて、実際崩れてきていたり、並びの家が崩れてきたという現状を思うと、次は自分の所だなど不安になる。一昨年崩れて 30万円くらいの被害を受けているので、いつ崩れてくるかわからないと思っている。市は被害をもたらす土地の地主に強く現状を報告し、強い態度で処置を取ってもらいたい。
- 避難をしなければいけないほどの被害が他の地域で起きているので、これから先、日本はどうなるのだろうと不安です。温暖化による健康被害は、その年齢の方も気を付けるべきことですが、子どもや高齢者は自己管理もなかなか難しい。子どもは大人が守れるが、昔からの生活や習慣、考えを持っている高齢者は、テレビ、ラジオ、新聞、家族がいくら情報を流しても、柔軟に受け止めることは難しいように感じます。その年齢の方へのアプローチをもう少し考えた方がよい気がしました。
- 温暖化による影響が本当のところどうなのかわかりませんが、無駄なエネルギーは出さない努力は皆でしておくべき

かなと思います。

- 野菜など、作物の高値が生活を圧迫するのが心配。もし自分が災害に遭ったら生活ができないと思う。私たちの生活をちゃんと日本国が見ていてくれるのか、市や県が何をしてくれるのか？生活に不安を感じます。
- 安全対策などあるかもしれませんが、24 時間電力を使いすぎだと思うので、例えば真夜中の自動販売機などを少なくして節電してほしいです。熱波による死亡や疾患、気温上昇や干ばつによる食糧不足、高潮や沿岸部の洪水などが心配です。
- 住んでいる地域、住宅状態等で天候の変化に対する対応が違ってくるが、私どもは海岸に接続、「津波」が一番の対策と考える。また、高齢者が避難するための道（急な坂がある）を行くための対応。地区内で「津波」の時は車椅子等で避難としていたが、急な坂を押すのは大変であり、団地内、階段内では高齢者は 4、5 回に移動するようにしている。
- 非常用持ち出し袋に入れておく必要なものを具体的に細かく教えてほしい。
- 米国映画のデイ・アフター・トゥモローを見て温暖化の恐ろしさを感じるようになった。
- 海岸線の防波堤等の建設を早急に求めます。
- 地球温暖化による気候変化により、竜巻、突風、豪雨が多くなり、農作物にも影響を及ぼす心配があります。
- 今後、これまで予想もしなかった竜巻や台風の被害が発生すると思われるので、建物の強度を高める必要がある。異常気象が当然のようになり、異常に気付かなくなり、対応が遅れて被害が増大すると思われる。
- 宅地開発にあたっての注意。緑化。
- 近い将来、10 年後、20 年後は私たちの生活が大きく変わっていなければ、気候の変化はこれまでよりも悪化するのではないかと不安である。しかし 6～10 の設問の様に、50 年後というと私の生活も変わっている可能性もあるし、地球全体のバイオリズムも変化している可能性もあるので、正直わからないというのが現状である。被害の対策としては専門家の意見を仰ぎ、国や自治体、学校などで対策を行うのはもちろんだが、最終的には被害の回避や予防は一人一人、個人が行うものなので、気候の変化に対して常に意識を高めることが大切であると思う。
- 自家発電（我が家は設置済み）やエコロジー在宅の助成金をもっと増やすべき。
- 節電も温暖化防止になると考えております。実行してます。
 - 海の砂浜がかなり減っている。・太陽の光がかなりきつくなってきたように思う。
- 東京湾で釣れる魚の時期がずれ始めているように感じる。北限が上がってきたようにも思える。
- 近年、大雨等、予想を超えた災害で瞬時に大きな被害につながり、判断に迷うことが多いようです。自分がその立場になった時、難を逃れる行動をとれるか不安です。日ごろから備え、情報にも目、耳を向けたいと思います。
- 暑い日が本当に多くなったと感じる。体にこたえる。
- 行政自らが率先し、省エネ対策を実施すること。
- 高齢者（特に一人暮らし）の方は、夏の暑い日はどのように過ごされているのか不安を感じることがあります。こまめに水分補給をとることや、屋内にいても熱中症になるということ、クーラーの効いた部屋から出ずに生活をすることも体調を崩す原因になることなど…。行政や自治体の方は、地域の高齢者についてどの程度把握し、どの程度関係を築けているのかということに疑問を感じます。
- 毎年熱中症が前年を上回るペースで発生することが心配。高齢者は暑さを感じにくく、汗をかくにくいと言われるが、もう今年のような猛暑が続くと扇風機では対応しきれないと思う。一人暮らしのお年寄りの家にエアコンを設置するようにできないものか…。
- 横浜方面から横須賀までの道路が、16 号または横横道路しかない。トンネルも多く、道路が土砂災害で通れなくな

ったら孤立してしまいそうで不安である。

- 原発は即時全面中止し、自然エネルギーに早く移行するべきだと思う。国民が少しずつ我慢すれば必ずできると思う。
- 色々なケースがあるから大変だと思う…。やるしかない。
- 個人でできる対策を最低限考えておくよう、または備えるよう、意識をもつようにと思っています。
- 現在私が暮らす三浦半島には、幸いにも他の地域に比べて災害は起きていません。しかし、他地域の災害を他人事とは考えていません。海が非常に近いため、台風シーズンはいつスーパー台風がやってくるのか不安です。また、年々暑さも厳しくなっているように感じます。一方、寒さもまた早くなっている気がします。日本の四季はおかしいと感じるのです。春と秋が短く、夏と冬が長いような気がするのです。今後の気候変動はまさに地球規模で起きていると強く感じます。大きな話になってしまいますが、この青い地球がいつまで人類の生存を許すのか不安に思います。
- 近年の暑さにとても不安があります。年齢的にも年を取ってくると行動をすぐに起こせない不安もあります。地域とのつながりを大切にしたいと思っています。
- 24時間の営業施設をやめる（病院、警察は除く）。また、緑地を増やす。
 - 横須賀（三浦半島）も30年以上前と比べるとかなり（自然）緑が減ったと思います。これ以上緑を減らさないでほしいです。・9月の防災の日や、3.11の節目などに避難所（体育館）で役立つものを作る体験など、中学生（小学校高学年、高校生）ができたらいいいのでは…。
- 市内の野比海岸や湘南海岸の砂浜が少なくなり、温暖化の影響なのかと不安である。
- 以前はセミの鳴き声で目が覚めるほどうるさく感じていたのに、ここ数年めっきり静かになったように思える。あまり見かけなくなったスズメバチが増えた。防災の意識はずいぶん増えたと思うが、行動が伴っているかどうかは自信がない。避難場所が住む場所から下っていくというのには疑問を感じる。
- 雨による水害がとても心配です。
- 地域でと言っても、一人暮らしで仕事をしているとなかなか参加できず難しい。情報の共有ができない。個人の意識を変えていくことが大切なのだと思う。犬などがいると避難所に行けないので、考えなければと思う。一人なので、家族でいる人に遠慮してしまうので、避難所での生活はかなり厳しいと思う。そうなったら孤立するしかないと思っている。助成金と言っても、税金から出ているので軽く言わないでほしい。助成金が正しく使われているか評価できるなら良いです。一人で暮らしている身としては、減税など縁遠い話なので…。
- 影響があるとわかってはいても、真夏のエアコンは熱中症予防には欠かせなくなっているし、例え我が家が使用を減らしたとしても、地球規模から考えなければ何も変わらない。皆が危機を感じ、一斉にやらなければ意味はない。物を手に入れたら手放すことは困難で、己の欲求が満たされれば他人がどうなろうと（地球がどうなろうと）構わないと思っている人が多いのも事実。地球が怒り出すのも仕方がない。変な気候はもう仕方がないことなのかも。
- 近年の災害はとても大きなものになっていますが、後になって以前から危険だと感じていた、または今度整備する予定だったなど、防げたはずという所が多いように思います。生活が便利になる一方で、災害を起こしているのも人間、という部分も大きいと感じます。すべてにおいて早めの対策と自らを守る備えが必要だと思います。
- 夏、日中は外を歩くことができなくなっているのではないかと思う。
- 昔に比べると熱中症の数が増えてきていると感じます。
- 電力の節電 ①テレビの深夜の中止 ②屋外ネオン等の深夜の中止 ③原子力発電所の中止→太陽光発電等への移行
- 一人暮らしなので台風や地震が心配です。
- いずれ人が生きていけなくなるほどどうしようもなくなると思う。今のうちに全世界で取り組むこと。

- 暑さや大雨、高潮などの警報や注意報などの情報は、スマホのアプリを利用して情報収集に努めていますが、自分の両親はガラケー利用でインターネットも利用しないので、本当に危ない警報 etc.は地域のスピーカーで確認をしています。スマホアプリ以外でもわかりやすい（誰でも利用できる）システムがあれば嬉しい。例えば、駅やスーパーなどでのアナウンス etc.電光掲示板？家にいたら厳しいですね…。
- 大雨の回数が増え（ゲリラ豪雨）、竜巻も増えて非常に怖い。今年も猛暑が続き、秋は長雨・・・心配です。去年のことは思い出すが、10年前はよく覚えていない。50年後は全くわからない。
- 短時間の大雨による農作物への影響で野菜などの値段が高くなったりするなど、温暖化による変化がこれ以上ひどくならないように、国民一人一人が実践すべきことを国指示したらいいのではないかと考えます。
- 無計画な開拓や、エネルギーの大量消費など、目先の利益のことだけ考えるのはやめて、緑化や再生可能エネルギーなどを本格的に実用に向けて整備してほしい。原発も、福島の問題で解決できないダメージや莫大な費用を考えたら、決して効率の良いエネルギーとは言えないと思う。もっと、未来のことを本気で考えてほしい。
- ハザードマップや、国や地方自治体の取り組みなどを確認したくても、パソコンがないとほとんどできなくなっているのがとても不便。パソコンがないのは高齢者だけではないことも知っていてほしい。町内会での回覧や、「海拔〇〇m」のような表示などで危険な所をわかりやすくしておいてほしい。特に観光地。
- 「地球温暖化」による気候の変化に限らず、市民は地震や津波、富士山爆発などを含む自然災害に対する国、地方自治体、研究機関等の防災対策に不安を抱いており、「地球温暖化」に特化したアンケートに違和感を覚えます。また、なぜ2回に分けてアンケートを行うのか？説明不足です。
- 不安は大きいのですが、設備を整えたり保険に加入するのにお金がかかるのは負担が大きく、やりたくてもできないことも多くなってしまうので、国や市などで対策を練っていただきたいです。
- テレビのニュースにより情報収集しているが、少し大げさに感じる時もある。公共機関による（市・県・国）、客観的でわかりやすい情報があるといいと思っています。
- 人類の人口が増加し、経済が活性化するほど、変化することから逃れることは、残念ながらできない。
- 横須賀市は津波被害に弱い地域だと思うので、市民が避難できる津波に強い建物を今からでもたくさん作るべきだと思う。高台避難地を各所に多数必要です。横須賀市は高台となる山や地区が非常に少ないです。すぐにでも対策してほしいです。あと、犬を飼っている人が多いので、対策されていると安心だと思います（エサや場所とか）。
- 防災とあわせて減災の対策も考慮していきたい。
- 近年、街路樹が少なくなっている気がする。道路の安全面を考えれば仕方ないことだけれども、歩行者だけでなく車の運転でも木陰や日陰が欲しいと思う。路面の照り返しがひどくてつらい、というか危険。横須賀は緑がまだ多いからか、海拔は近いのに意外と水はけの良い土地のようで驚いています。すぐ浸水しそうなのにしないし、雨上りの道の乾き方が早い感じがしました。
- 地震→津波→大雨→河川の氾濫、災害ごとに対策を考えないといけないので、日ごろの情報収集を怠らないようにしなければならない。
- 温暖化は化石燃料の使い過ぎによる。その認識を高めるべきと考える。原子力の研究、自然エネルギーの研究のもっと注力すべきと考える。
- 家を頑丈にする。
- 気候の変動については暑さが続くこと以外あまり感じません。横須賀市における市町村防災行政無線ですが、私の地域（佐原4丁目）は周りがマンションで囲まれているため、無線が聞き取れません。ご配慮をお願いいたします。
- 単なるアンケートを取るだけでなく、目に見える形で積極的な対策を取ってほしい。想定外だという言葉は言い訳に

しかすぎない。

- 近年の気候変動の要因は地球温暖化です。日本のみならず世界中で対策を練ることが必要だと思います。自分たちでは省エネなどできることを心がけています。
- 自分が子どものころは、暑くても 30 度ぐらいだったが、最近は 40 度近いことが当たり前になっている。国や地域としても何らかの対策を考えなければいけないと思う。
- 国や自治体にお金がなければ何もできません。個人ではどうにもなりません。
- 避難指示等を出す時のルートを短縮し、早めに出せる体制を作る。転宅等の多い地域等は、転入時行政センター等で説明できる資料を作り、配る（説明もする）。
- 私はもうすぐ 70 代になります。ですから、あと 20 年間は過ごすことができるとしますと、このアンケートは心配になります。でも私の孫の世代になるともっと…と思います。ですから今から今から心構えを考えておこうと思っていますが…。
- 9 月に秋雨前線、台風の影響で長雨があり、各地に甚大な被害をもたらしたが、これが温暖化の影響であれば深刻な問題と捉える。
- 今のような異常な状況は CO2 を大量に発生する火力発電や原発のような大きな工場や車など、我々にとって便利でなくてはならないものと引き換えになるものなので、多くの様々な方が頭を悩まし、激論をしている問題だと思います。ですが、そろそろ様々なご意見を一つにまとめ、しっかり前に進めていかないと、手遅れになる時期となっているように感じております。
- 夏場、省エネを心がけていますが、こうも暑いと熱中症になって病院通いになってしまうことを考えると、エアコンをつけざるをえない。ますます温暖化に影響してしまうと思う。問題はたくさんありますが、何か対策をしないと色々な所で被害が拡大していくと思う。
- 猛暑が続くと思っていたが、涼しい晩夏、初秋が訪れたかと思えば、大雨で各地に被害を与えていく。私は 40 代なのですが、子どものころは猛暑日という響きはなかったように思います。スコールのような滝のような雨も頻繁に起こる日々。堤防は整備されているはずなのに決壊したり。本当に近年の気候の変化には驚くばかりです。ただ、報道で異常気象と連日報道されるのには、まったくもって不愉快に思えます。
- 必要のない工事等を減らし、本当に市のためにお金を使っていくべきである。また、国はそういう自治体のフォローをしていくべきである。近年、横須賀市の人口は減っており、世帯収入も減少している中で、市がどのようにこの状況を改善していくか期待している。また、自分も力になりたい！！
- 近年、日本だけでなく世界的に自然災害が多くなり、不安に思っています。すべて地球温暖化と関係するものかと思われます。
- 大雨や雨の量が強く、多く、崖崩れが起きる可能性があるところは被害を軽減できるように工事を行ってほしい。
- 台風の強大化には大変心配しています。
- 身近な地域の定義が分からない。現居住地のことなのか、長く住んでいた所なのか、回答の前提となる場所なのにそれがわからないのでは回答しにくいし、回答がブレてしまう。
- 不安をではなく、希望を語ることのできる人の出現が先だと思います。
- 地球は太陽系における惑星の一つであることから、太陽等から受ける様々な影響、地球自体、人類等の今までの変化がこれからどのようになっていくか予想し、対策し、変化に適応した生活をしていかなければならないのでは。各分野の科学者に期待したい。
- 横須賀市はもっとハザードマップを配布すべき。台風や津波に対しての安全サービスがないのが残念。私は地域の断

層マップは手に入れている（危険回避のため）。もっと市政に働きかけてほしい。

- 暑い日（夜）や豪雨が昔より増えたように思う。また、雪が平均的に降らなくなったように感じる。（2〜30 年前は年に数回、横須賀市南部でも降っていたが、徐々に降らなくなってきた。）近年、集中豪雨で横須賀が陸の孤島と化す（電車が止まったりする）ことが多いため、土砂崩れ等の対策を行政にはお願いしたい。
- CO2 の排出の原因となる化石燃料に頼らず、再生可能エネルギーの普及を。
- 私の住んでいる所は高台と地下が固い地層となっています。したがって、あまり災害に対して深く考えたことがありません。
- 蚊が増えたり、熱帯地域での病気が増えつつあるみたいなので、とても怖いです。温暖化 STOP はもっとどうにかならないのでしょうか。
- 各自が自宅周りの危険箇所（どこがどのように危険なのか）を把握する必要性を感じる。
- 近年温暖化により、今までの日本には生息していなかった害虫の増加、伝染病の蔓延への対応が後手に回っていることへの不安、気温上昇による農作物への悪影響が大変心配です。想定外の災害が多発している近年に、どのようにどこまでの準備が必要なのか不安です。
- 都内に勤めていますので、地元の日中のことは休日しかわかっておりません。
- 「身近な地域」での砂浜の浸食は気候の変化による影響ではなく、護岸工事によるものだと思います。
- 10〜20 年の単位で大きく変化が生じると思います。
- 以前行っていたように車の排気ガスを強く規制する。緑化を積極的にする。
- 温暖化による気候変化を抑えるための対策は必要だと思うが、世界規模で一斉に、かつ長期的に行わなければ無意味だと思う。気候の変化に合わせて私たちの常識を変化させていかなければいけないと思う。
- 自然の力にはかなわない！自分の身は自分たちで守らなければいけないと思う。けれど、国や地域で最低限の情報を流してほしい！
- 気温の上昇に伴い、自宅内だけでなく職場での室温調整やきちんと休憩できる環境が整っていないと、体が休まらず、体調がすぐれないまま業務を行う日が増えてきている気がします。事業主への指導も大切だと思います。
- 海や川が身近にある地域だけに、これからも自分でどんどん情報を仕入れて身を守る体制を作らなければならないと思う。いざという時、自分を守るのは自分。
- 水産業・農業・生活時間帯の変化について、それぞれこれまでとは全く異なるものになると思う。これまで生息していた動植物もすべてが変化していくことになると思う。「緑化計画」と世界規模で唱えているが、その反面で人間のエゴになる森林の伐採が行われていたり。某アジアの国（隣の国）では PM2.5 なる化学物質を通年世界中にまき散らしている。このままでは 20〜30 年で最悪の事態になりうることも考えられる。オゾンホールの大きさも近年ではニュースにならないが、ならないからこそとても危険なレベルに達しつつあるのではないかと思います。地球が悲鳴を上げていることに皆が気づき、行動を早急に行わなければならない時期に入っているように思う。私たち一般人ができることを明確に提示する必要があると思う。
- 確実に数十年前と比べると気候は変化してきていると思うので、国や行政、そして自分自身も、その時その時に適した対策をしていかなければいけないと思う。

3. クロス集計の結果

◆各設問について性別（男性・女性）と年齢層別（20～30 歳代、40～50 歳代、60 歳代）とのクロス集計を行った。独立性の検定（ χ^2 検定）の結果、有意水準 5%で統計的に有意な関連（違い）が見られた項目は次表の網掛けの項目である（数値は p 値）。以下では、これらの関連の詳細について述べる。

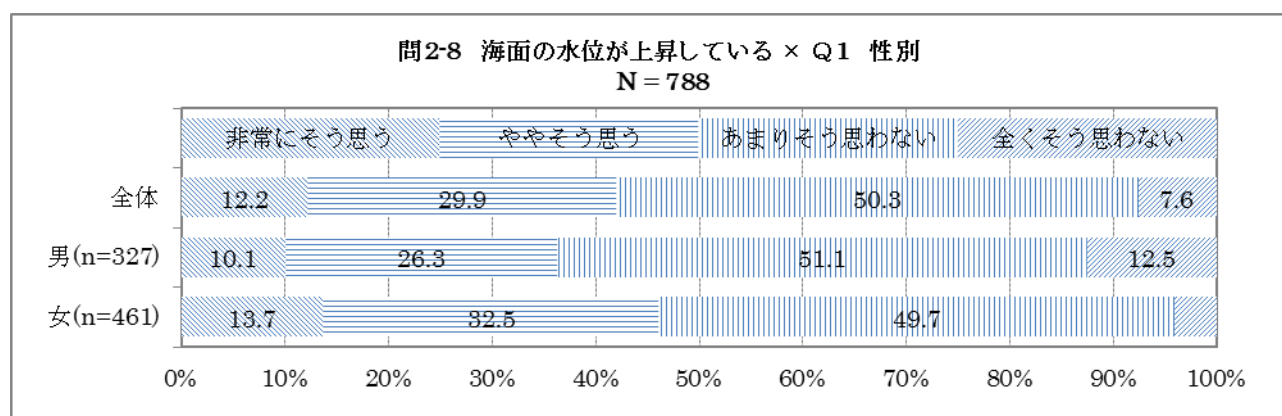
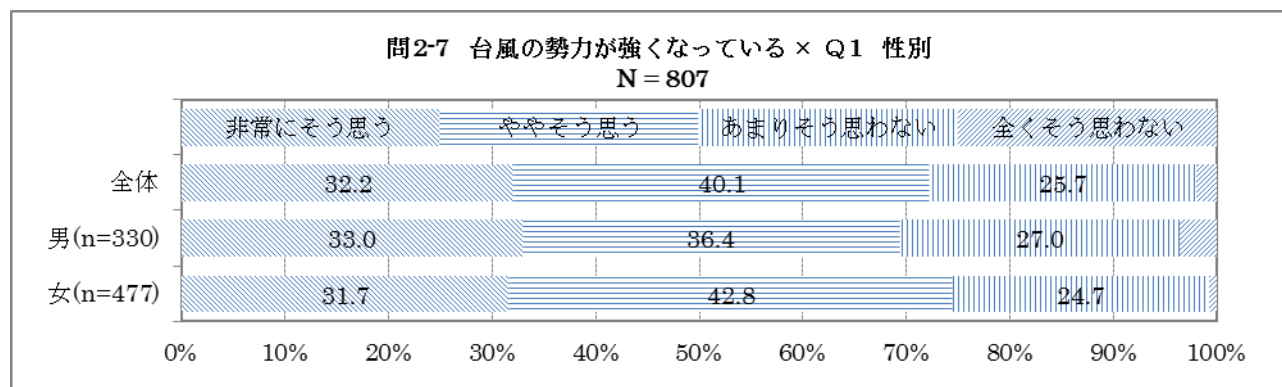
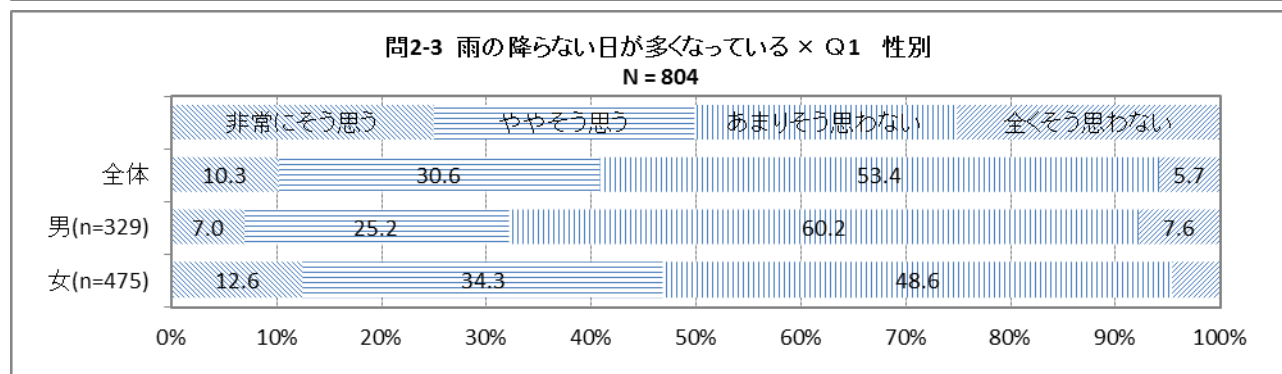
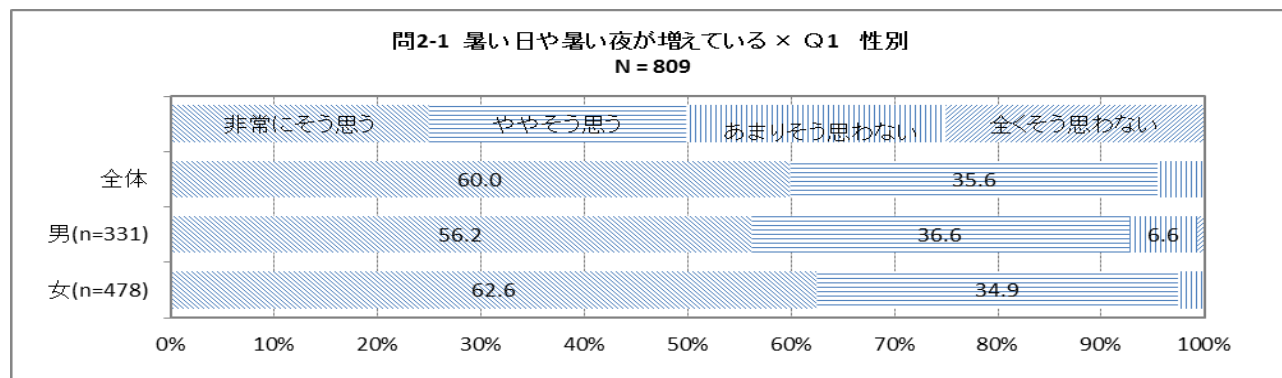
分野	質問項目	性別	年齢層別
近年の気候変化の実感	問1 身近な地域ではここ数年間の気候は変化した	0.33	0.00
	問2-1 暑い日や夜が増えている	0.01	0.01
	問2-2 猛暑の続く期間が長くなっている	0.08	0.01
	問2-3 雨の降らない日が多くなっている	0.00	0.02
	問2-4 寒い日や寒い夜が減っている	0.79	0.00
	問2-5 短時間に降る雨の量が増えている	0.11	0.00
	問2-6 短時間の強い雨の回数が増えている	0.21	0.01
	問2-7 台風の勢力が強くなっている	0.03	0.03
	問2-8 海面の水位が上昇している	0.00	0.01
近年の気候変化による影響の実感	問3 身近な地域でここ数年間の気候の変化で何らかの影響や被害が生じている	0.06	0.00
	問4-1 熱中症など暑さによる健康への被害が増えている	0.00	0.00
	問4-2 デング熱など蚊が媒介する感染症が広がっている	0.00	0.46
	問4-3 短時間に降る強い雨により浸水被害が増えている	0.09	0.08
	問4-4 短時間に降る強い雨により土砂災害が増えている	0.00	0.10
	問4-5 雨が降らない日が多くなり、水不足といった渇水が増えている	0.03	0.79
	問4-6 砂浜の浸食がこれまでよりも激しくなっている	0.02	0.01
	問4-7 高潮や波浪などの高い波による浸水被害が増えている	0.02	0.42
	問4-8 桜の開花が早くなり、紅葉が遅くなるなどの変化が生じている	0.11	0.27
	問4-9 身近なところの生き物の種類が変化している	0.00	0.09
	問4-10 近くで収穫される農林水産物の種類が変化している	0.01	0.06
	問5 身近な地域でここ数年間の気候の変化による影響や被害はどの程度深刻だと思いますか	0.00	0.05
将来の気候変化の認識	問6 身近な地域では将来（およそ50年後）の気温や降水量などの気候は現在に比べて変化する	0.13	0.07
	問7-1 暑い日や暑い夜が増える	0.00	0.06
	問7-2 猛暑の続く期間が長くなる	0.02	0.02
	問7-3 雨の降らない日が多くなる	0.00	0.27
	問7-4 寒い日や寒い夜が減る	0.03	0.03
	問7-5 短時間に降る雨の量が増える	0.00	0.03
	問7-6 短時間の強い雨の回数が増える	0.01	0.11
	問7-7 台風の勢力が強くなる	0.00	0.11
	問7-8 海面の水位が上昇する	0.00	0.35
将来の気候変化による影響の認識	問8 身近な地域では将来（およそ50年後）の気候の変化で何らかの影響や被害が生じる	0.07	0.53
	問9-1 熱中症など暑さによる健康への被害が増える	0.00	0.09
	問9-2 デング熱など蚊が媒介する感染症が広がる	0.00	0.47
	問9-3 短時間に降る強い雨により浸水被害が増える	0.00	0.24
	問9-4 短時間に降る強い雨により土砂災害が増える	0.00	0.07
	問9-5 雨が降らない日が多くなり、水不足といった渇水が増える	0.00	0.93
	問9-6 砂浜の浸食がこれまでよりも激しくなる	0.00	0.42
	問9-7 高潮や波浪などの高い波による浸水被害が増える	0.00	0.15
	問9-8 桜の開花が早くなり、紅葉が遅くなるなどの変化が生じる	0.00	0.81
	問9-9 身近なところの生き物の種類が変化する	0.00	0.58
	問9-10 近くで収穫される農林水産物の種類が変化する	0.00	0.89
	問10 身近な地域で将来の気候の変化による影響や被害はどの程度深刻になると思いますか	0.00	0.13

分野	質問項目	性別	年齢層別
気候変化による影響への対策についての評価	問11-1 危険な地域を示すハザードマップや熱中症対策のマニュアル等を作成し、配布する	0.05	0.30
	問11-2 猛暑や大雨などの危険を知らせる警報システムを整備し、運用する	0.00	0.25
	問11-3 職場や学校などで防災訓練や防災教育を実施する	0.00	0.17
	問11-4 自治会など地域において住民が自主的な防災組織をつくり、活動する	0.00	0.10
	問11-5 緑化や雨水浸透ますなどを設置する企業や家庭に補助金をだす	0.04	0.10
	問11-6 浸水などの気象災害による被害を補償する保険制度を整備し、加入を促す	0.04	0.58
	問11-7 洪水調整池や緊急避難所など被害を軽減するための施設を整備する	0.00	0.72
	問11-8 堤防や土砂崩れ対策など被害を未然に防ぐ設備を整備する	0.00	0.75
	問11-9 危険地域からの移転や開発行為の禁止など土地利用の規制を行う	0.00	0.01
	問11-10 高齢者世帯等への指導やケアを行う制度を作り、実施する	0.00	0.34
	問12-1 国や地方自治体が責任をもって、地域を守る対策を行うべきである	0.11	0.98
	問12-2 家庭や個人が責任をもって、自分の家族や自分自身を守る対策を行うべきである	0.00	0.03
	問12-3 企業や学校などが責任をもって、社員や生徒を守る対策を行うべきである	0.00	0.75
	問12-4 町内会などの地域団体や住民団体が、地域を守る対策を行うべきである	0.00	0.44
対策への取り組み	問13-1 ハザードマップなどで危険箇所や避難場所・避難経路を確認する	0.00	0.00
	問13-2 暑さや大雨に関する警報や注意報などの情報を積極的に収集する	0.00	0.00
	問13-3 地域や職場における防災訓練や防災教育に参加する	0.01	0.93
	問13-4 消防団など地域における自主的な防災組織に参加する	0.00	0.00
	問13-5 非常用持ち出し袋など避難のための備えをする	0.00	0.02
	問13-6 家屋の補強や飛びそうなものの固定などを行う	0.00	0.01
	問13-7 浸水などの気象災害を対象にした保険に加入する	0.01	0.09
	問13-8 危険な地域には住まないあるいは引っ越しをする	0.09	0.01
気候変化による影響への不安感	問14-1 大雨の回数や雨の量が増えるかもしれない	0.03	0.86
	問14-2 台風の勢力が強くなるかもしれない	0.02	0.02
	問14-3 猛暑の続く期間が長くなるかもしれない	0.00	0.07
	問14-4 近くで浸水や洪水が起こるかもしれない	0.00	0.01
	問14-5 近くでがけ崩れが起こるかもしれない	0.00	0.09
	問14-6 自分も熱中症になるかもしれない	0.01	0.21
	問14-7 避難ルートが通れなくなるかもしれない	0.00	0.72
	問14-8 避難しても避難所で生活できるだろうか	0.00	0.15
	問14-9 救助体制はできているのだろうか	0.00	0.71
	問14-10 停電になるかもしれない	0.00	0.70
	問14-11 断水になるかもしれない	0.00	0.25
	問14-12 電話やメールが通じなくなるかもしれない	0.00	0.30
	問14-13 自分の家族は大丈夫だろうか	0.00	0.00
	問14-14 一人暮らしの高齢者は大丈夫だろうか	0.00	0.22
	問14-15 障害のある方たちは大丈夫だろうか	0.00	0.18

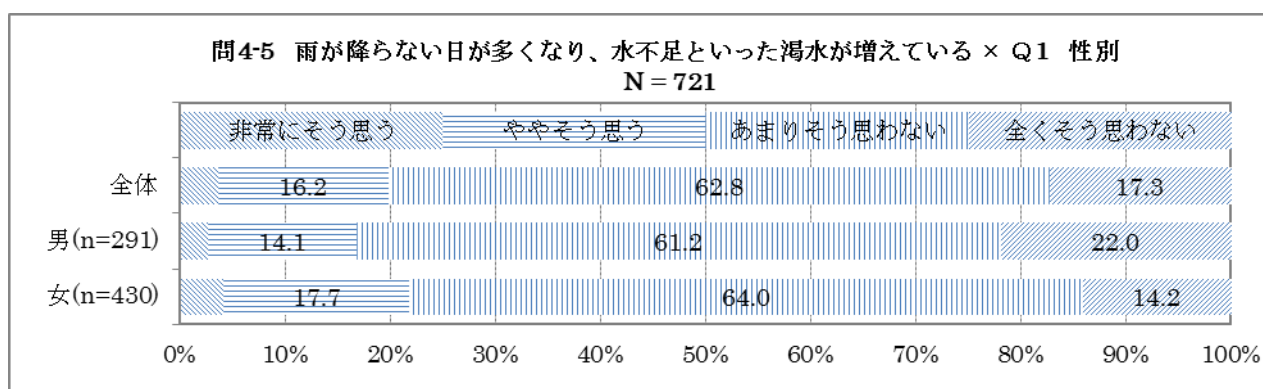
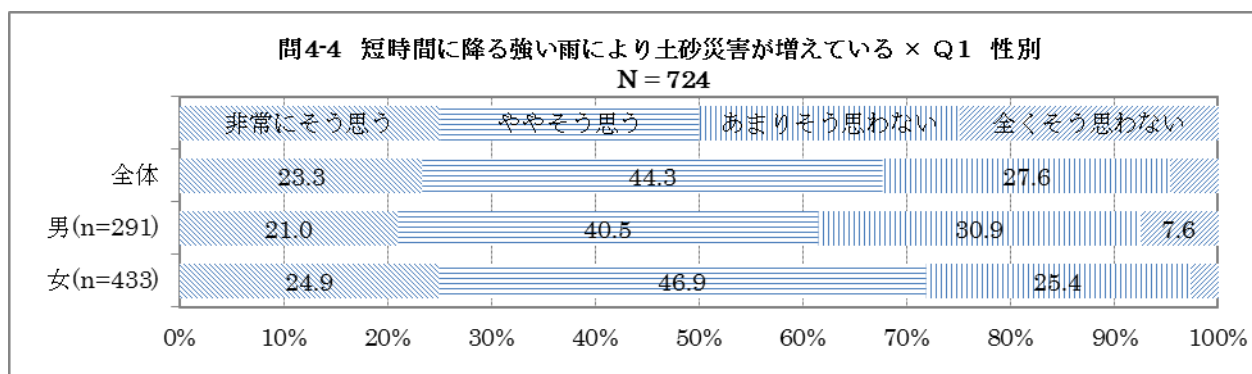
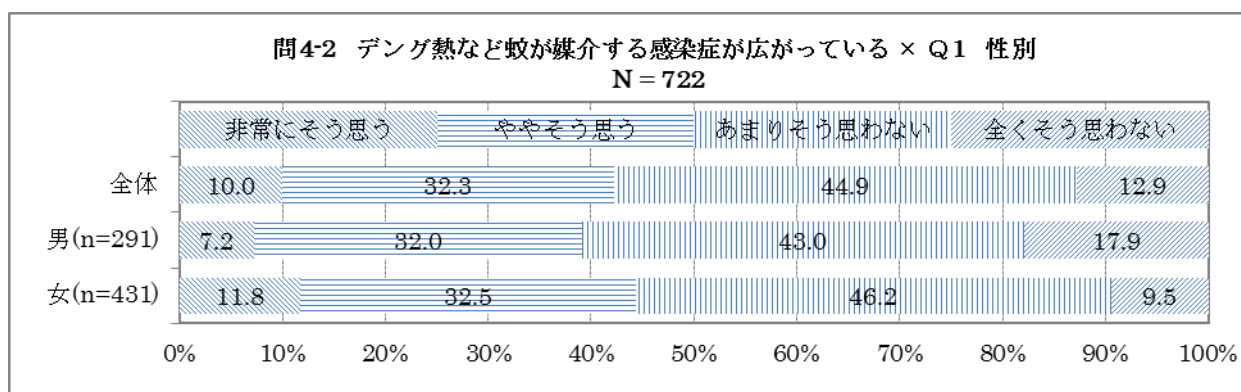
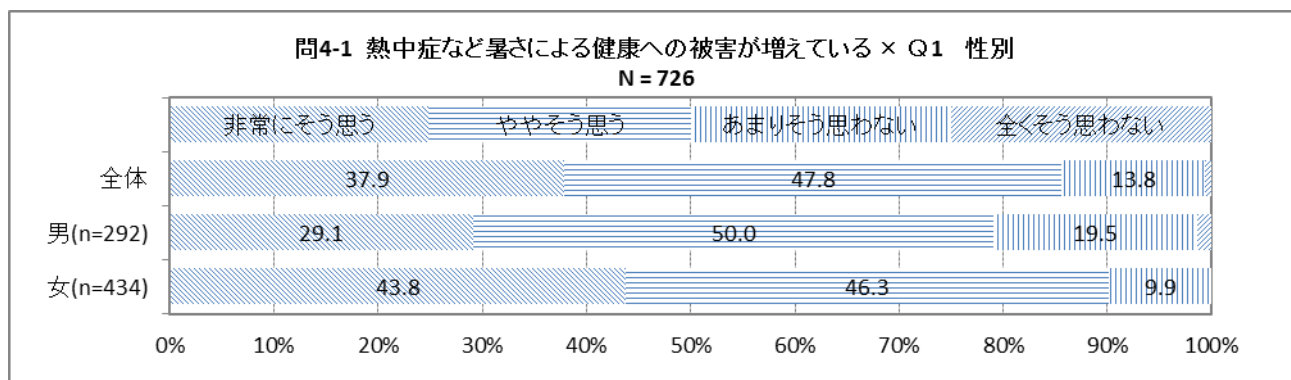
注:回答数が最も少ないカテゴリーは隣接するカテゴリーとの統合を行った

3-1. 性別による回答の違い

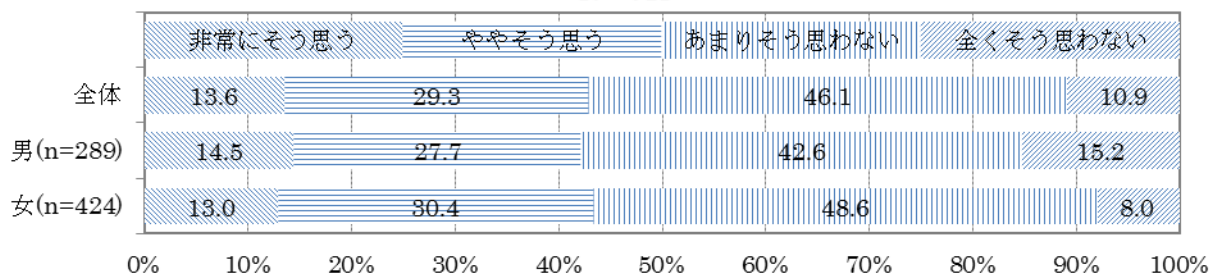
(1) 近年の気候の変化及びその影響に対する実感



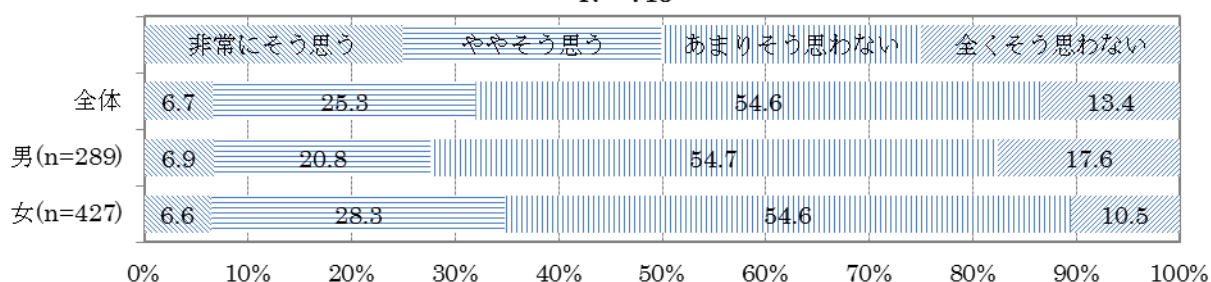
◆具体的な気候の変化では、「暑い日や暑い夜が増えている」「雨の降らない日が多くなっている」「海面の水位が上昇している」の3つの項目において、男性よりも女性の方が「非常にそう思う」と回答した人の比率が高く、「雨の降らない日が多くなっている」や「海面の水位が上昇している」では「ややそう思う」でも女性の方が高くなっている。さらに、「台風の勢力が強くなっている」では、男性よりも女性の方が「ややそう思う」とする回答が多くなっている。



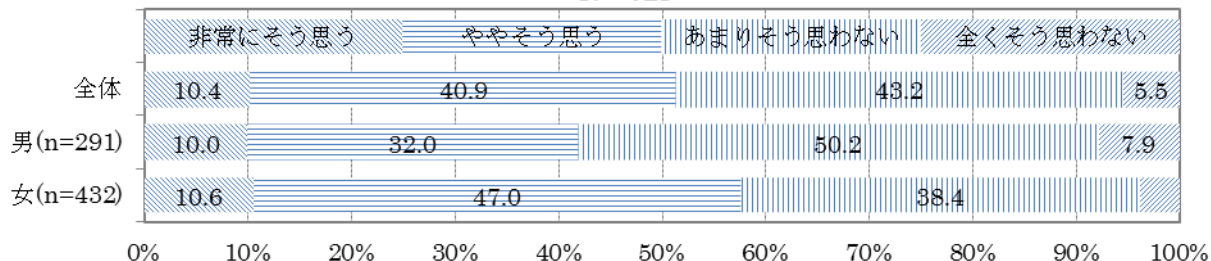
問4-6 砂浜の侵食がこれまでよりも激しくなっている × Q1 性別
N = 713



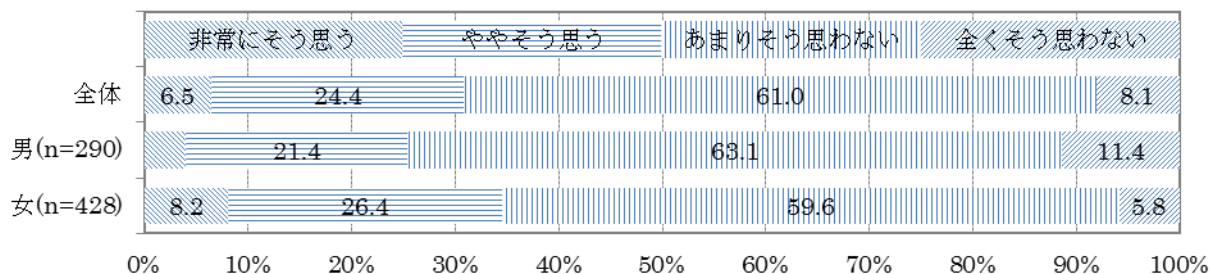
問4-7 高潮や波浪などの高い波による浸水被害が増えている × Q1 性別
N = 716



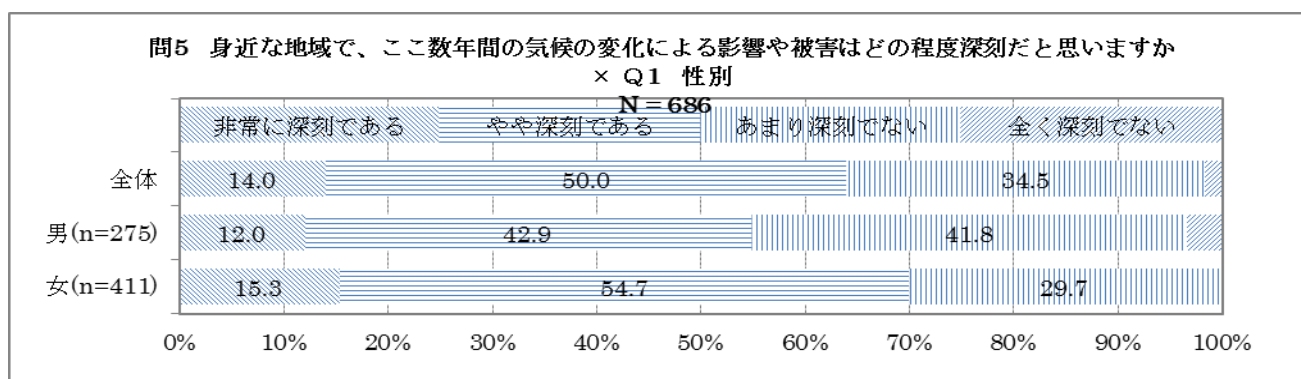
問4-9 桜の開花が早くなり、紅葉が遅くなるなどの変化が生じている × Q1 性別
N = 723



問4-10 近くで収穫される農林水産物の種類が変化している × Q1 性別
N = 718

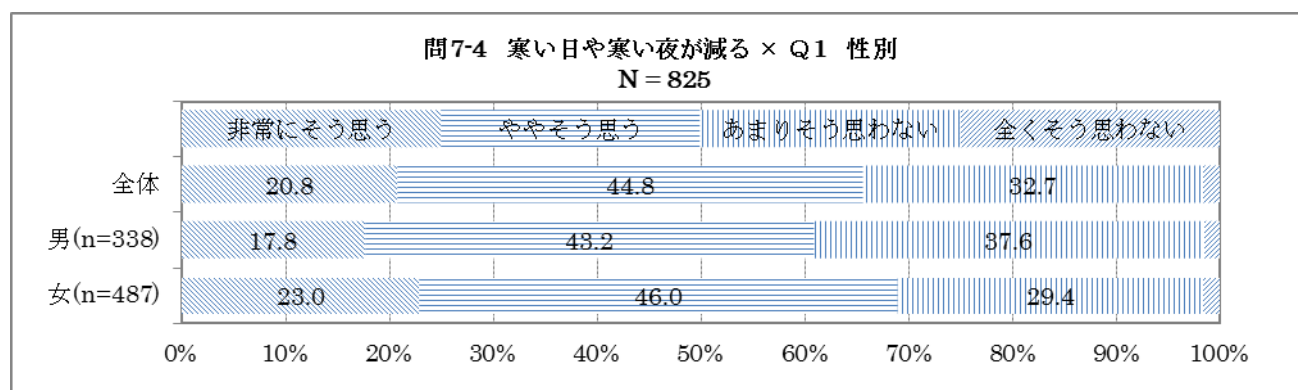
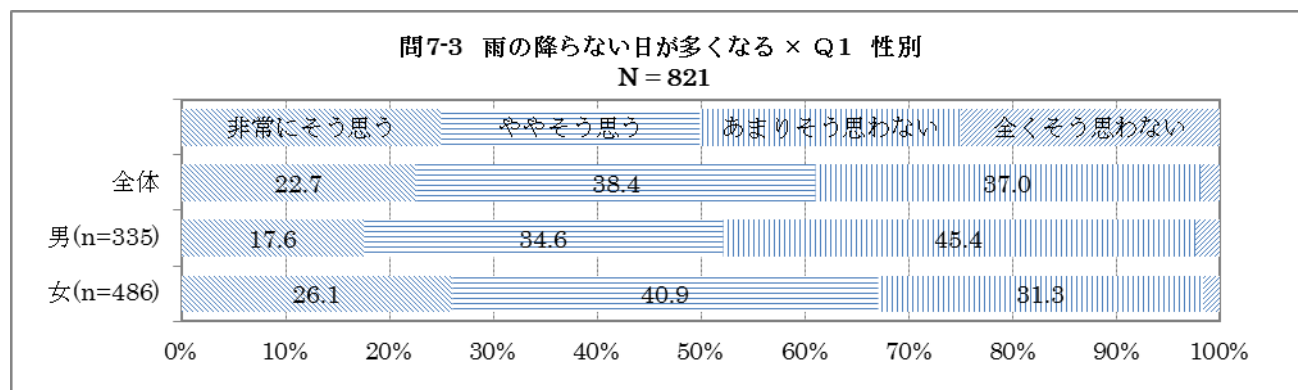
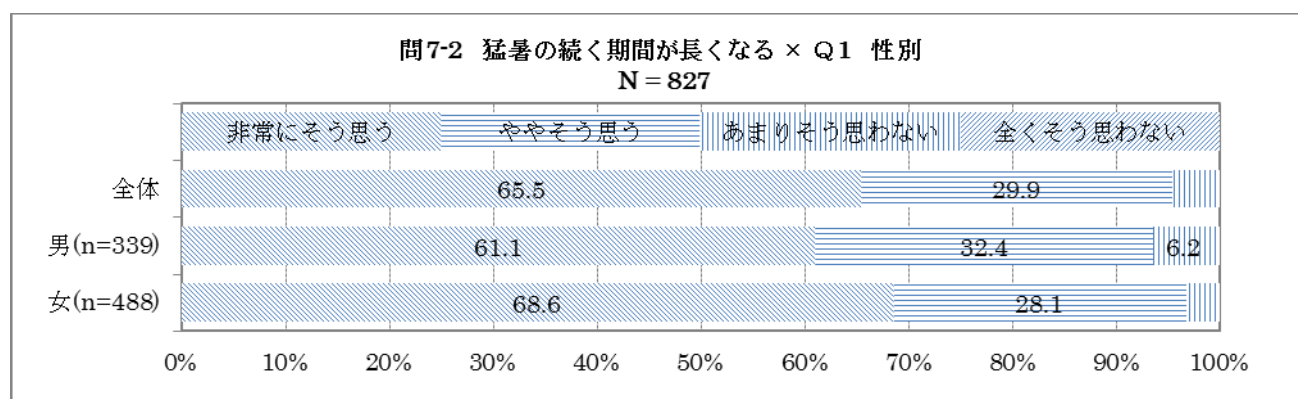
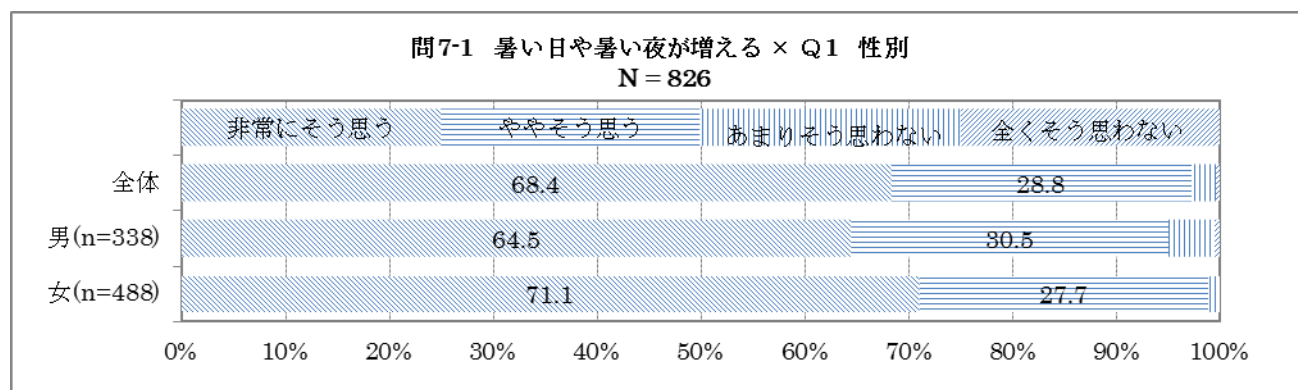


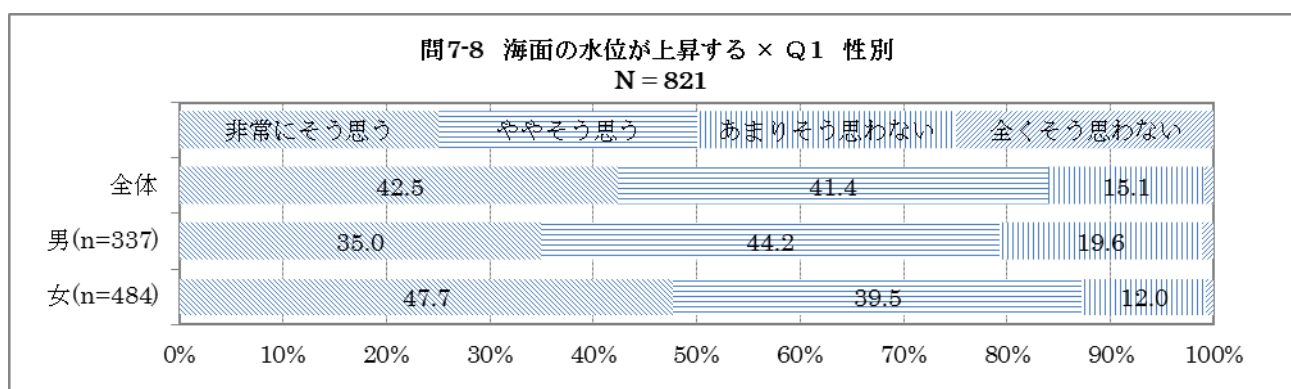
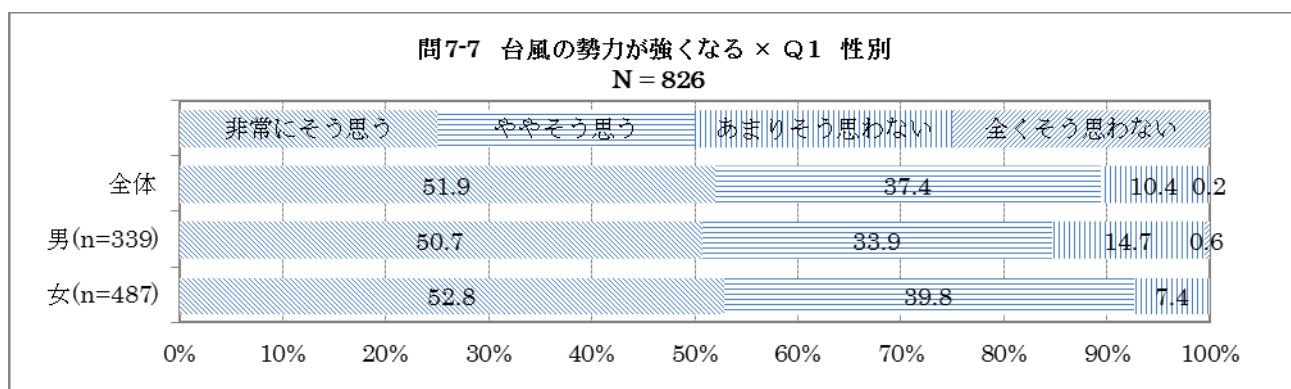
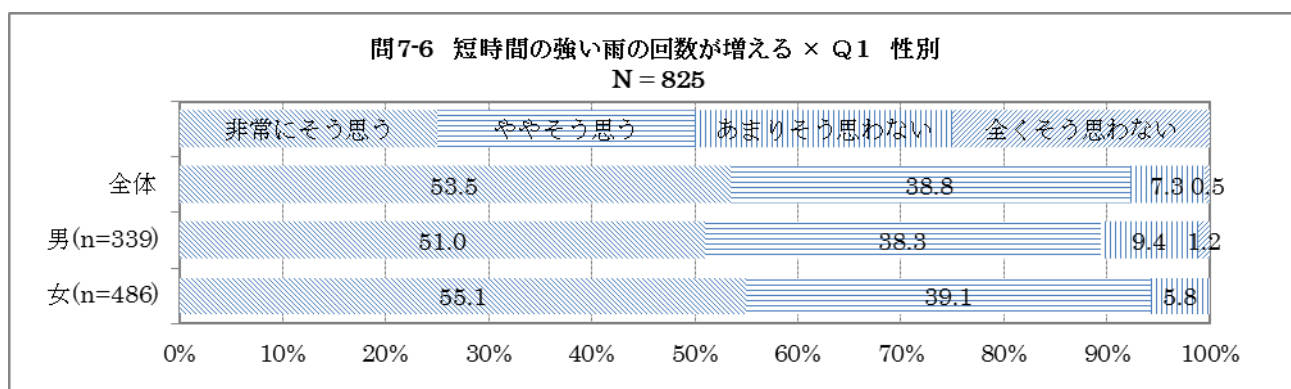
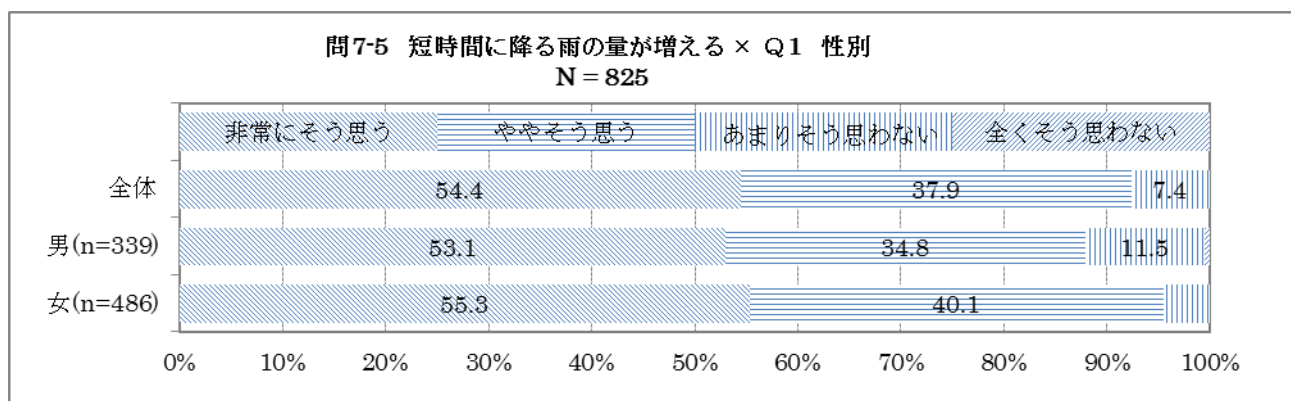
◆具体的な影響では、ほとんどの項目で影響が増えていることに対して女性の方が「ややそう思う」と回答した人の比率が高くなっている。また、「熱中症などの健康への被害」や「短時間に降る強い雨による土砂災害」などでは、「非常にそう思う」と回答した人の比率が女性のほうが高くなっている。



◆女性の方が、身近な地域でここ数年間の気候の変化による影響や被害が「非常に深刻である」とする回答がやや多く、「やや深刻である」と回答した人の比率は10ポイント以上多くなっている。このように、女性の方が近年の変化とその影響について男性よりも実感が強くなっている。

(2) 将来の気候の変化とその影響に対する認識

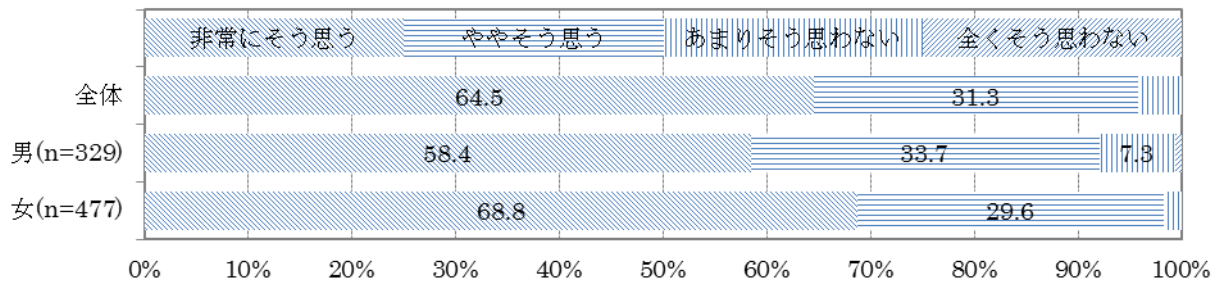




◆将来の具体的な変化についても、すべての項目において男性よりも女性の方が「非常にそう思う」と回答した人の比率が高く、「雨の降らない日が多くなる」や「寒い日や寒い夜が減る」「短時間に降る雨の量が増える」「短時間の強い雨の回数が増える」「台風の勢力が強くなる」などでは「非常にそう思う」と「ややそう思う」のいずれにおいても男性よりも女性の方が回答した人の比率が高くなっている。

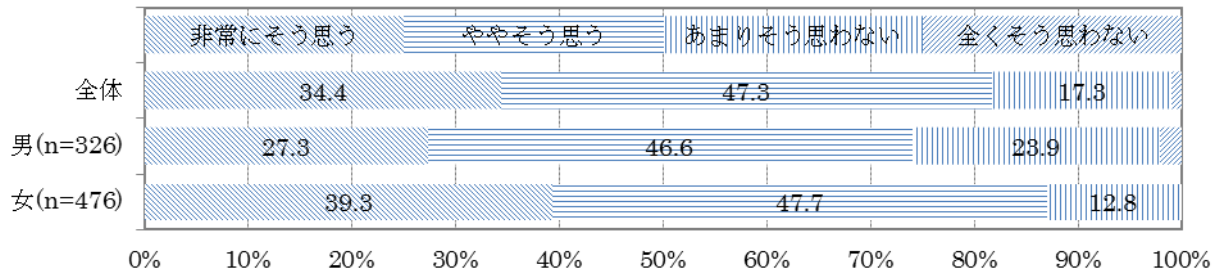
問9-1 熱中症など暑さによる健康への被害が増える × Q1 性別

N = 806



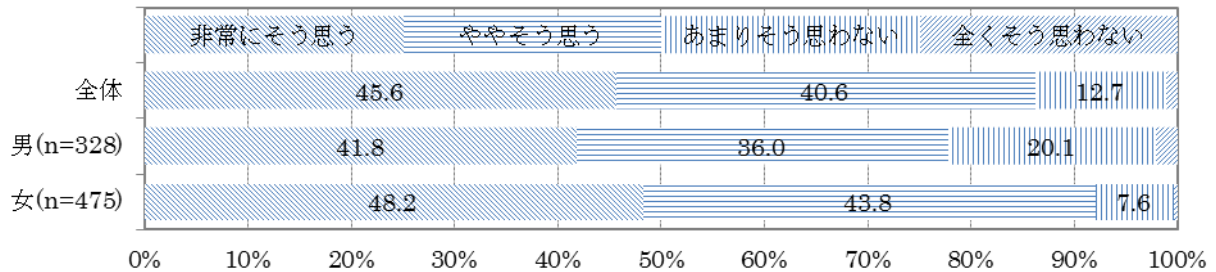
問9-2 デング熱など蚊が媒介する感染症が広がる × Q1 性別

N = 802



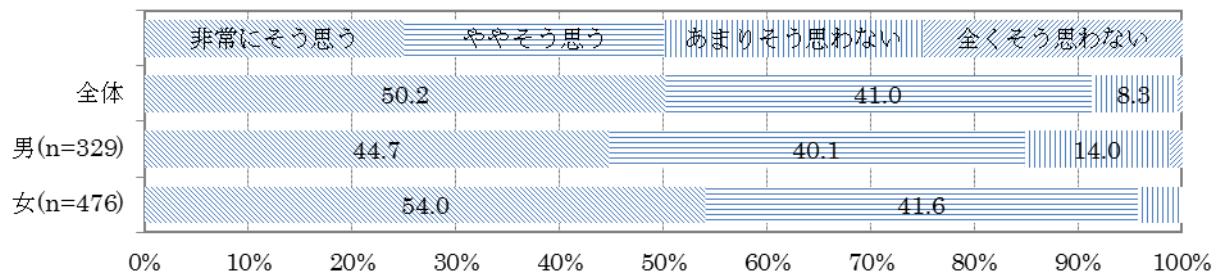
問9-3 短時間に降る強い雨により浸水被害が増える × Q1 性別

N = 803

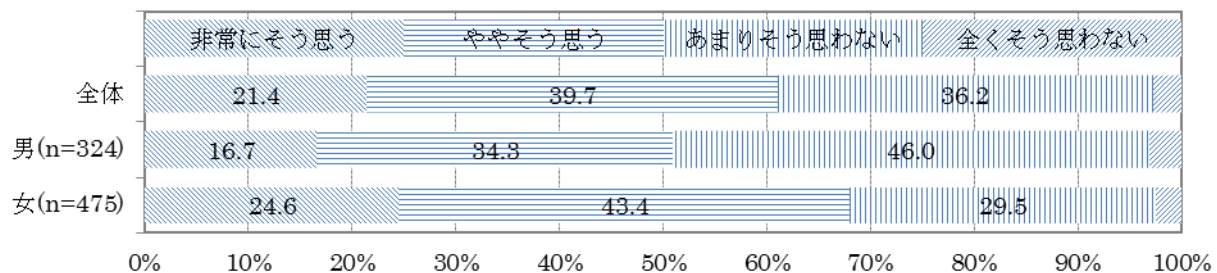


問9-4 短時間に降る強い雨により土砂災害が増える × Q1 性別

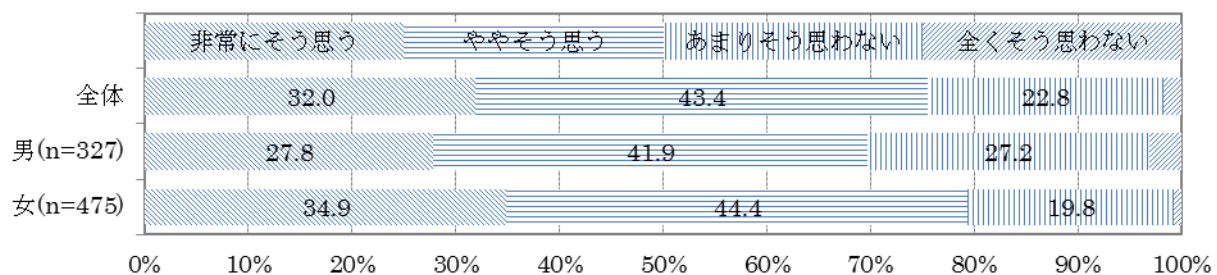
N = 805



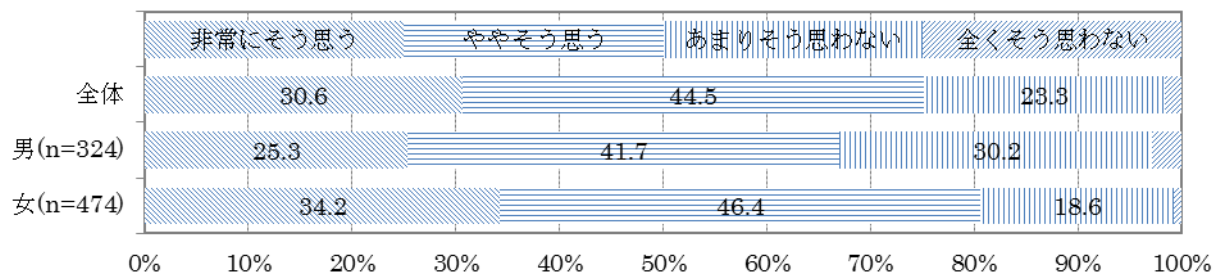
問9-5 雨が降らない日が多くなり、水不足といった渇水が増える × Q1 性別
N = 799



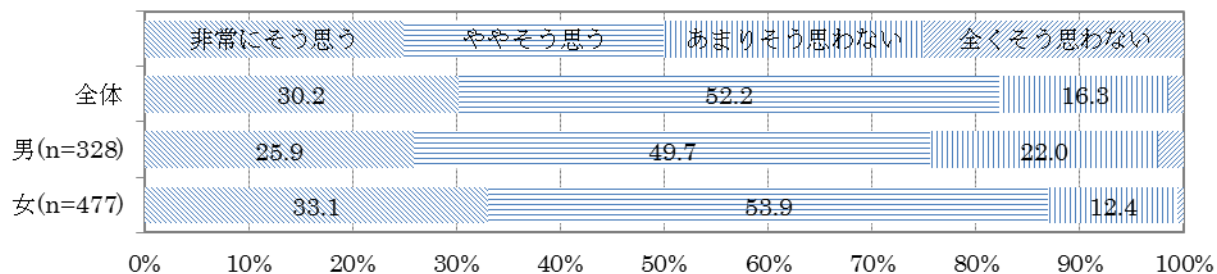
問9-6 砂浜の侵食がこれまでよりも激しくなる × Q1 性別
N = 802

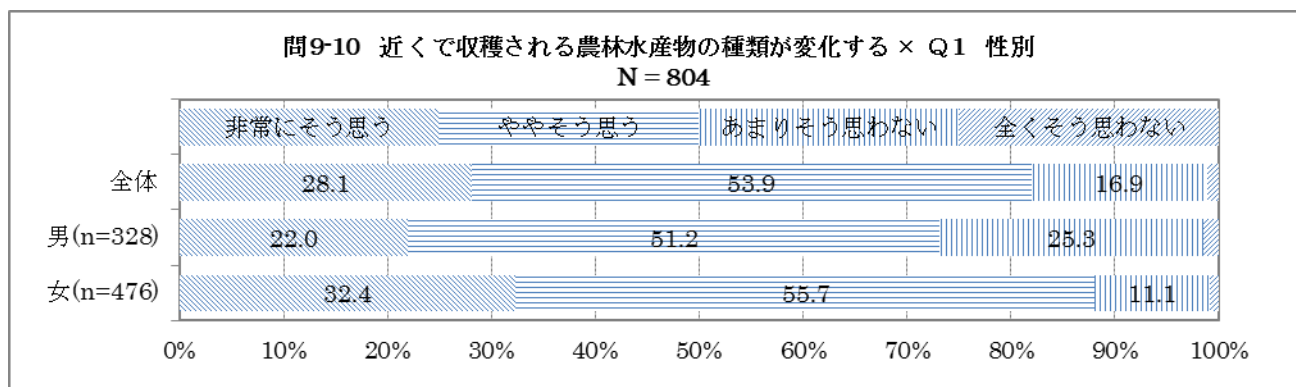
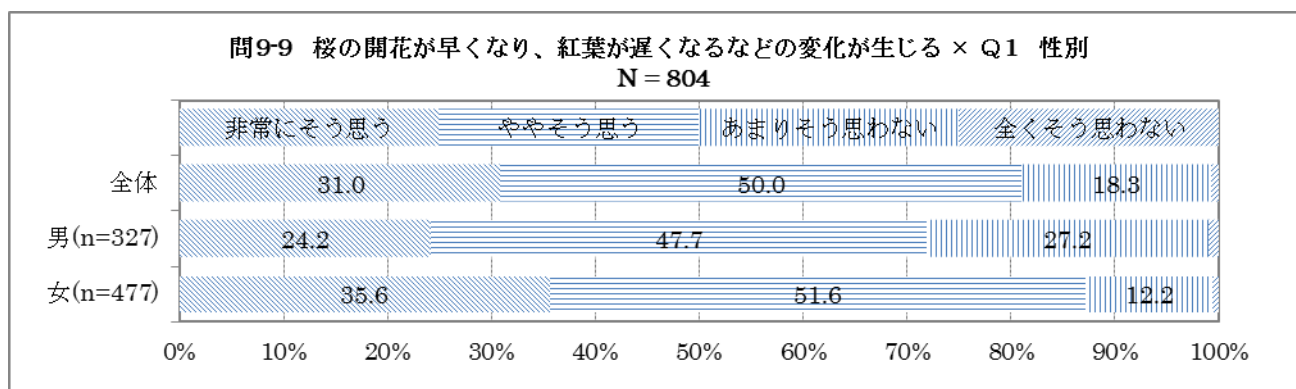


問9-7 高潮や波浪などの高い波による浸水被害が増える × Q1 性別
N = 798

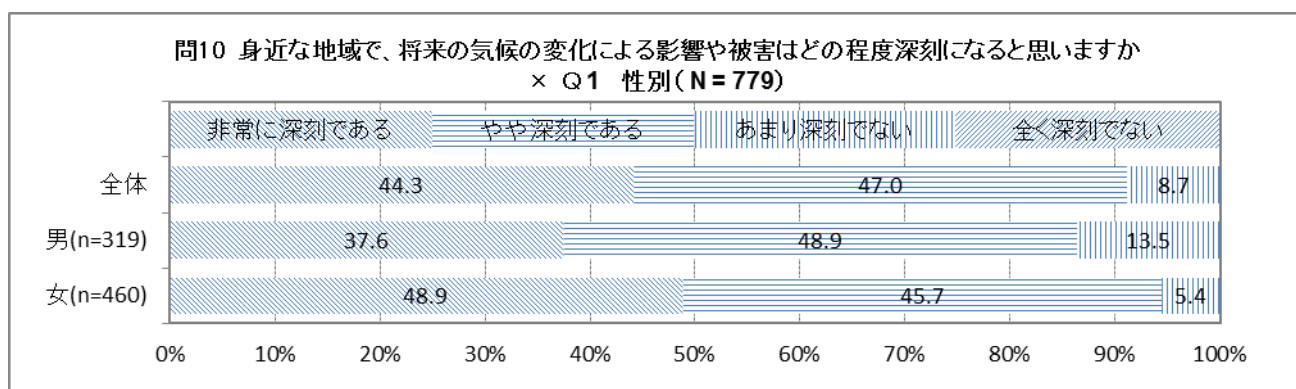


問9-8 身近なところの生き物の種類が変化する × Q1 性別
N = 805





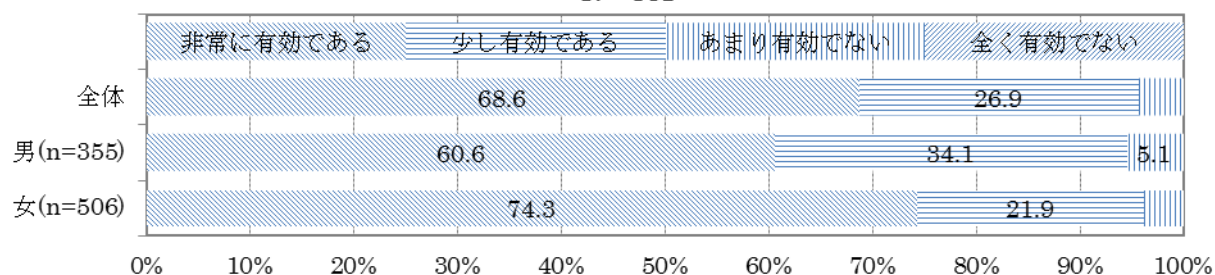
◆将来の気候変化による具体的な影響についてもすべての項目において、女性の方が「非常にそう思う」と回答した人の比率が高く、「熱中症などの暑さによる健康への被害が増える」を除いた項目ではいずれも「ややそう思う」でも女性の方が回答した人の比率が高くなっている。



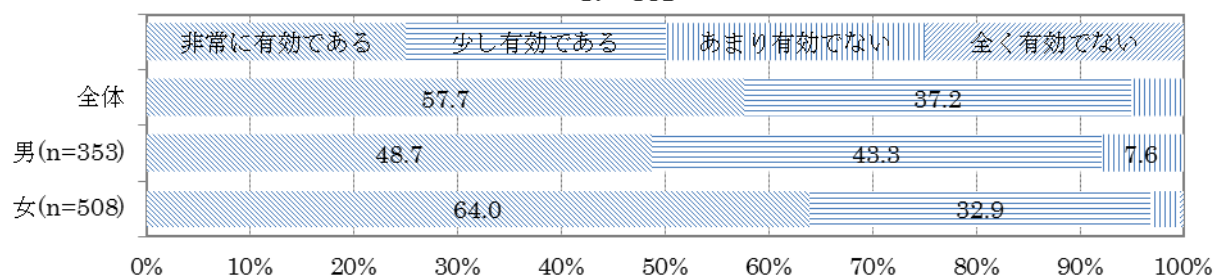
◆将来の気候変化による影響について、男性よりも女性の方が「非常に深刻になる」と回答した人の比率が高くなっている。

(3) 気候の変化による影響への対策に関する認識と取り組み

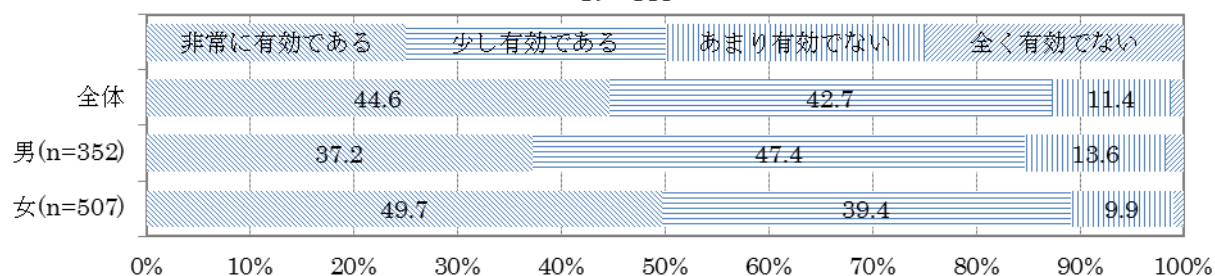
問11-2 猛暑や大雨・高潮などの危険を知らせる警報システムを整備し、運用する × Q1性別
N = 861



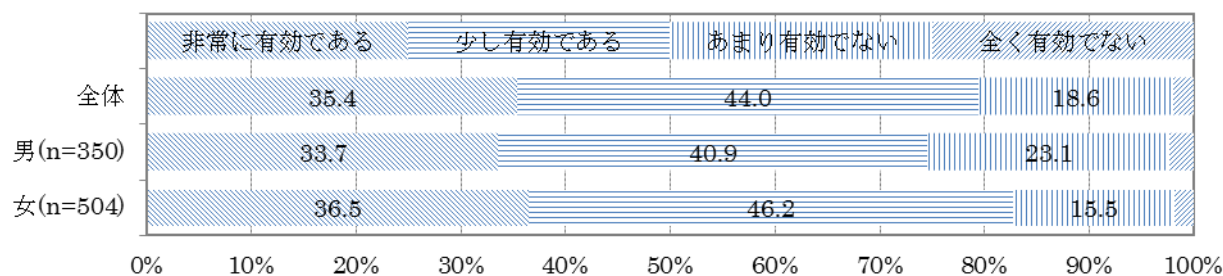
問11-3 職場や学校などで防災訓練や防災教育を実施する × Q1 性別
N = 861



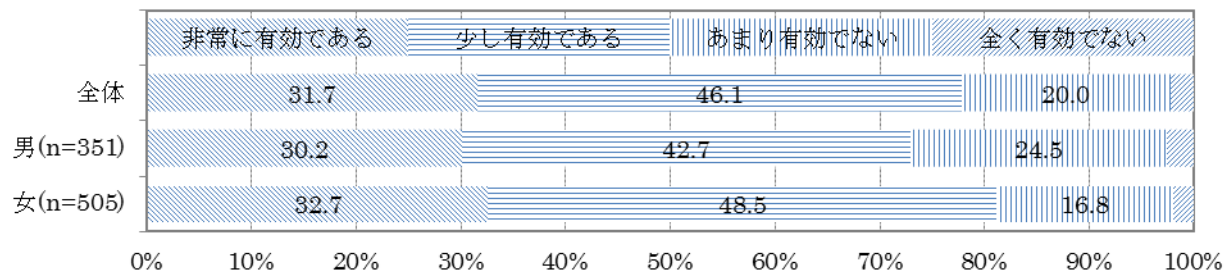
問11-4 町内会など地域において住民が自主的な防災組織をつくり、活動する × Q1 性別
N = 859



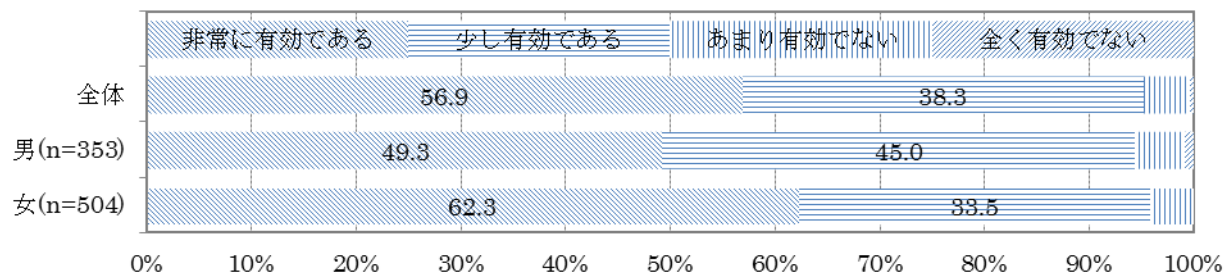
問11-5 緑化や雨水浸透ますなどを設置する企業や家庭に補助金をだす × Q1 性別
N = 854



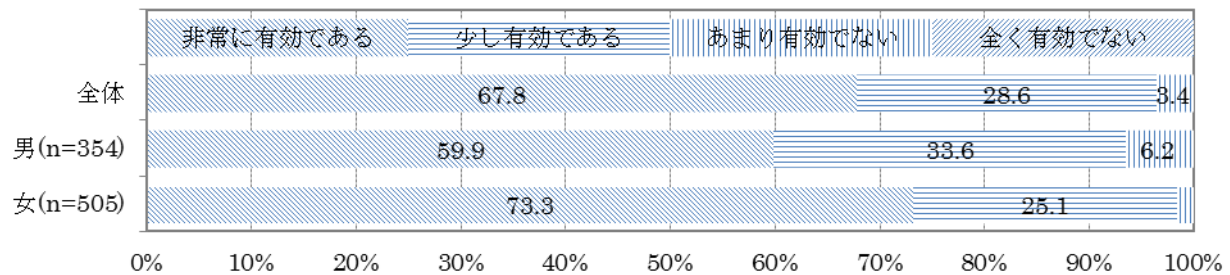
問11-6 浸水などの気象災害による被害を補償する保険制度を整備し、加入を促す × Q1性別
N = 856



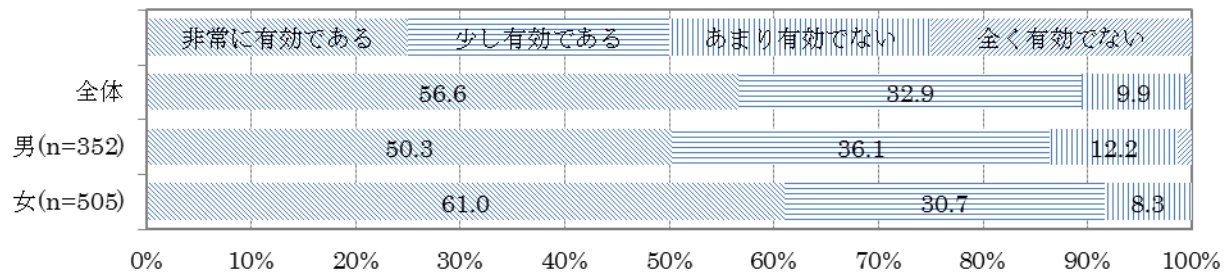
問11-7 洪水調整池や緊急避難所など被害を軽減するための施設を整備する × Q1 性別
N = 857



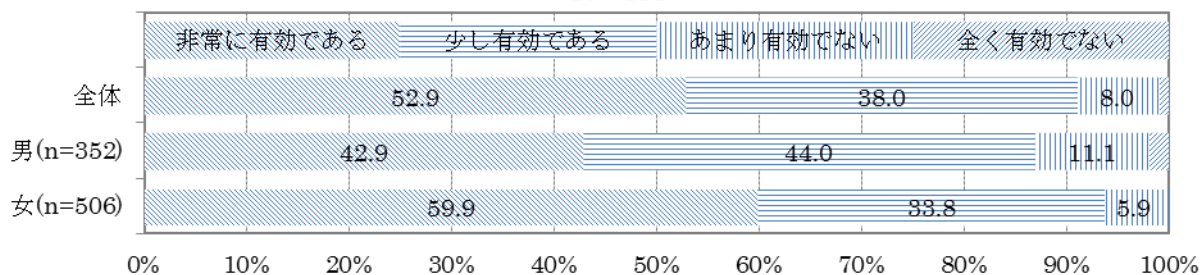
問11-8 堤防や護岸、土砂崩れ対策など被害を未然に防ぐ設備を整備する × Q1 性別
N = 859



問11-9 危険地域からの移転や開発行為の禁止など土地利用の規制を行う × Q1 性別
N = 857

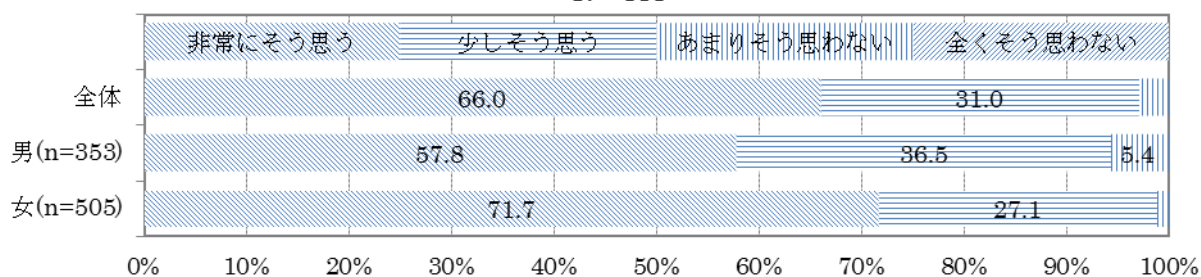


問11-10 高齢者世帯等への指導やケアを行う制度を作り、実施する × Q1 性別
N = 858

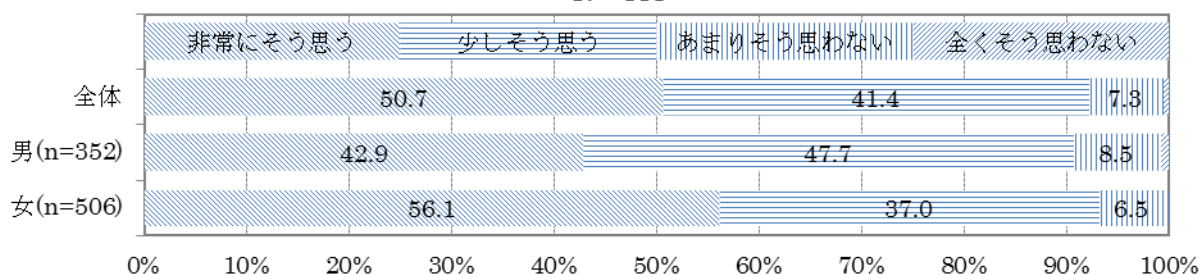


◆将来の気候変化による影響への対策については、「危険な地域を示すハザードマップやマニュアル等を作成し、配布する」を除くいずれにおいても女性の方が「非常に有効である」と回答した人の比率が高く、「企業や家庭に補助金をだす」や「被害を補償する保険制度を整備し、加入を促す」では「少し有効である」でも男性よりも女性の方が回答した人の比率が高くなっている。

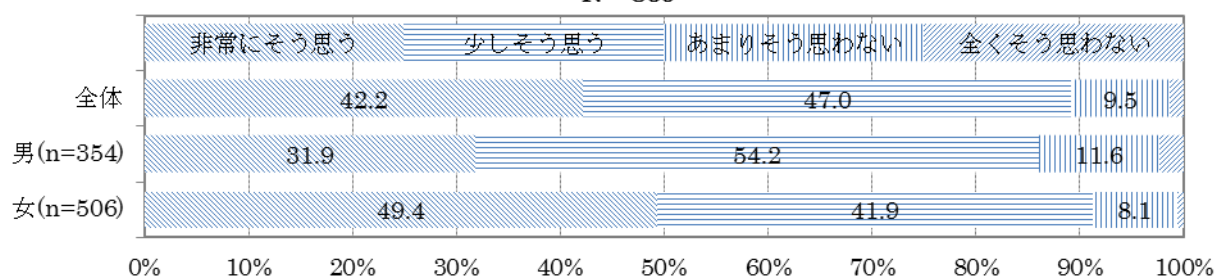
問12-2 家庭や個人が責任をもって、家族や自分自身を守る対策を行うべきである × 性別
N = 858



問12-3 企業や学校などが責任をもって、社員や生徒を守る対策を行うべきである × 性別
N = 858

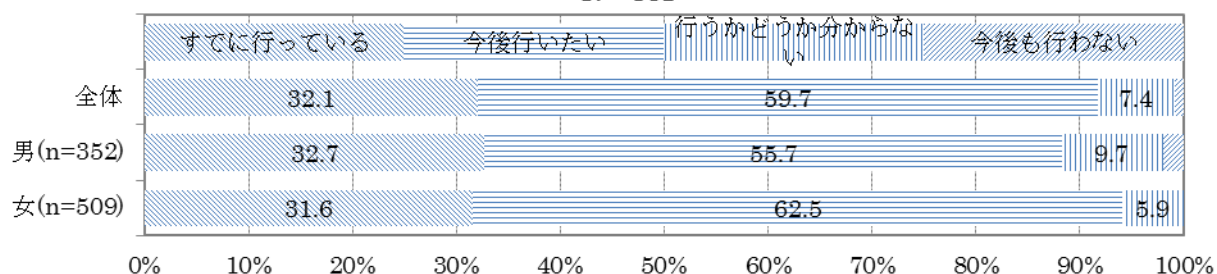


問12-4 自治会などの地域団体や住民団体が、地域を守る対策を行うべきである × Q1 性別
N = 860

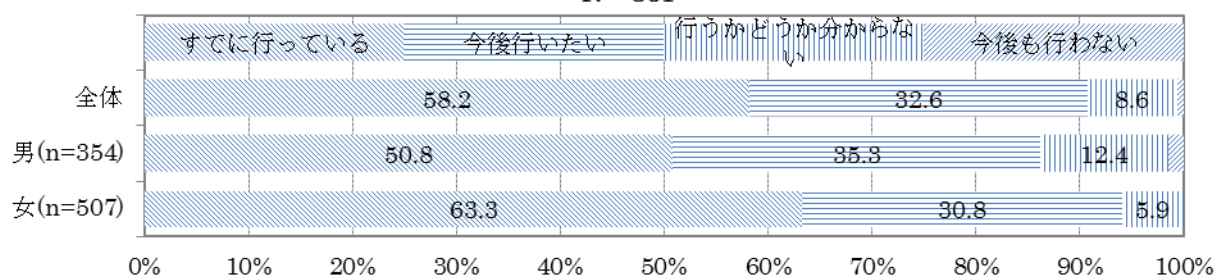


◆気候変化による影響に関する対策の主体については、「家庭や個人が責任をもって」「企業や学校などが責任をもって」「自治会などの地域団体や住民団体が」のいずれにおいても男性よりも女性の方が「非常にそう思う」と回答した人の比率が高くなっている。

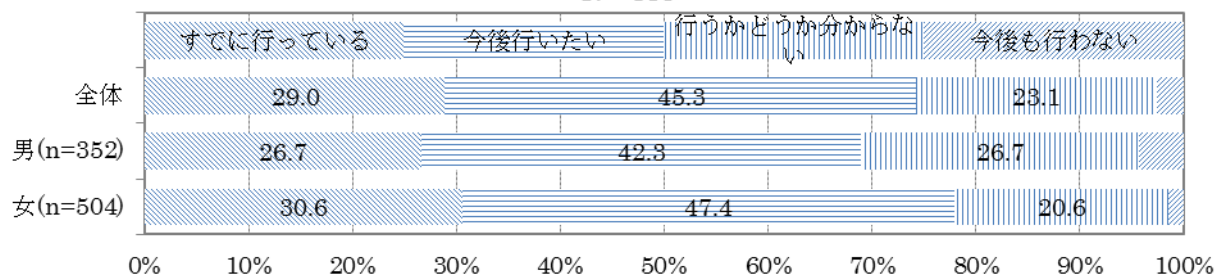
問13-1 ハザードマップなどで危険箇所や避難場所・避難経路を確認する × Q1 性別
N = 861



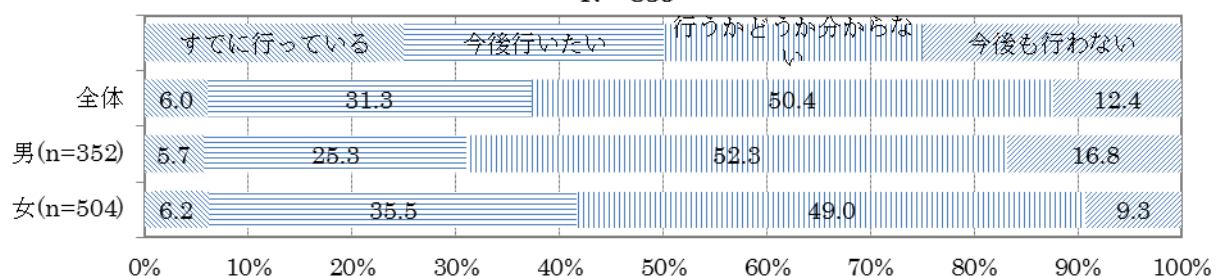
問13-2 暑さや大雨・高潮に関する警報や注意報などの情報を積極的に収集する × Q1 性別
N = 861

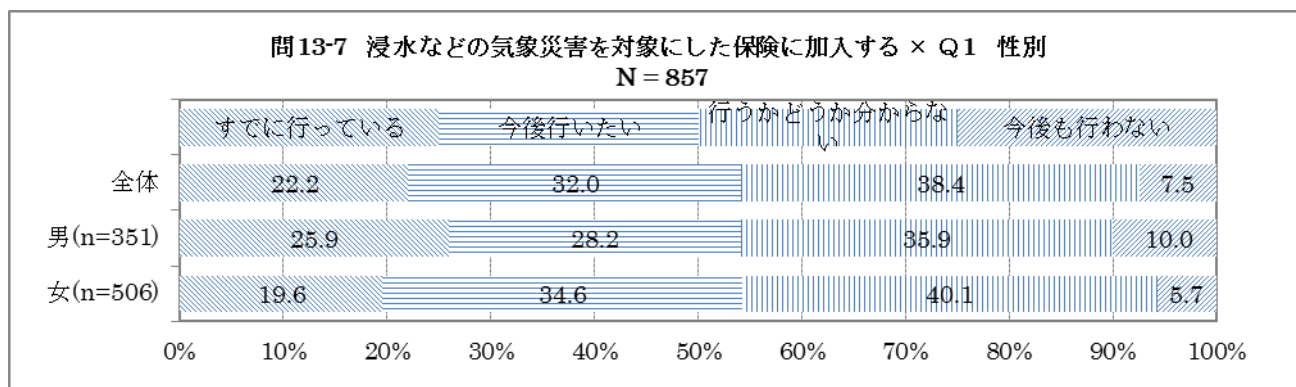
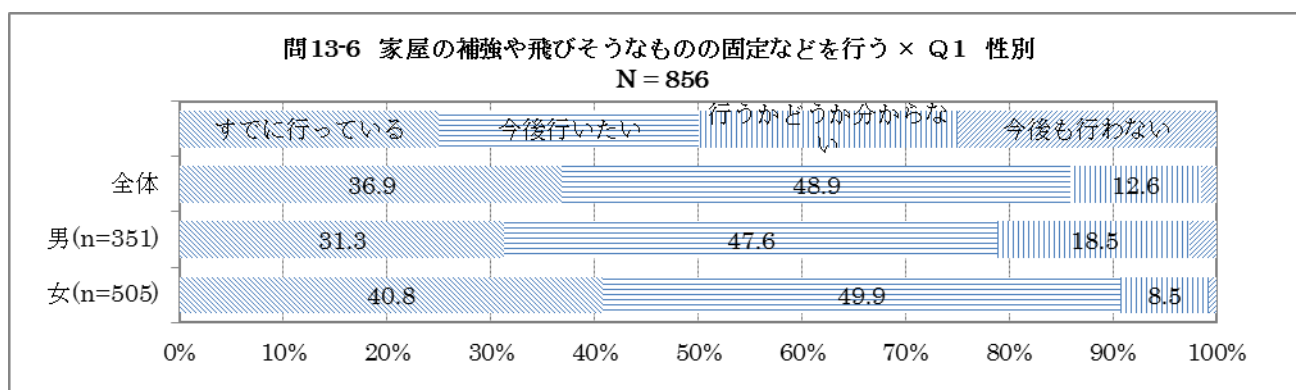
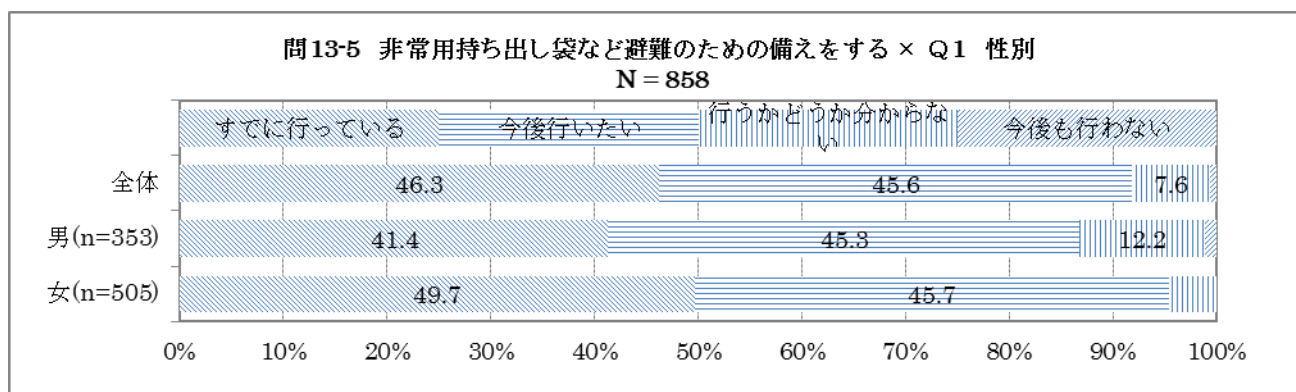


問13-3 地域や職場における防災訓練や防災教育に参加する × Q1 性別
N = 856



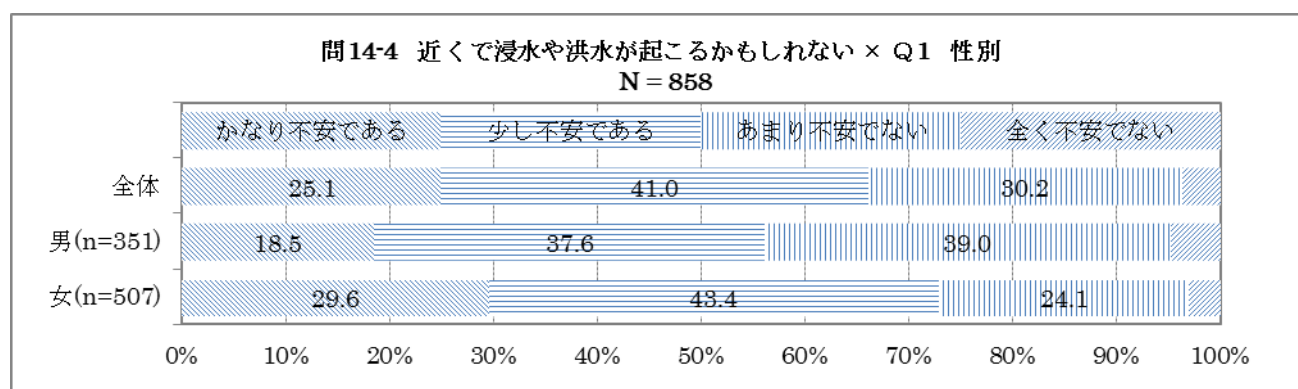
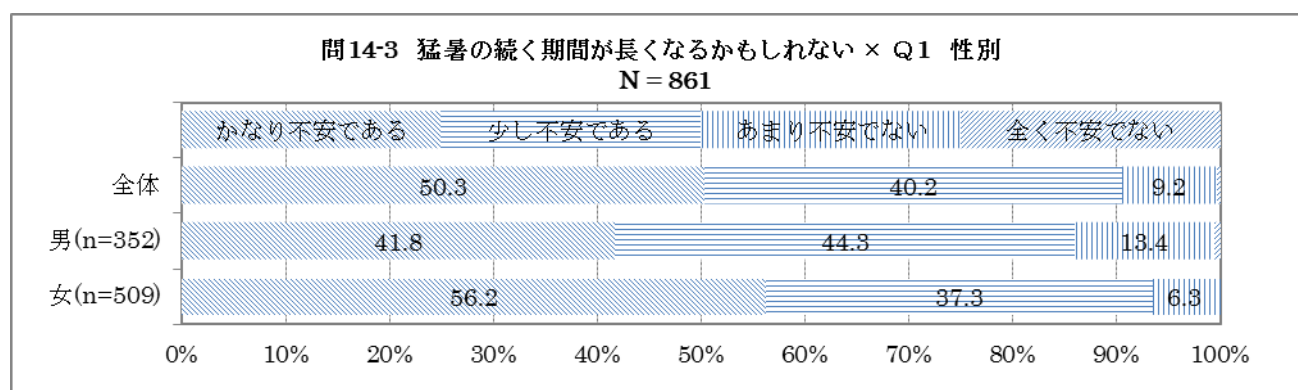
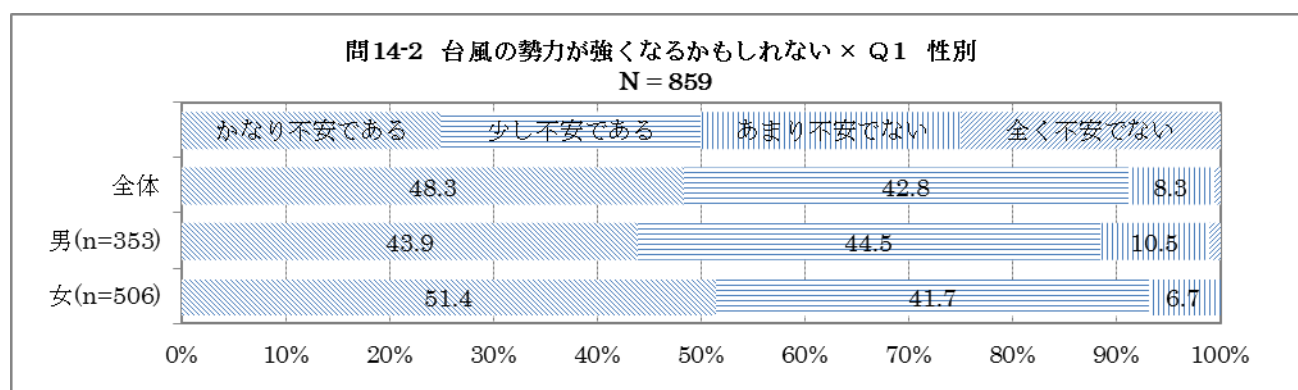
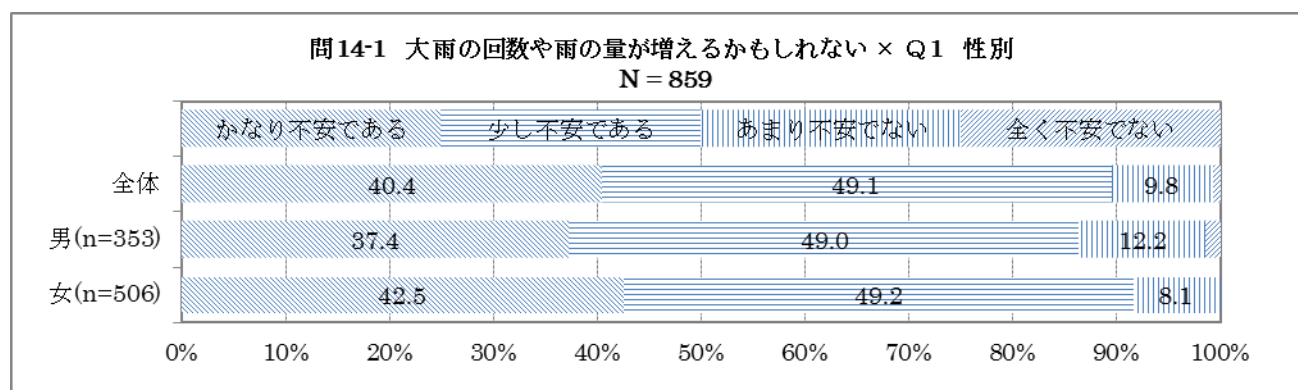
問13-4 消防団など地域における自主的な防災組織に参加する × Q1 性別
N = 856





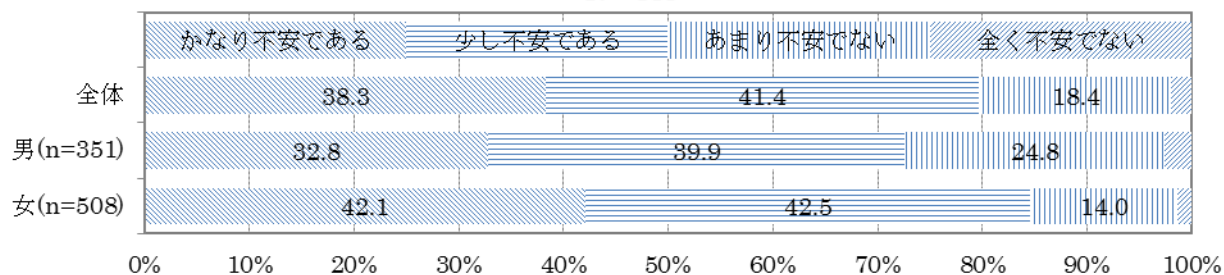
◆気候変化による影響に関する対策への取り組みについて、「ハザードマップなどで危険箇所や避難場所・避難経路を確認する」や「地域や職場における防災訓練や防災教育に参加する」では、男性よりも女性の方が「今後行いたい」と回答した人の比率が高い。また、「警報や注意報などの情報を積極的に収集する」「非常用持ち出し袋などの避難のための備えをする」「家屋の補強や飛びそうなものの固定などを行う」などでは、男性よりも女性の方が「すでに行っている」と回答した人の比率が高くなっている。

(4) 気候の変化による影響に対する不安感



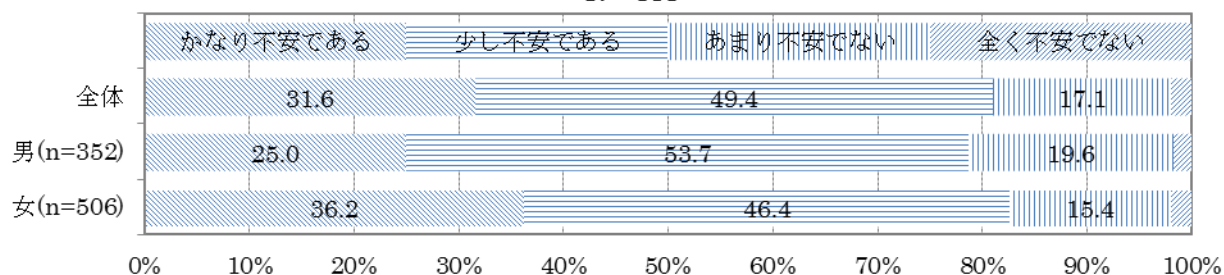
問14-5 近くでがけ崩れが起こるかもしれない × Q1 性別

N = 859



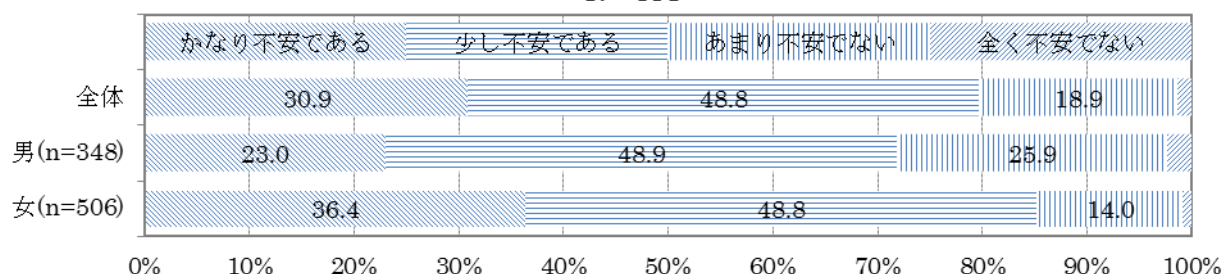
問14-6 自分も熱中症になるかもしれない × Q1 性別

N = 858



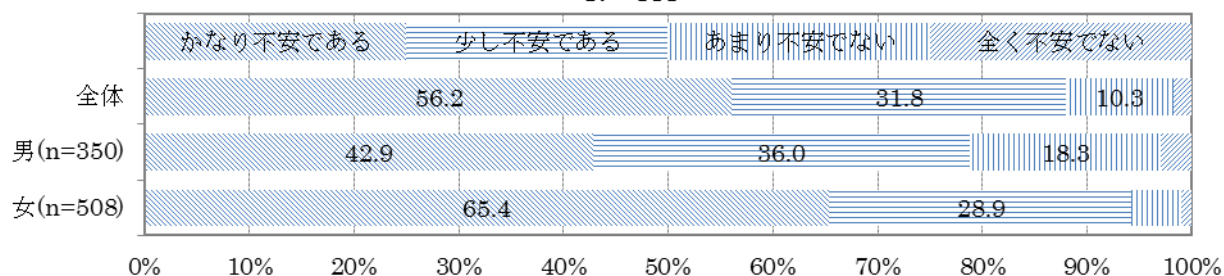
問14-7 避難ルートが通れなくなるかもしれない × Q1 性別

N = 854

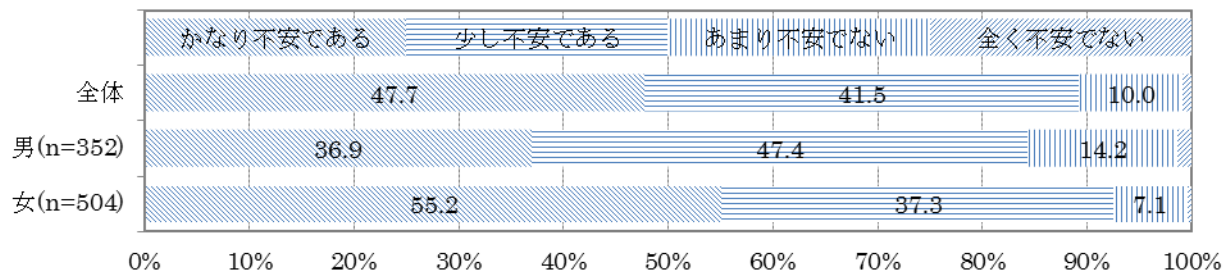


問14-8 避難しても避難所で生活できるだろうか × Q1 性別

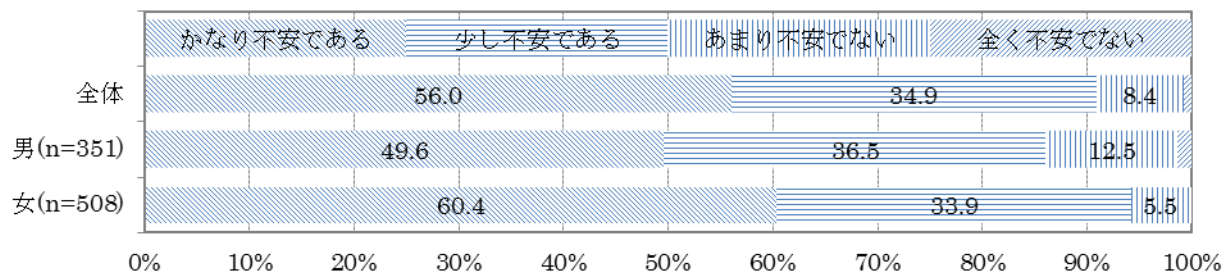
N = 858



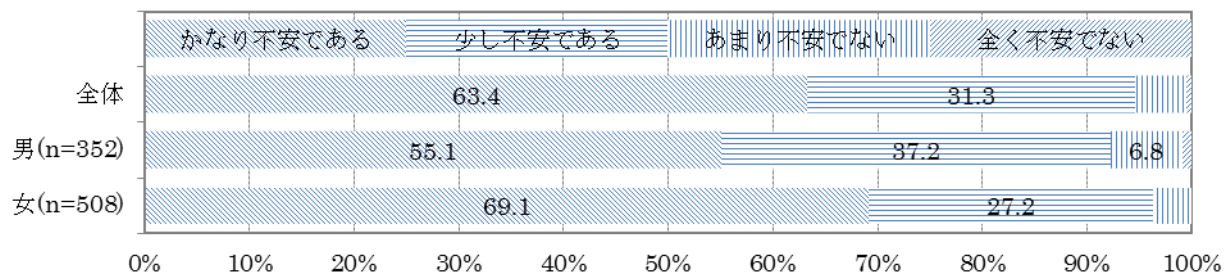
問14-9 救助体制はできているのだろうか × Q1 性別
N = 856



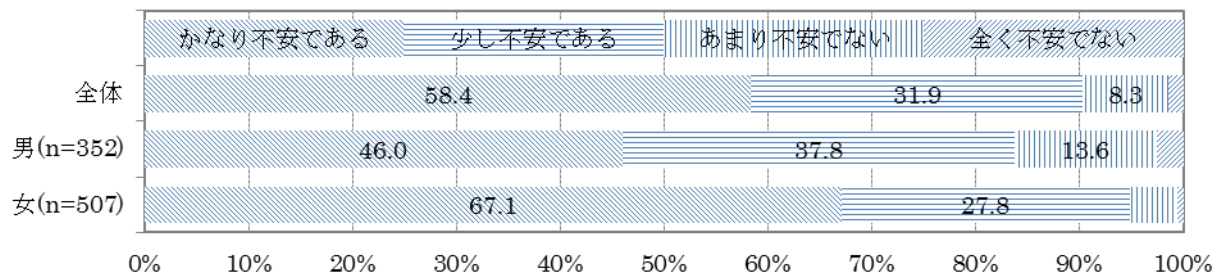
問14-10 停電になるかもしれない × Q1 性別
N = 859

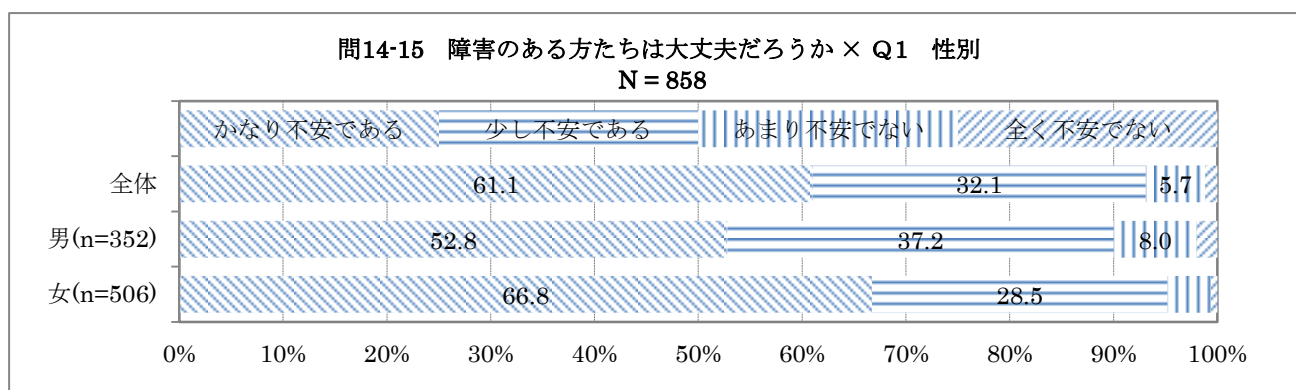
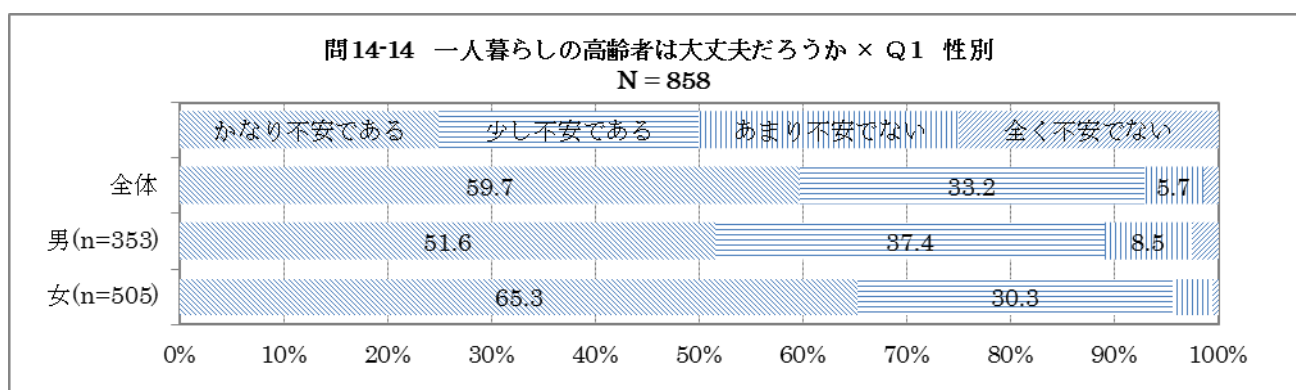
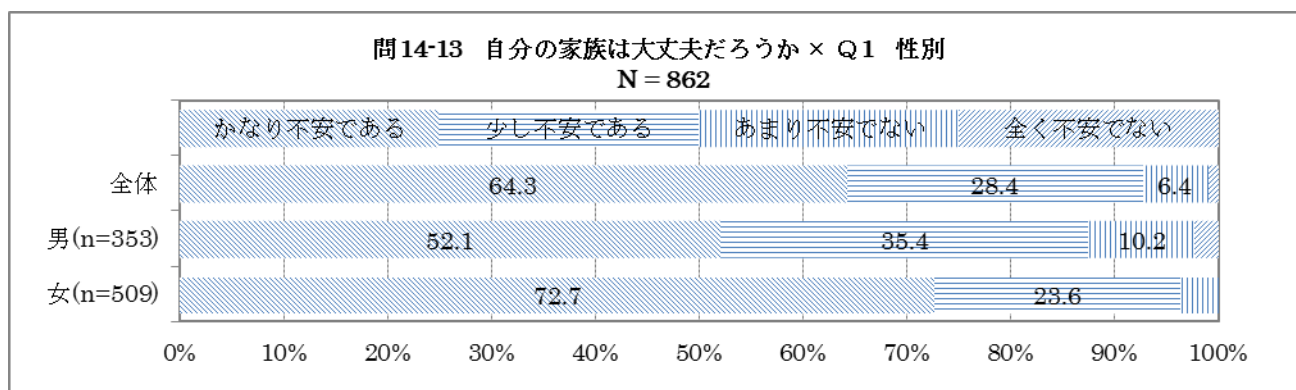


問14-11 断水になるかもしれない × Q1 性別
N = 860



問14-12 電話やメールが通じなくなるかもしれない × Q1 性別
N = 859

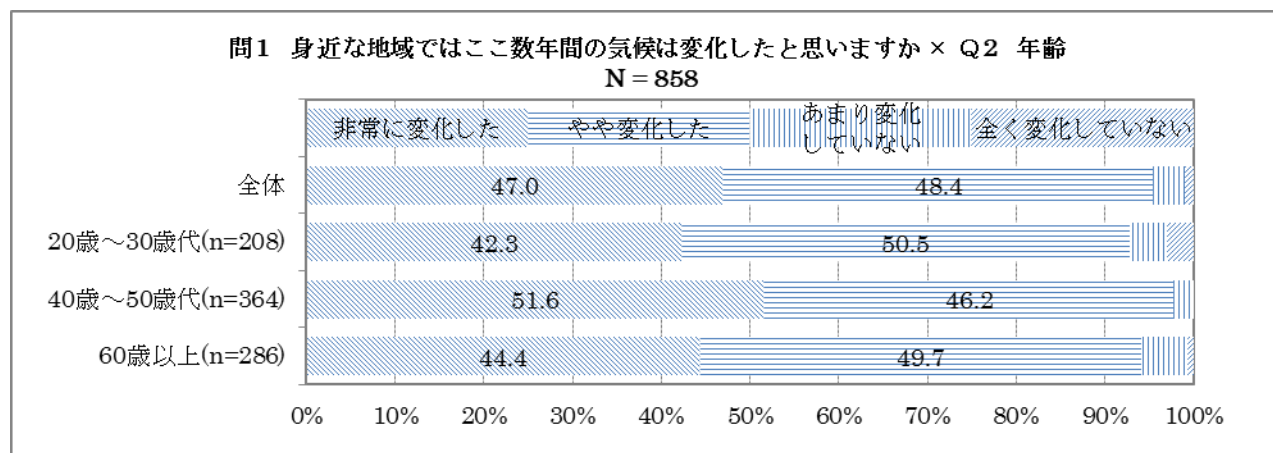




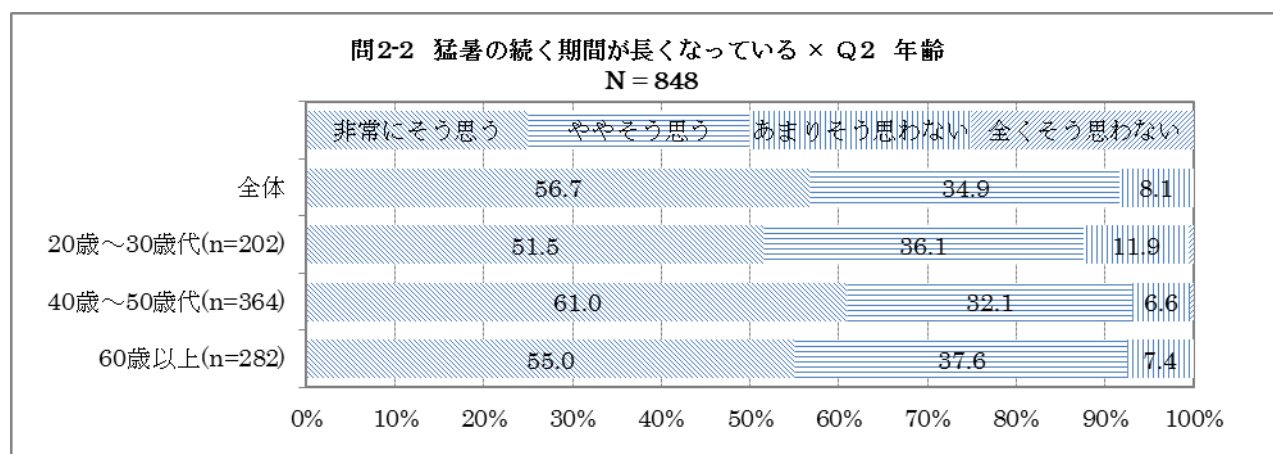
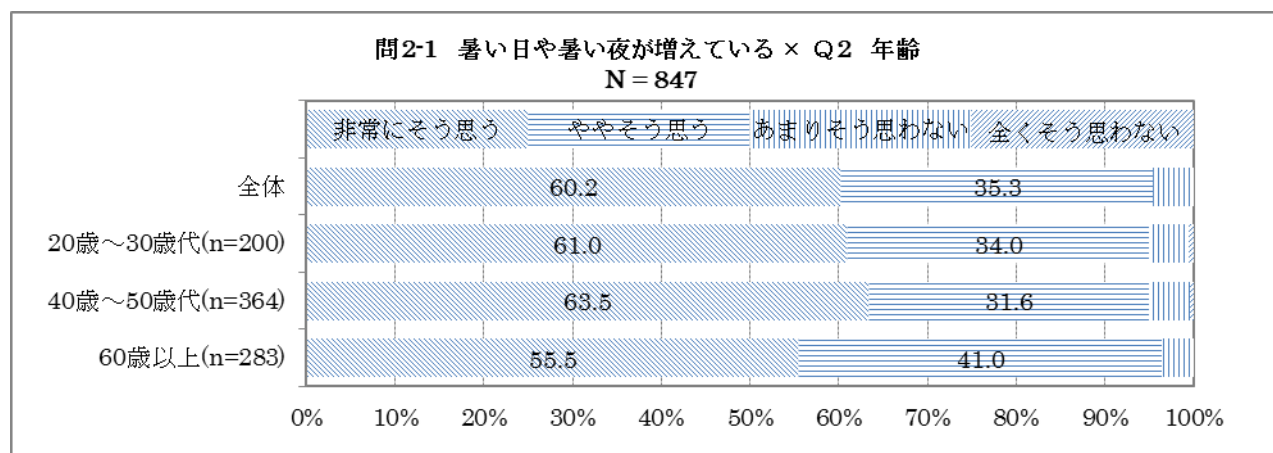
◆気候変化による影響に対する不安感ではここで取り上げた全ての項目において、男性よりも女性の方が「かなり不安である」と回答した人の比率が高くなっている。また、「近くで浸水や洪水が起こるかもしれない」「近くでがけ崩れが起こるかもしれない」の2つの項目では「少し不安である」と回答した人の比率も女性の方が高くなっている。

3-2. 年齢層別による回答の違い

(1) 近年の気候の変化とその影響に対する実感

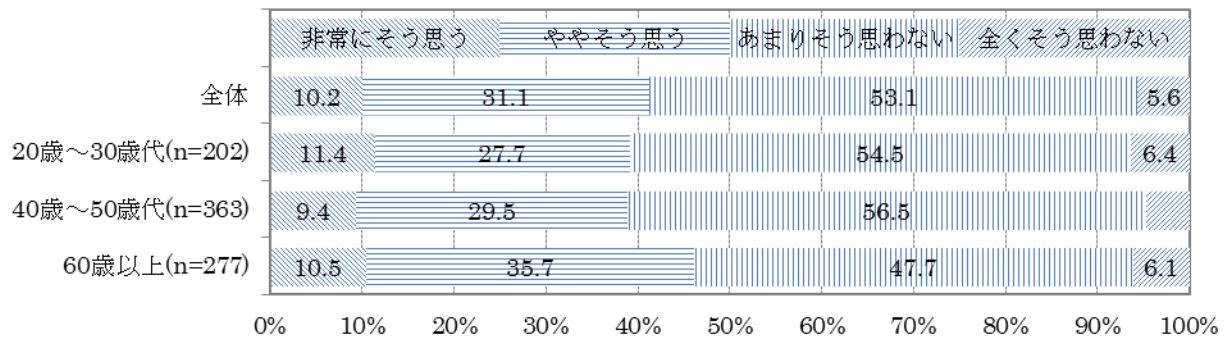


◆身近な地域におけるここ数年の気候変化の実感については、40～50歳代で「非常に変化した」とする回答が、他の年齢層よりも多くなっている。



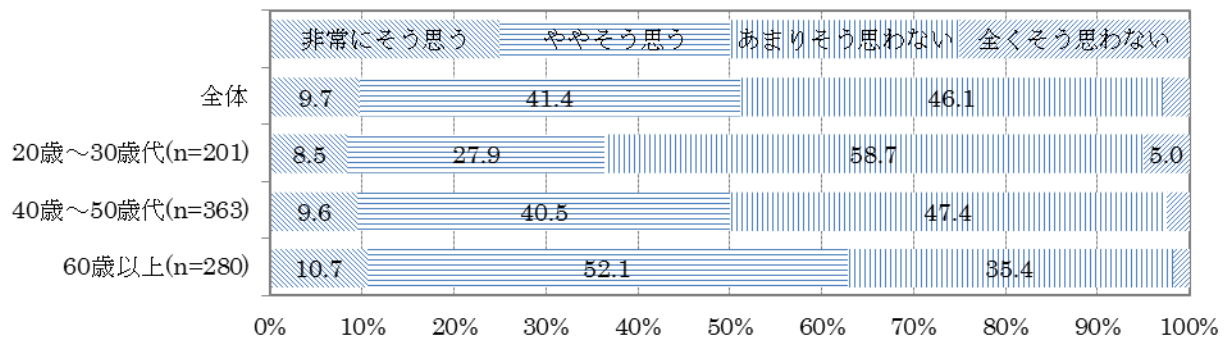
問2-3 雨の降らない日が多くなっている × Q2 年齢

N = 842



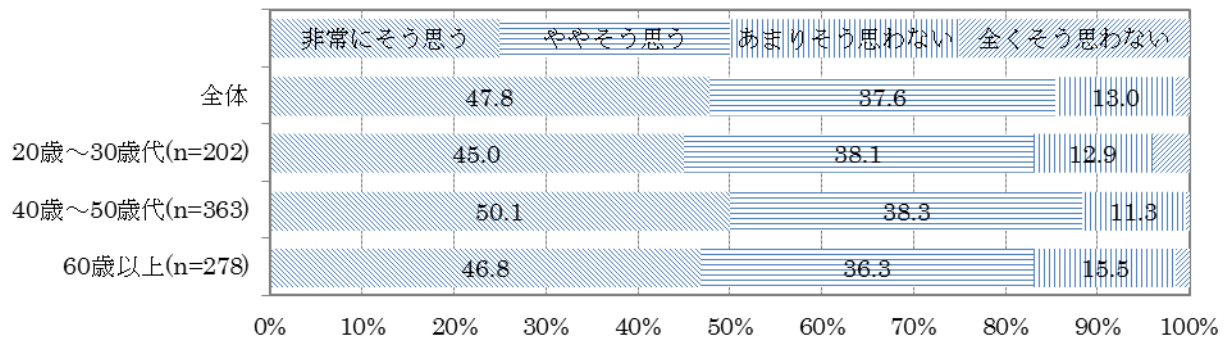
問2-4 寒い日や寒い夜が減っている × Q2 年齢

N = 844



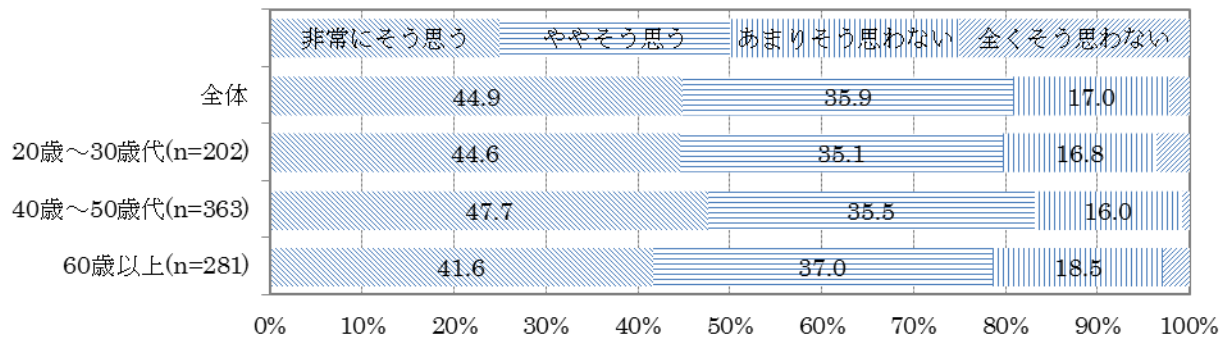
問2-5 短時間に降る雨の量が増えている × Q2 年齢

N = 843



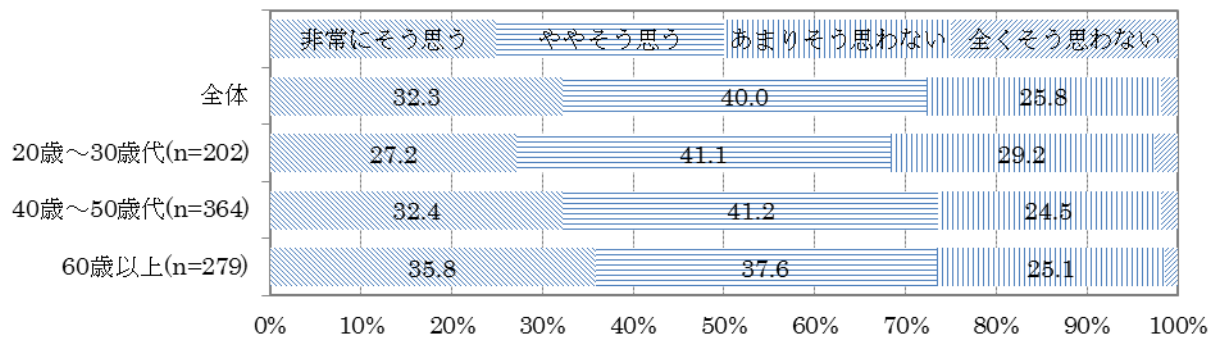
問2-6 短時間の強い雨の回数が増えている × Q2 年齢

N = 846



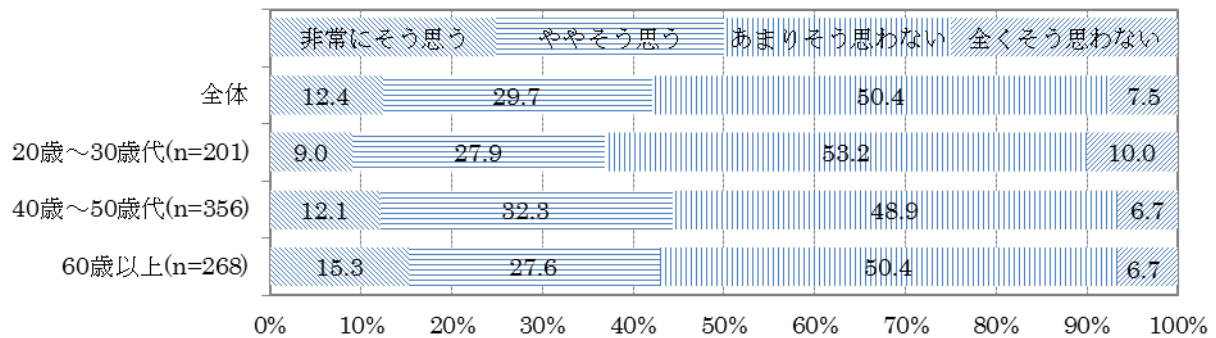
問2-7 台風の勢力が強くなっている × Q2 年齢

N = 845

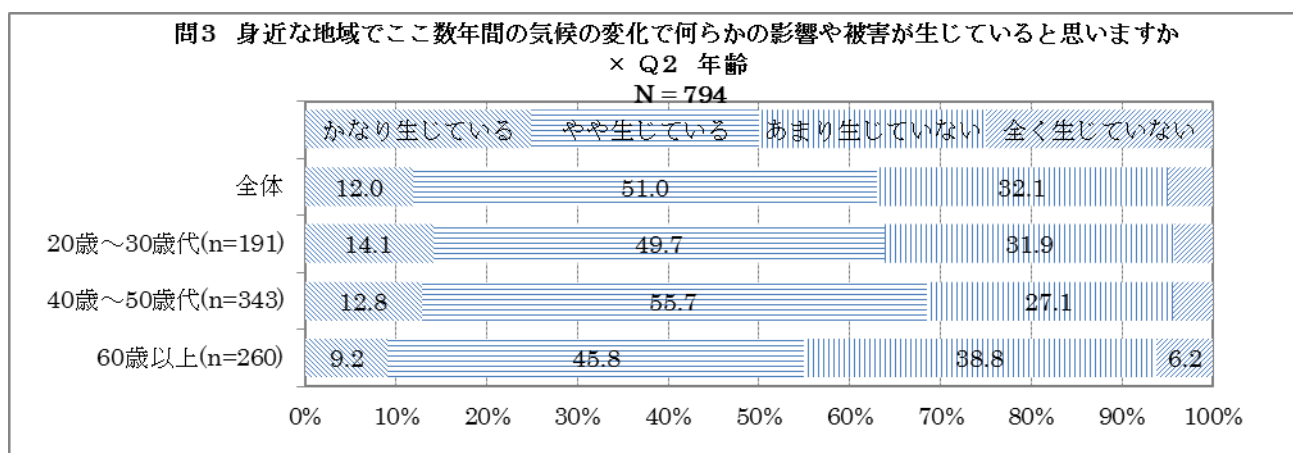


問2-8 海面の水位が上昇している × Q2 年齢

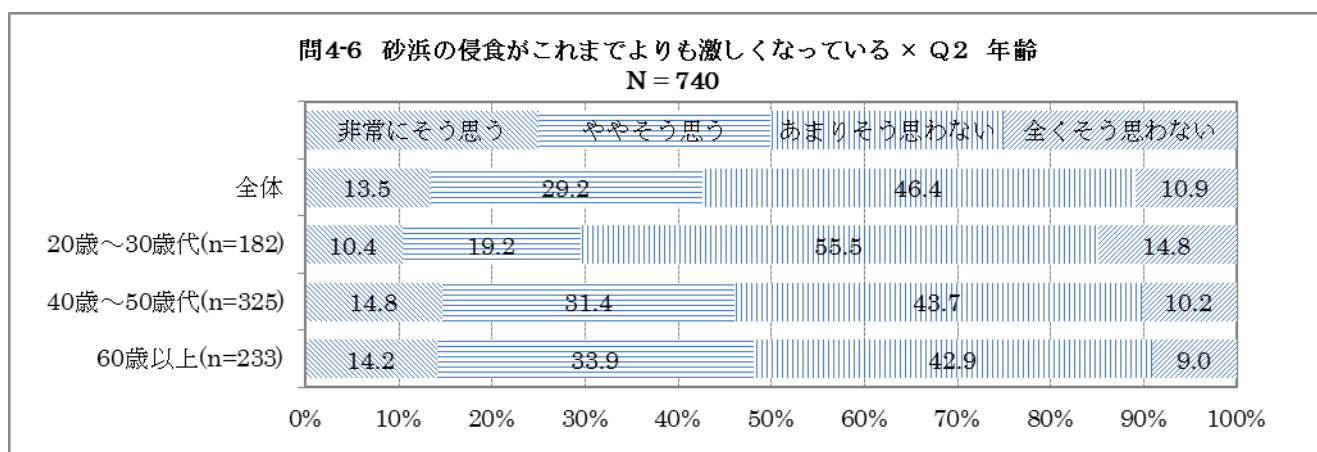
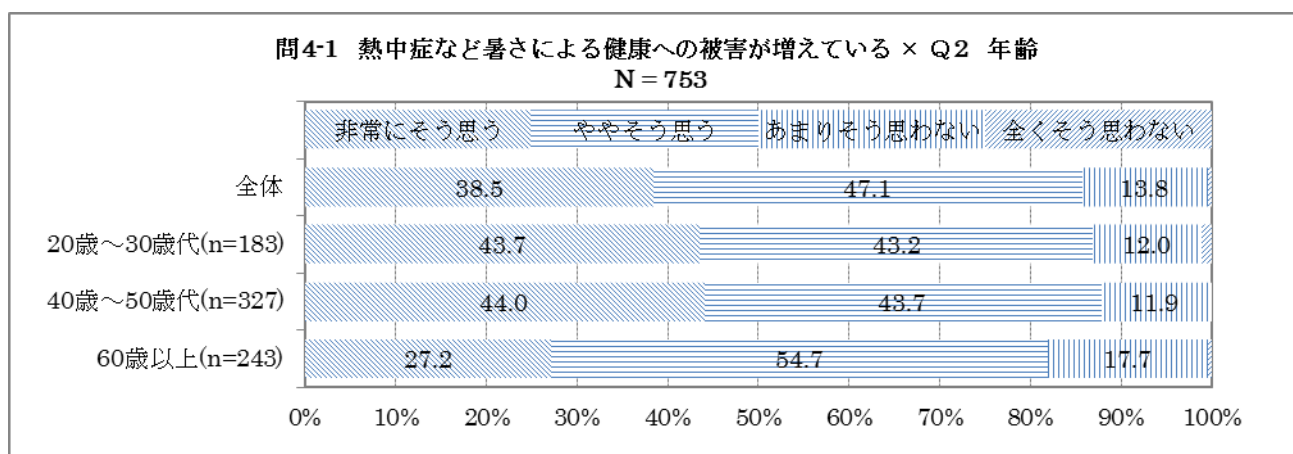
N = 825



◆近年の気候変化の実感において、「暑い日や暑い夜が増えている」や「猛暑の続く期間が長くなっている」のほか「短時間に降る雨の量が増えている」や「短時間の強い雨の回数が増えている」において、40～50歳代が他の年齢層よりも「非常にそう思う」と回答した人の比率が高く、これらの項目で気候変化の実感がより強いものと考えられる。また、「台風の勢力が強くなっている」「海面の水位が上昇している」などでは、年齢層が高くなるほど「非常にそう思う」と回答した人の比率が高くなっている。

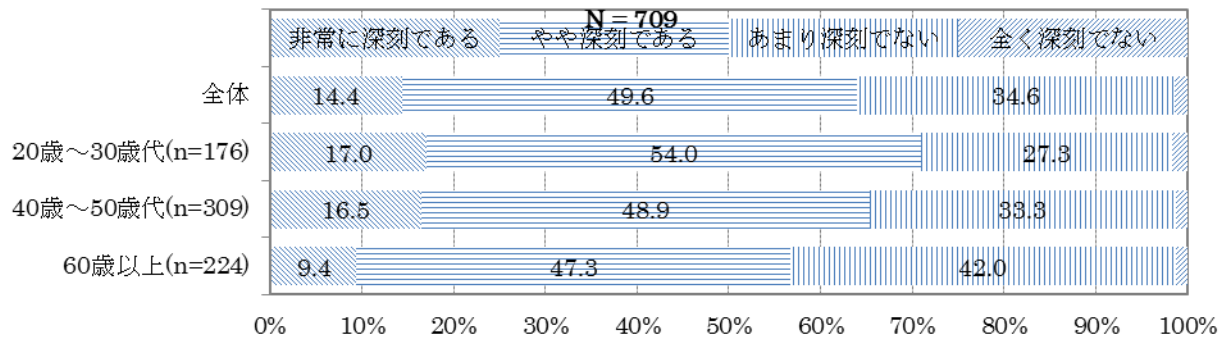


◆近年の気候変化による影響については、年齢層が低くなるほど「かなり生じている」と回答した人の比率が高く、40～50歳代では「やや生じている」と回答した人の比率が他の年齢層よりも高い。



◆近年の気候変化による具体的な影響では、「熱中症などの暑さに健康への被害が増えている」については、20～30歳代及び40～50歳代で「非常にそう思う」と回答した人の比率が高く、「砂浜の侵食がこれまでよりも激しくなっている」では40～50歳代と60歳代で「非常にそう思う」及び「ややそう思う」と回答した人の比率が高くなっている。

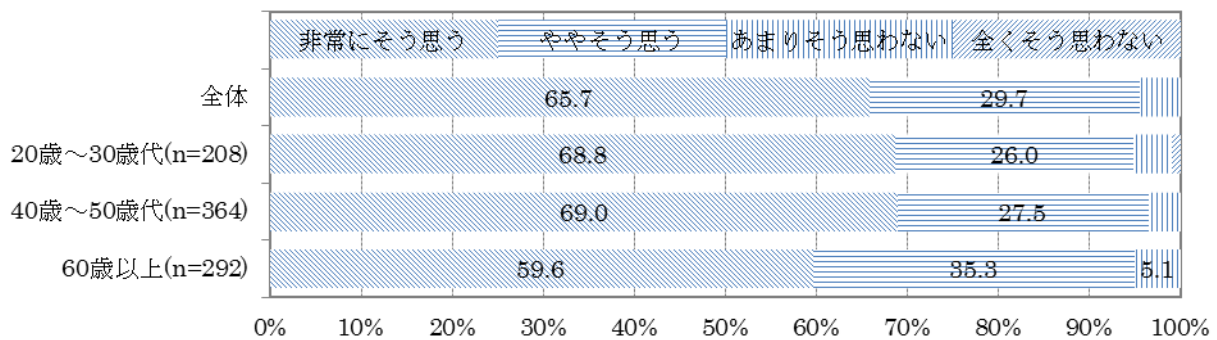
問5 身近な地域で、ここ数年間の気候の変化による影響や被害はどの程度深刻だと思いますか
× Q2 年齢



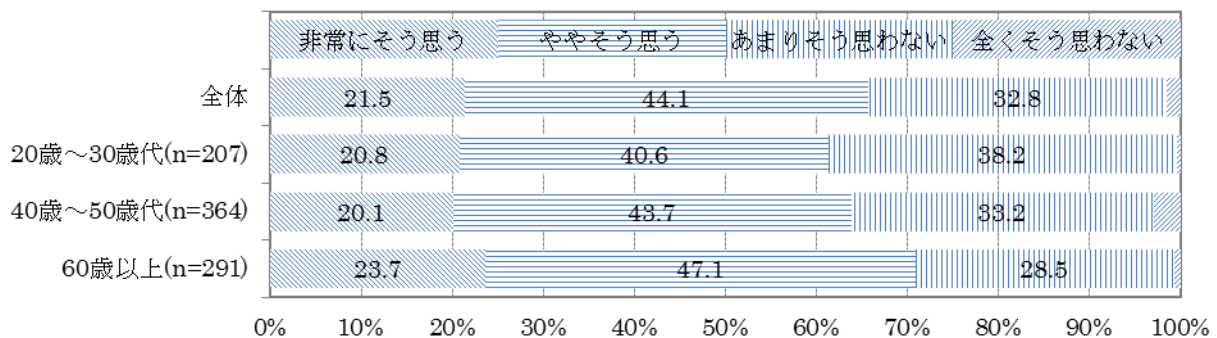
◆近年の気候変化による影響に対して、年齢層が低くなるほど「非常に深刻である」及び「やや深刻である」と回答した人の比率が高く、若年層ほど危機感がより強いものと考えられる。

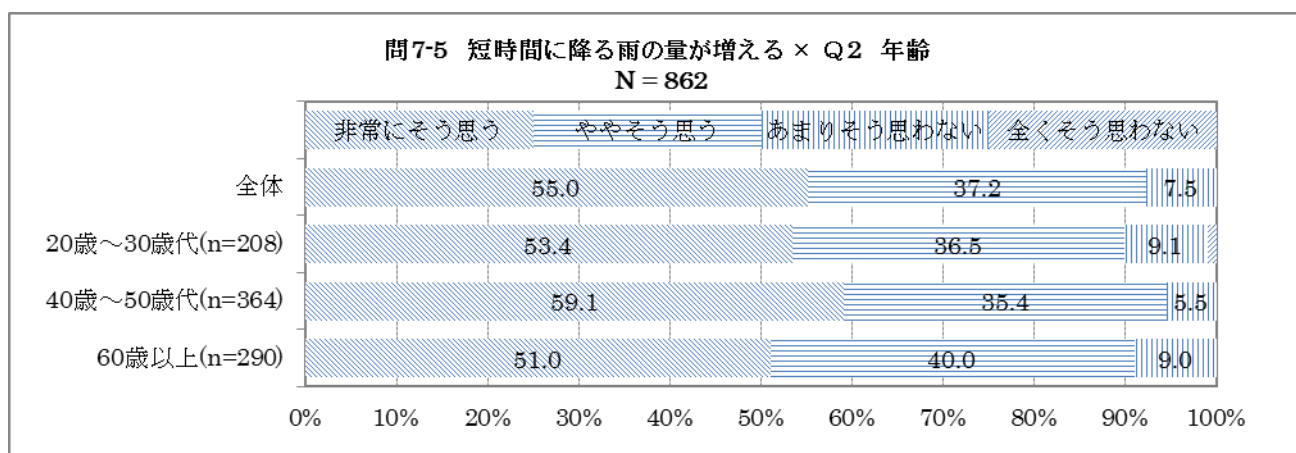
(2) 将来の気候の変化とその影響に対する認識

問7-2 猛暑の続く期間が長くなる × Q2 年齢
N = 864



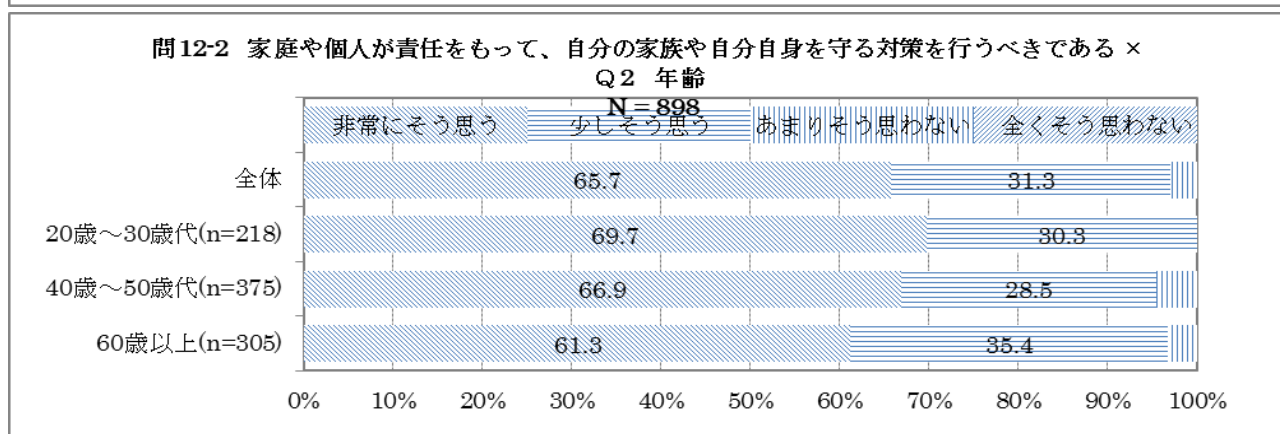
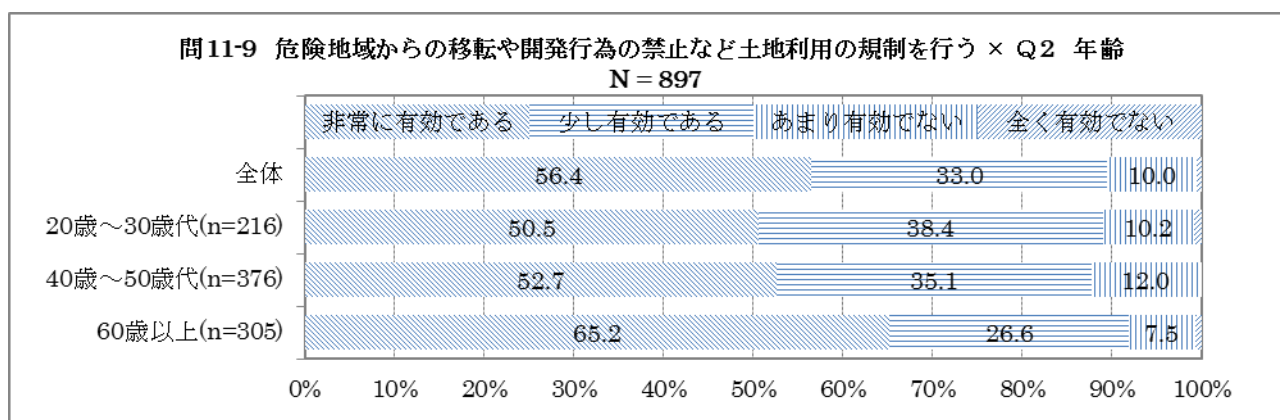
問7-4 寒い日や寒い夜が減る × Q2 年齢
N = 862





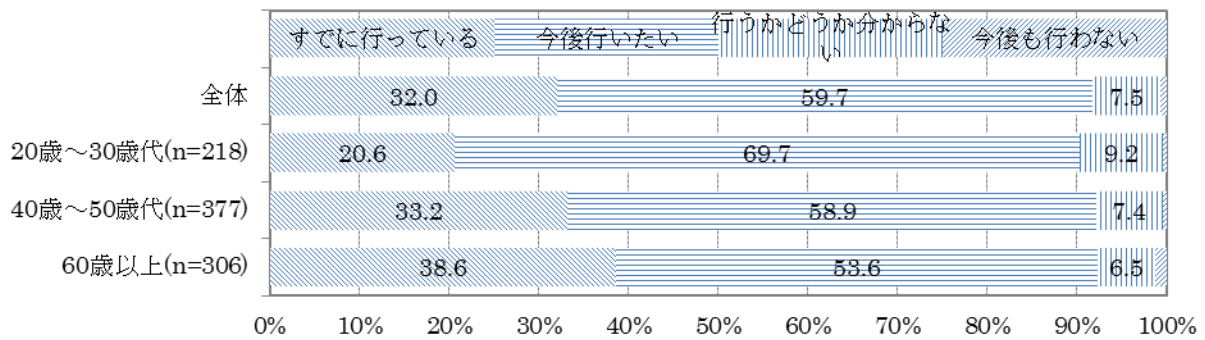
◆将来の具体的な気候の変化では、「猛暑の続く期間が長くなる」では60歳以上で「非常にそう思う」と回答した人の比率が低く、「寒い日や寒い夜が減る」では60歳以上で「非常にそう思う」や「ややそう思う」と回答した人の比率が高くなっている。一方で、「短時間に降る雨の量が増える」については、40～50歳代で「非常にそう思う」と回答した人の比率が高くなっている。

(3) 気候変化による影響への対策に関する認識と取り組み

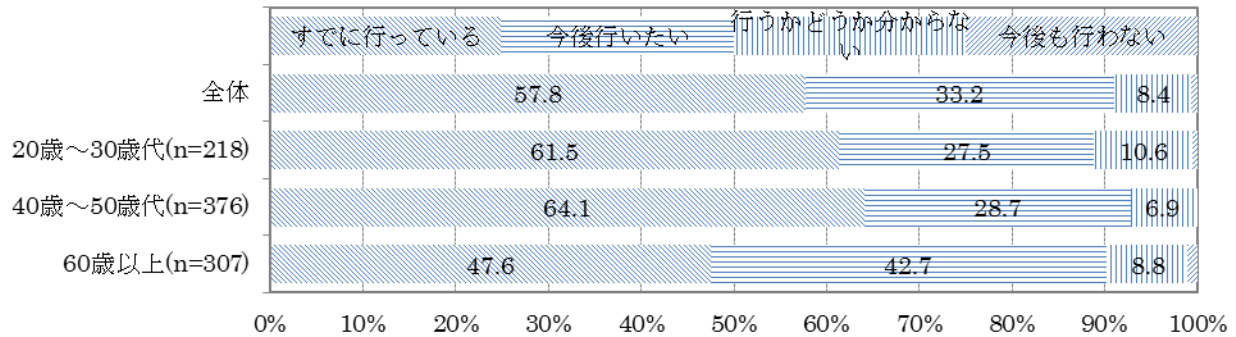


◆気候変化による影響への対策については、「危険地域からの移転や開発行為の禁止などの土地利用規制を行う」では、年齢層が高くなるほど「非常に有効である」と回答した人の比率が高くなっている。一方、「家庭や個人が責任をもって自分の家族や自分自身を守る対策を行うべき」とする意見に対しては、年齢層が高くなるほど「非常にそう思う」と回答した人の比率が低くなっている。

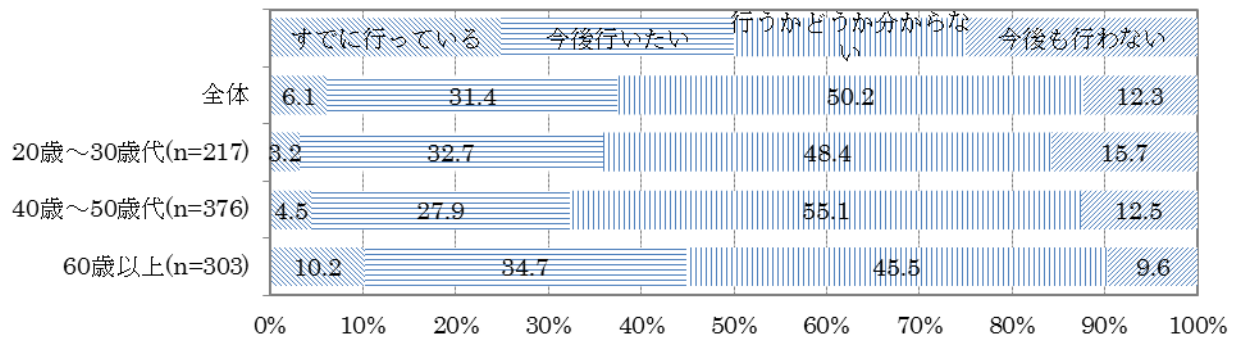
問13-1 ハザードマップなどで危険箇所や避難場所・避難経路を確認する × Q2 年齢
N = 901



問13-2 暑さや大雨・高潮に関する警報や注意報などの情報を積極的に収集する × Q2 年齢
N = 901

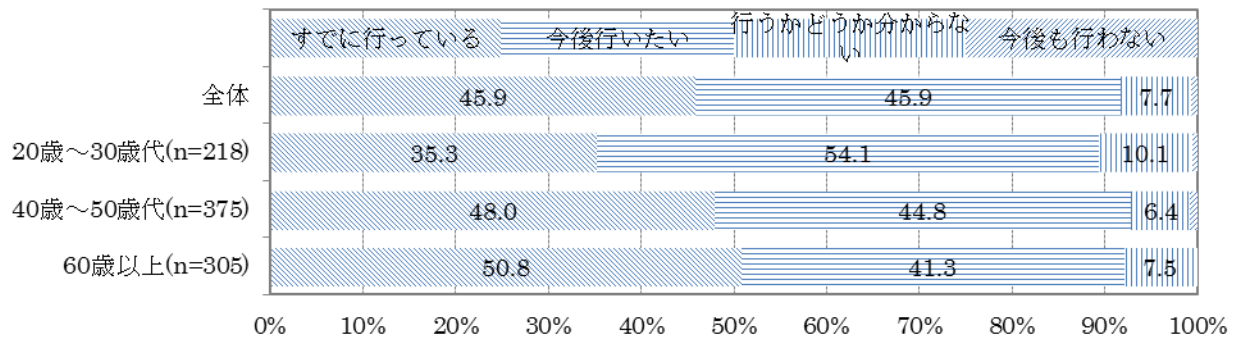


問13-4 消防団など地域における自主的な防災組織に参加する × Q2 年齢
N = 896



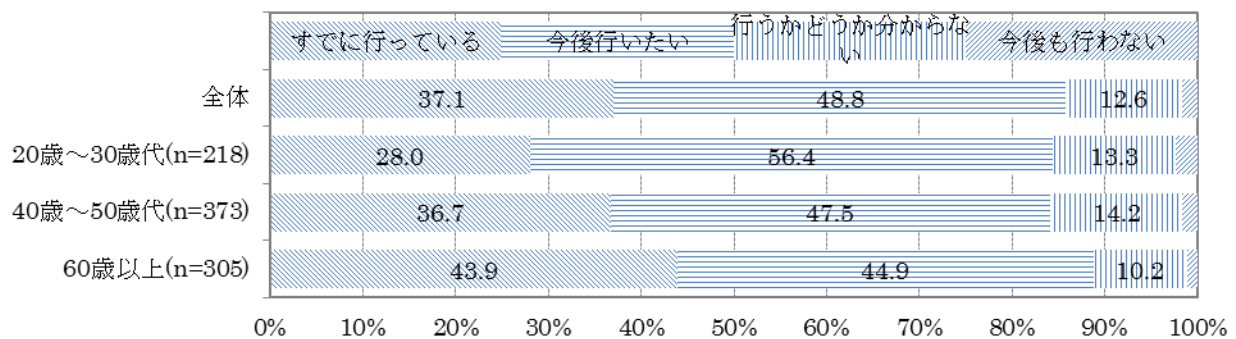
問13-5 非常用持ち出し袋など避難のための備えをする × Q2 年齢

N = 898



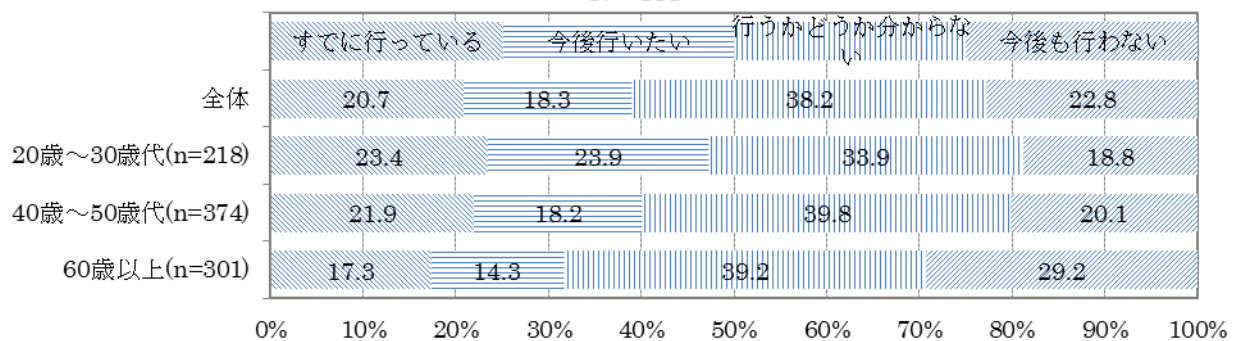
問13-6 家屋の補強や飛びそうなものの固定などを行う × Q2 年齢

N = 896



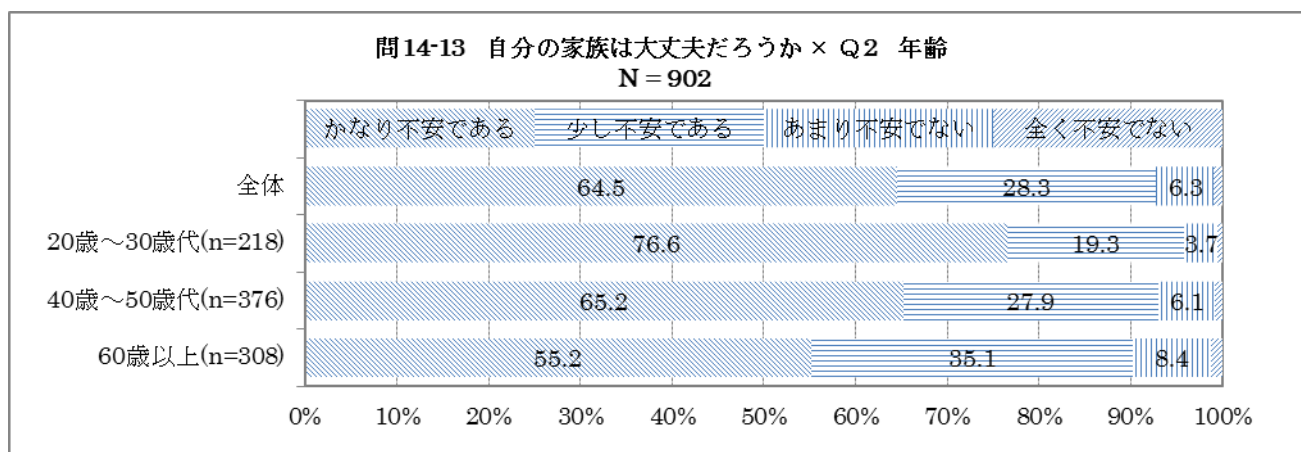
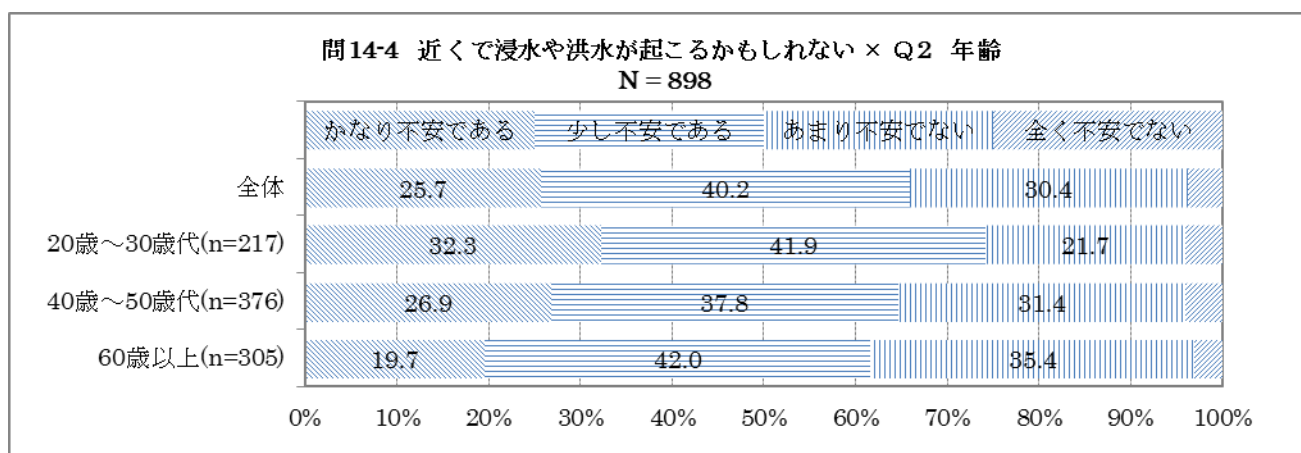
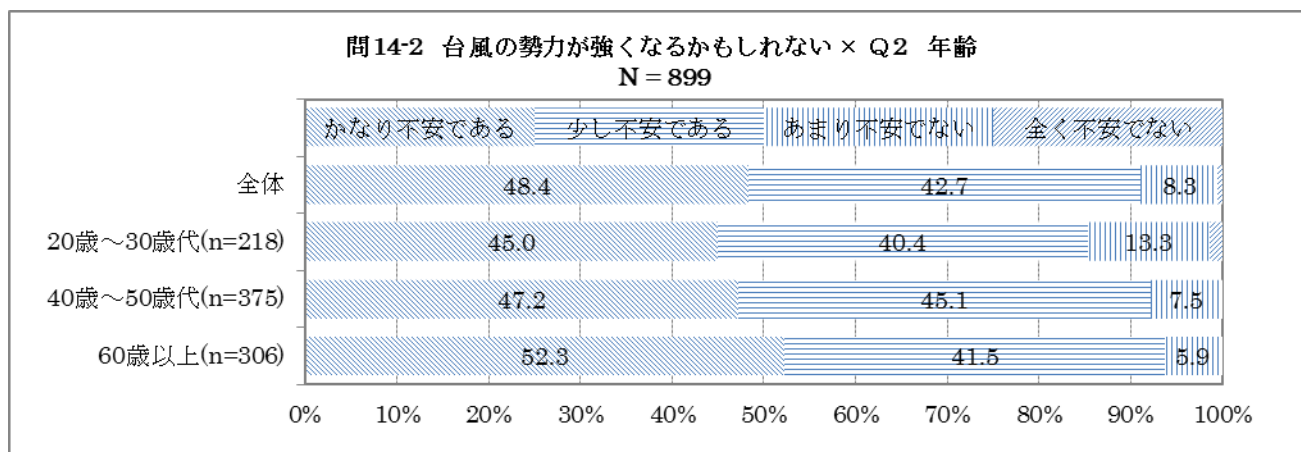
問13-8 危険な地域には住まないあるいは引っ越しをする × Q2 年齢

N = 893



◆具体的な対策への取り組みについては、「ハザードマップなどで避難場所・避難ルートを確認する」「消防団など地域における自主的な防災組織に参加する」「非常用持ち出し袋などの備えをする」「家屋の補強や飛びそうなものの固定をする」などで年齢層が高くなるほど「すでに行っている」と回答した人の比率が高くなっている。一方、「警報などの情報を積極的に収集する」については60歳以上で「すでに行っている」と回答した人が少なく、「危険な地域には住まないあるいは引っ越しをする」でも年齢層が高いほど、とりわけ60歳以上で「すでに行っている」あるいは「今後行いたい」と回答した人の比率が低くなっている。

(4) 気候変化による影響に対する不安感



◆気候変化による影響への不安感については、「台風の勢力が強くなるかもしれない」では年齢層が高くなるほど「かなり不安である」と回答した人の比率が高くなっている一方で、「近くで浸水や洪水が起こるかもしれない」「自分の家族は大丈夫だろうか」などでは、年齢層が低くなるほど「かなり不安である」と回答した人の比率が高くなっている。

4. 第2回調査の結果

4-1. 回答者の属性

- ・有効発送数：1959 人（宛先不明返戻：41 人）
- ・有効回収数：582 人
- ・有効回収率：29.7%
- ・基本属性

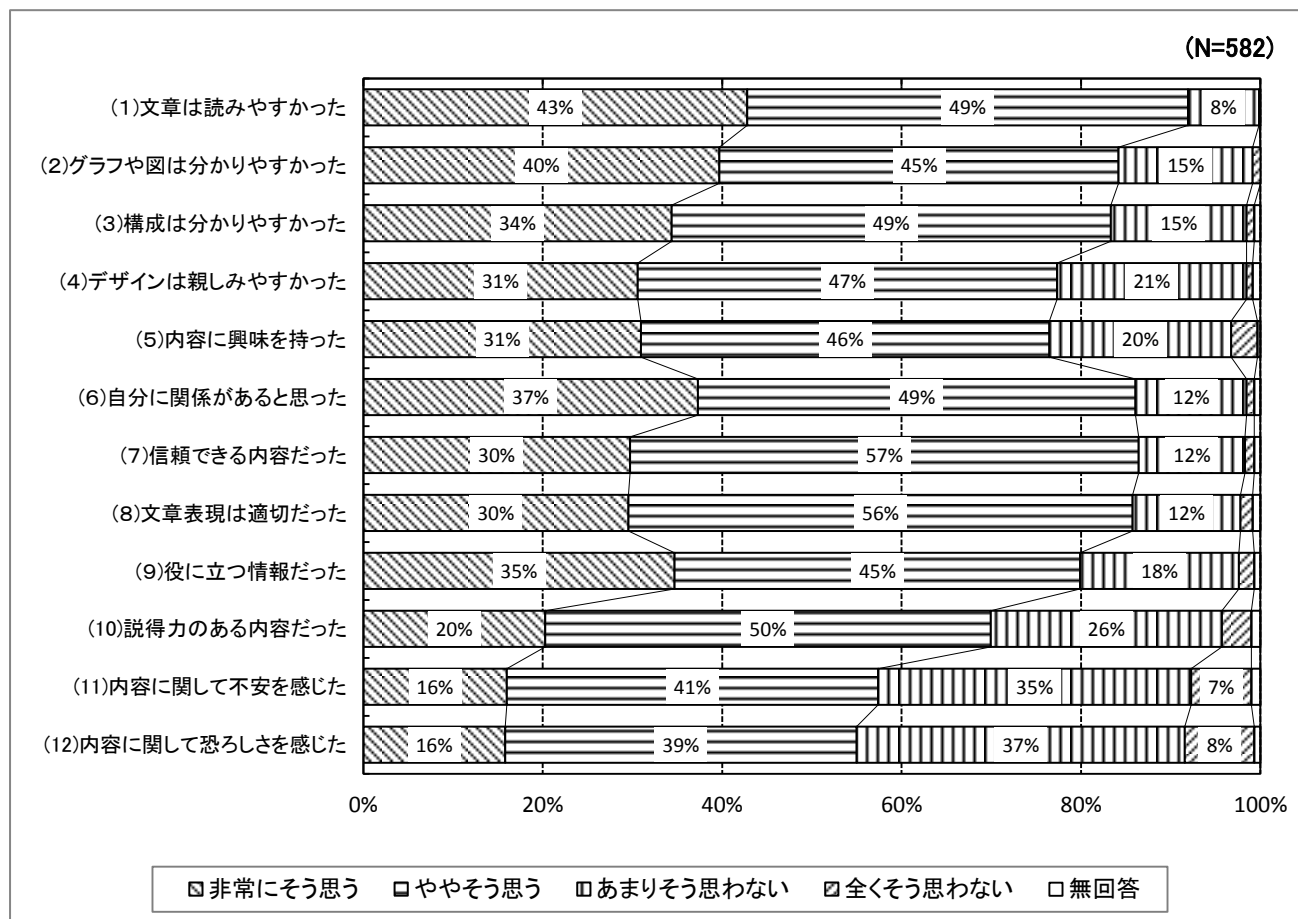
Q1 性別		(SA)		
No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	男	249	42.8	42.8
2	女	323	55.5	55.5
3	無回答	10	1.7	1.7
	無効	0	0.0	
	N (%ベース)	582	100	582

Q2 年齢		(SA)		
No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	10歳代	0	0.0	0.0
2	20歳代	42	7.2	7.2
3	30歳代	75	12.9	12.9
4	40歳代	127	21.8	21.8
5	50歳代	106	18.2	18.2
6	60歳代	218	37.5	37.5
7	70歳代	6	1.0	1.0
8	無回答	8	1.4	1.4
	無効	0	0.0	
	N (%ベース)	582	100	582

4-2. 単純集計の結果

(1) リーフレットに対する評価

問1 同封しましたリーフレットの内容についてどのように思いましたか。それぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。

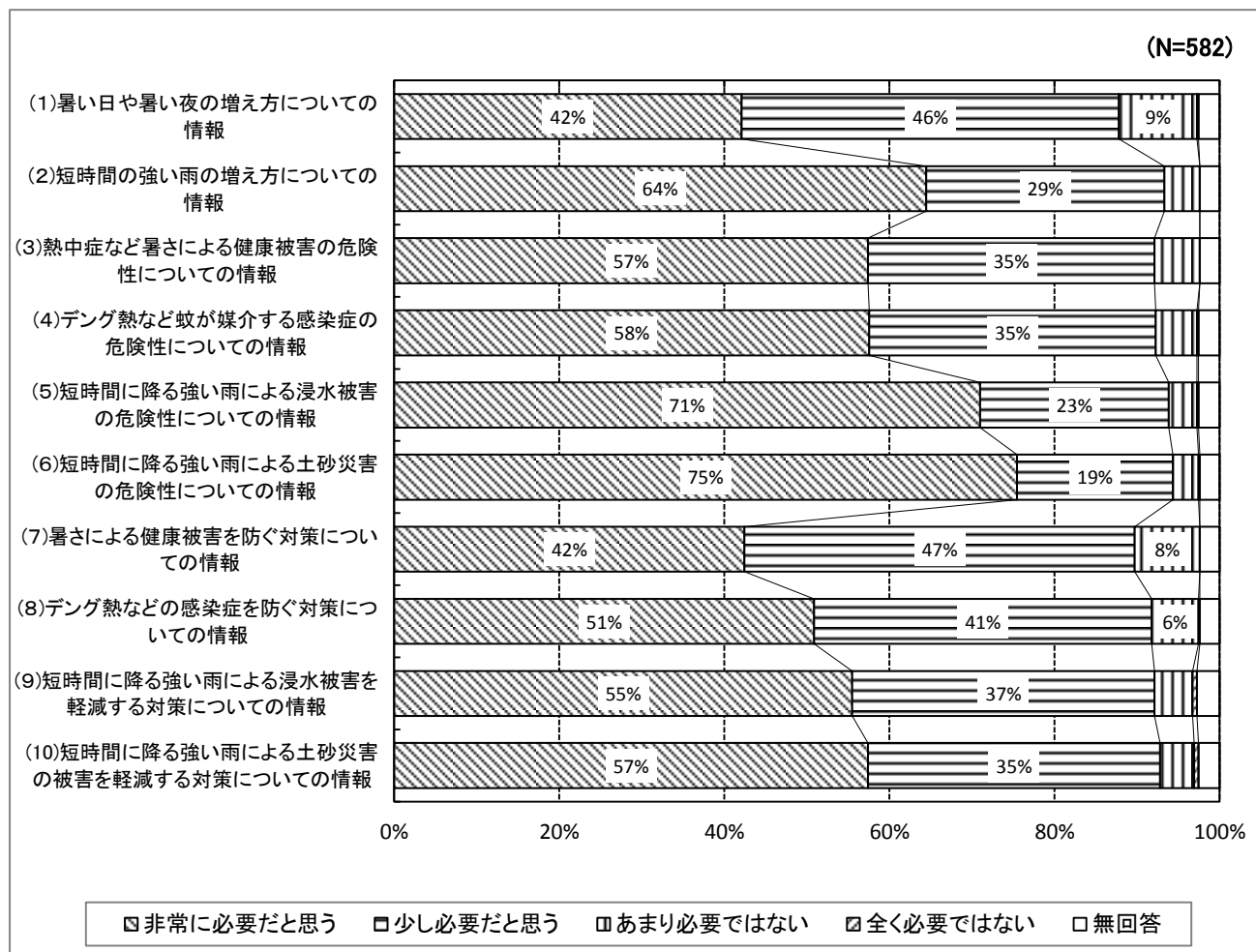


◆リーフレットに対して「文章は読みやすかった」「グラフや図は分かりやすかった」「自分に関係があると思った」など多くの項目で肯定的な意見が8割以上を占めている。ただし、「説得力のある内容だった」については、「そう思わない」や「まったくそう思わない」とする否定的な意見が約3割を占め、人々の認識を変えるまでの説得力のある情報提供には至っていないことが示唆される。

また、内容に関して「不安を感じた」や「恐ろしさを感じた」に対する肯定的な意見は6割未満で、これらの項目では「そう思わない」や「まったくそう思わない」とする意見も多くみられた。

(2) 今後、必要とする情報

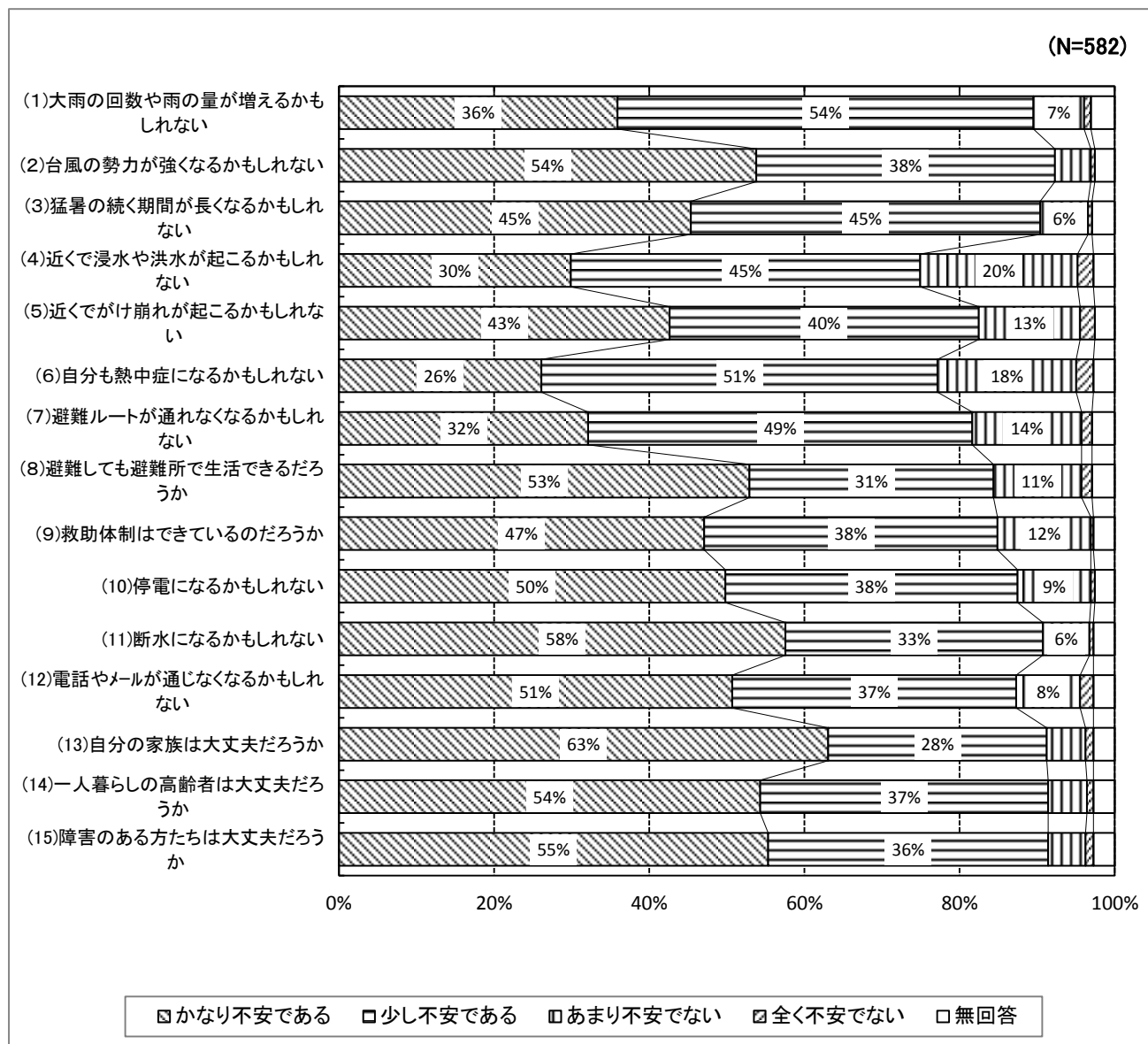
問 2 気候の変化やその影響に関して、あなたは今後、どのような情報が必要だと思いますか。それぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。



◆今後、どのような情報を必要としているかを聞いたところ、気候変動に伴う豪雨の増え方あるいはその影響、さらにそれらへの対策のいずれの項目においても「非常に必要だと思う」とする回答が55%～75%程度と最も多くを占め、気候変動に伴う豪雨に関する情報に対するニーズがとりわけ強いことが明らかになった。一方で、気候変動に伴う暑い日や暑い夜の増え方と暑さによる健康被害を防ぐ対策についての情報を「非常に必要だと思う」とする回答はいずれも40%程度で、これらの猛暑に関する情報に対するニーズは比較的低いことが伺える。

(3) 気候の変化による影響（被害）に対する不安感

問4 あなたは、気候の変化による影響や被害に対して次のような不安がありますか。それぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。

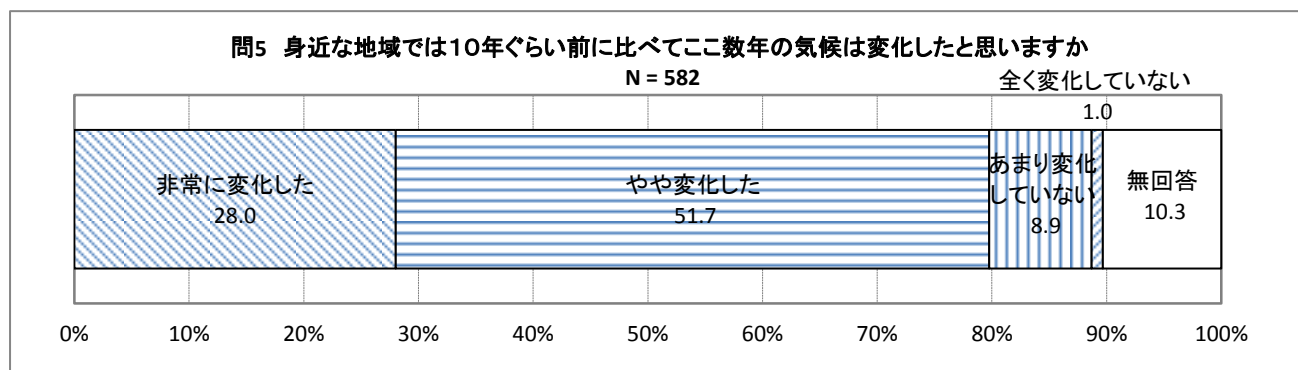


◆気候の変化による影響や被害に対する不安として、1)気象の変化が生じること自体に対する不安、2)自分自身が直接的な被害を受ける不安、3)避難が必要となった場合の不安、4)社会的な基盤が被害を受ける不安、5)家族など自分以外の他者が被害を受ける不安について、それぞれ3問程度を挙げて聞いたところ、多くの項目で「かなり不安である」とする回答が40%～65%程度を占めている。これに「やや不安である」とする回答を合わせると多くの項目で80～90%の回答者がこれらに対する不安感があることが明らかになった。

ただし、「近くで浸水や洪水が起こるかもしれない」や「自分も熱中症になるかもしれない」などといった自分自身が直接的な被害を受ける可能性に対する不安については、「非常に不安である」とする回答が30%程度と相対的に少なくなっている。

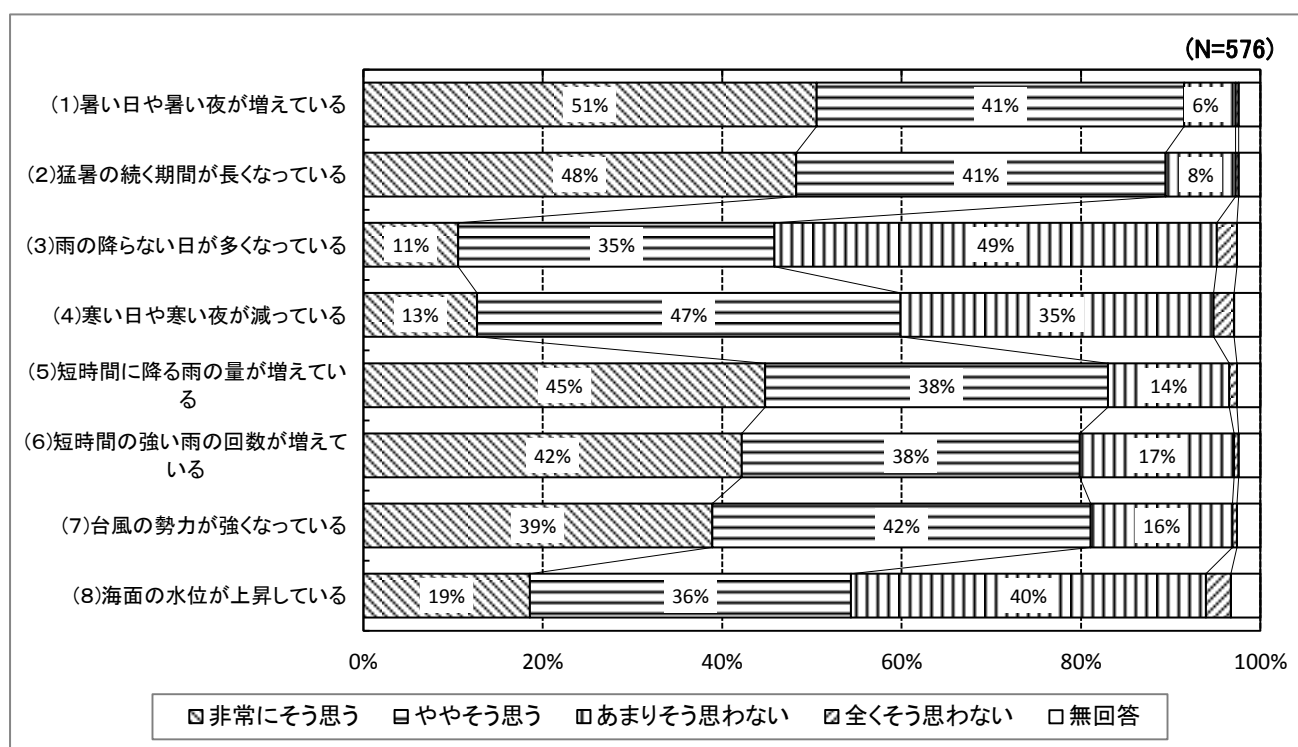
(4) 近年の気候の変化とその影響(被害)に対する実感

問5 あなたの身近な地域では、10年ぐらい前に比べてここ数年間の気候(気温や降水量など)は変化したと思いますか。あてはまるもの一つに○をつけてください。



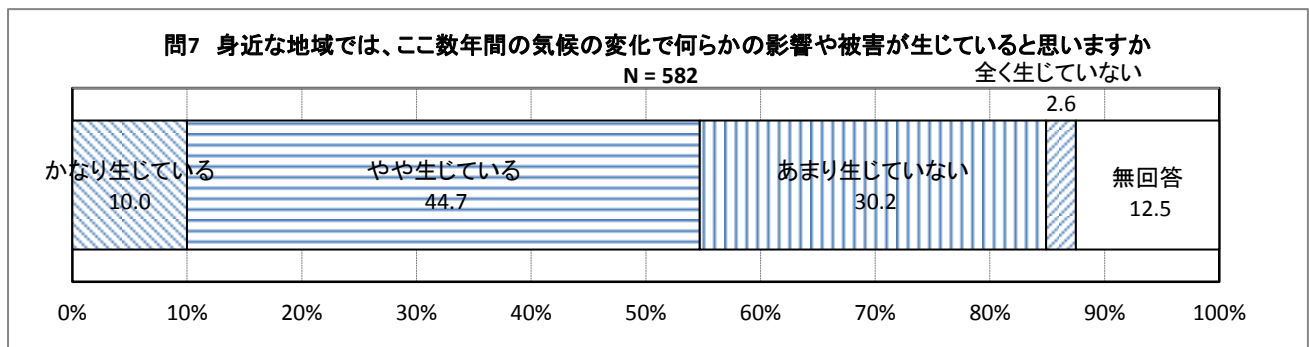
◆近年の気候の変化について、回答者の約3割が「非常に変化した」と回答し、「やや変化した」と合わせると回答者の約8割の人が身近な地域でここ数年間に気候が変化したと感じている。これは、第1回調査における気候が変化したと感じている人の割合(約9割)よりやや減少している。

問6 あなたの身近な地域では、10年ぐらい前に比べてここ数年間で次のような気候の変化が生じていると思いますか。それぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。



◆気候が変化したと感じている分野として、「暑い日や暑い夜が増えている」「猛暑の続く期間が長くなっている」などの暑さに関する回答が最も多く、次いで「短時間に降る雨の量が増えている」「短時間の強い雨の回数が増えている」などの豪雨に関する回答が多くなっている。また、「台風の勢力が強くなっている」についても豪雨と同じ程度に気候が変化したと感じている回答が多くなっている。

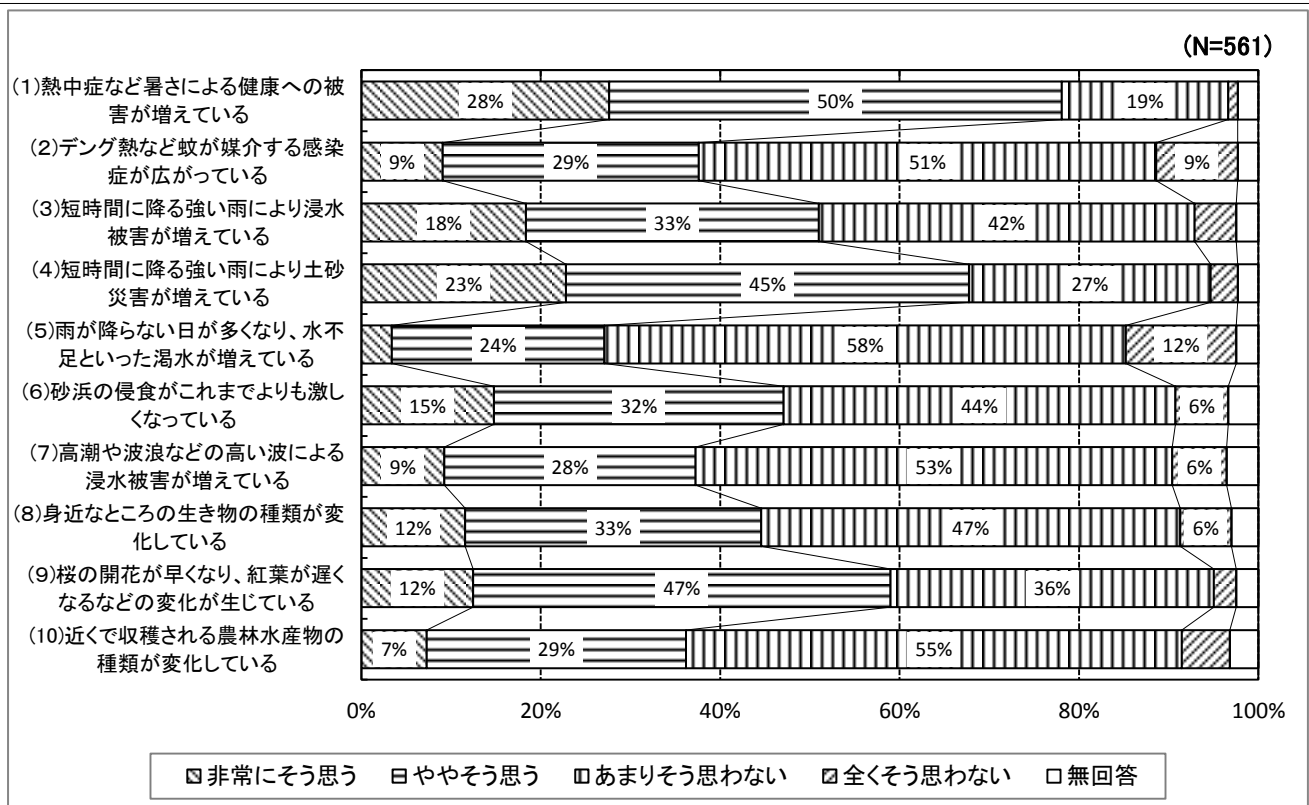
問 7 あなたの身近な地域では、ここ数年間の気候の変化で何らかの影響や被害が生じていると思いますか。あてはまるもの一つに○をつけてください。



◆身近な地域でここ数年間に気候の変化で何らかの影響や被害が、「かなり」または「やや生じている」と感じている人は回答者の半数を上回るが、「あまり生じていない」あるいは「全く生じていない」と感じている人も回答者の3割を超えており、第1回調査と同様に回答者の間で認識が分かれている。

(5) 将来の気候の変化とその影響（被害）に関する認識

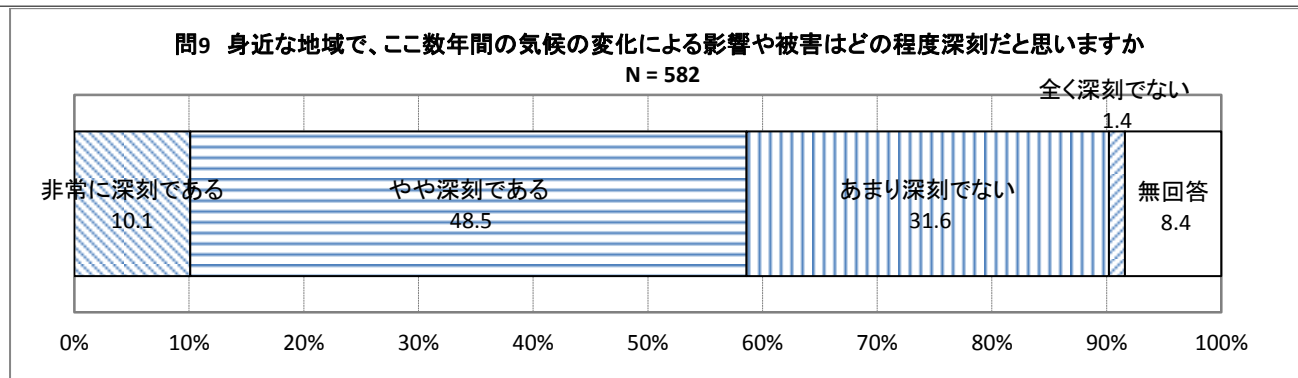
問 8 あなたの身近な地域では、ここ数年間の気候の変化で次のような影響や被害が生じていると思いますか。それぞれについて、あてはまるものに○をつけてくだ



◆気候の変化で影響や被害が生じていると感じている分野として、「熱中症など暑さによる健康の被害が増えている」と思う回答者の8割近くと最も多くなっている。次いで、「短時間に降る強い雨による土砂災害が増えている」と思う回答者も7割近くと多くなっている。これらに次いで「桜の開花が早く

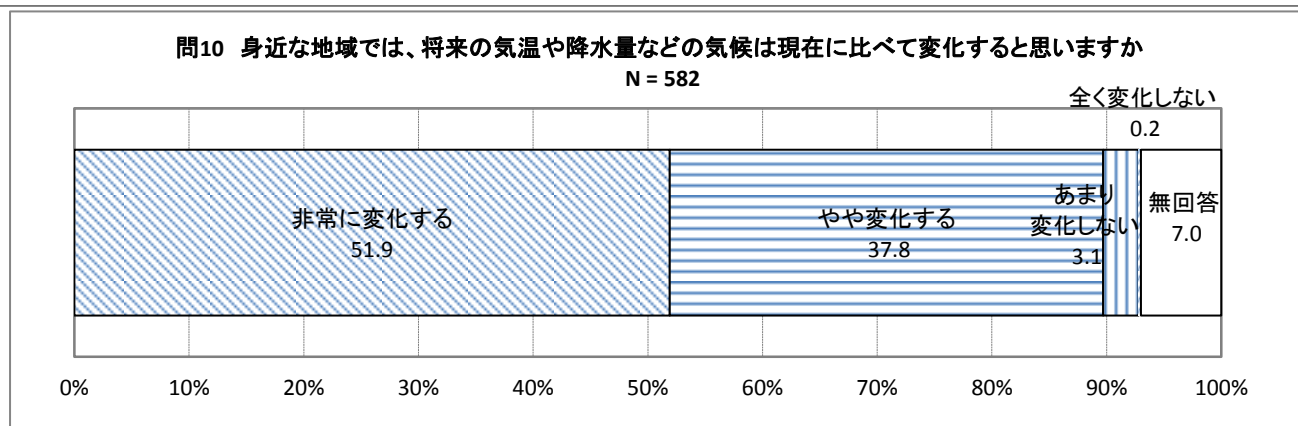
なり、紅葉が遅くなるなどの変化が生じている」と思う人が約6割、「短時間に降る強い雨による浸水被害が増えている」と思う人が約5割と多くなっている。

問9 あなたの身近な地域で、ここ数年間の気候の変化による影響や被害はどの程度深刻だと思いますか。あてはまるもの一つに○をつけてください。



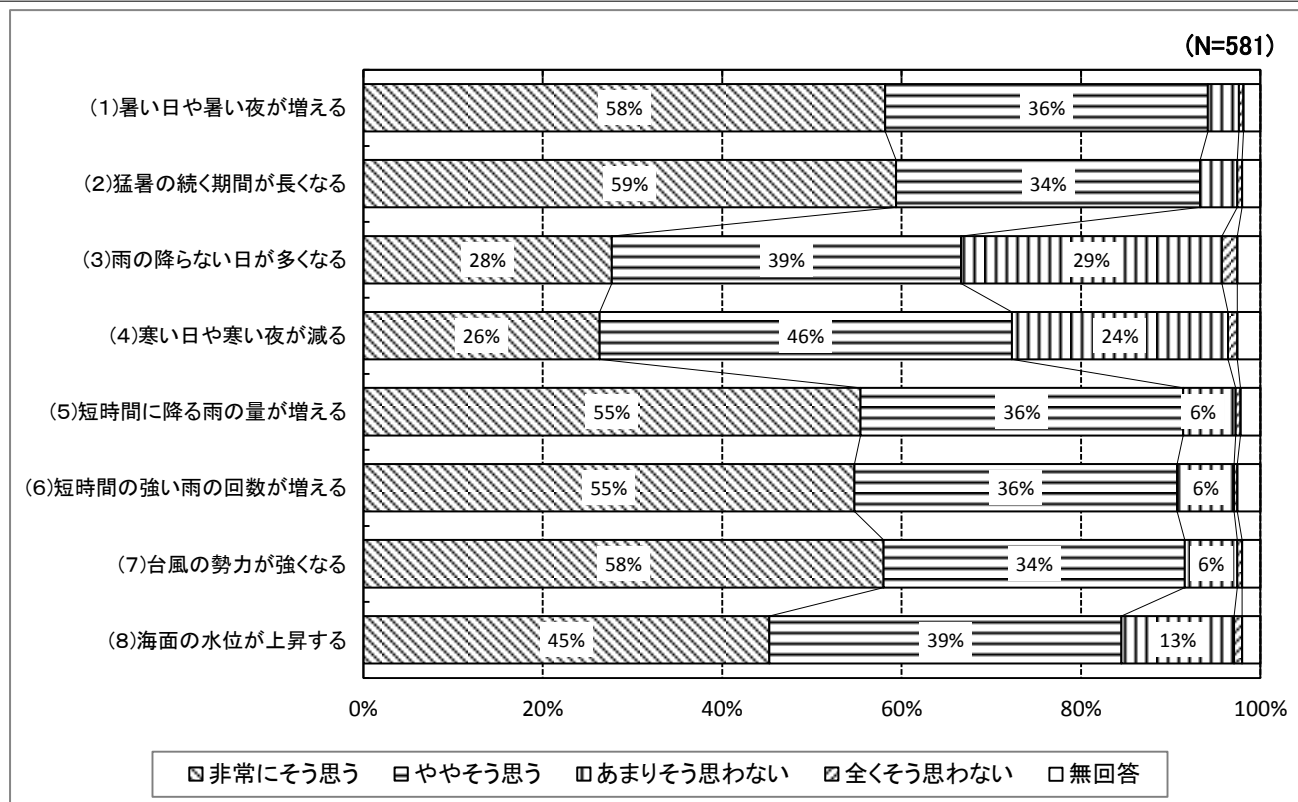
◆身近な地域でここ数年間の気候の変化による影響や被害が「非常に深刻である」あるいは「やや深刻である」と感じている人が回答者の6割近くになる一方で、「あまり深刻でない」あるいは「全く深刻でない」と感じている人も回答者の3割以上にのぼり、回答者の間でやや認識が分かれている。

問10 あなたの身近な地域では、将来（およそ50年後）の気温や降水量などの気候は現在に比べて変化すると思いますか。あてはまるもの一つに○をつけてください。



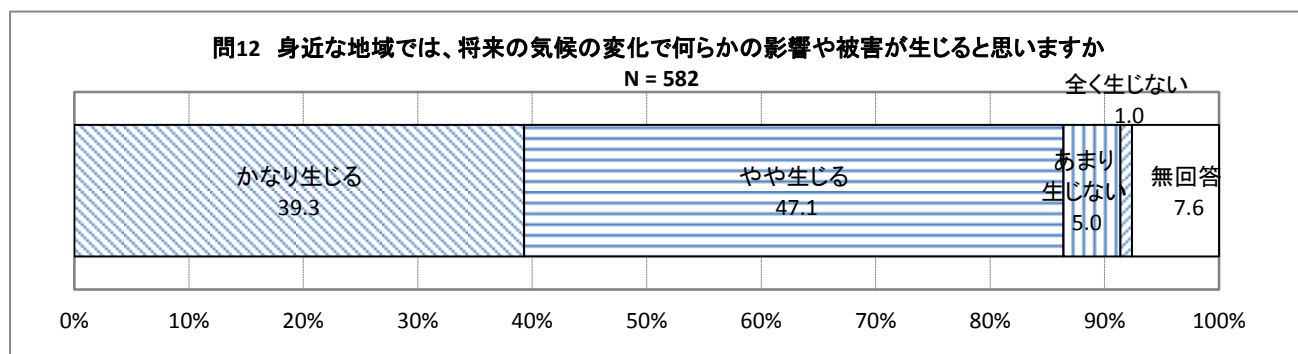
◆身近な地域において将来（およそ50年後）の気候が現在に比べて「非常に変化すると」と感じている人は回答者の約半数にのぼり、「やや変化する」と感じている人を合わせると回答者の約9割の人が将来の気候が変化すると認識しており、これは第1回調査の結果とほぼ同じである。

問 11 あなたの身近な地域では、将来（およそ 50 年後）に次のような気候の変化が生じると思いますか。それぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。



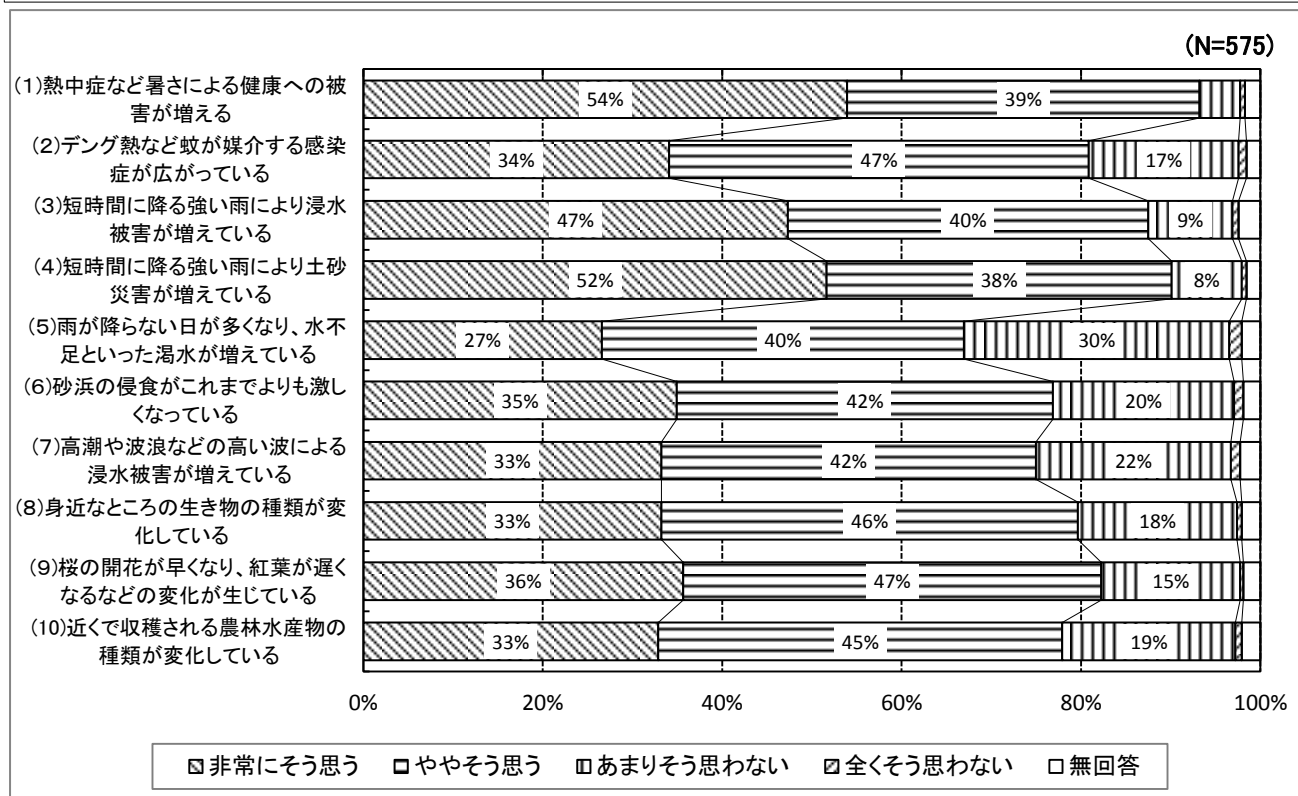
◆身近な地域において将来（およそ 50 年後）に気候が変化すると感じている分野としては、「暑い日や暑い夜が増える」「猛暑の続く期間が長くなる」などの猛暑に関するもののほか、「台風の勢力が強くなる」や「短時間に降る雨の量が増える」「短時間に強い雨の回数が増える」などの台風や豪雨に関するものが多くなっている。これらは第 1 回調査とほぼ同じ傾向である。

問 12 あなたの身近な地域では、将来（およそ 50 年後）の気候の変化で何らかの影響や被害が生じると思いますか。あてはまるもの一つに○をつけてください。



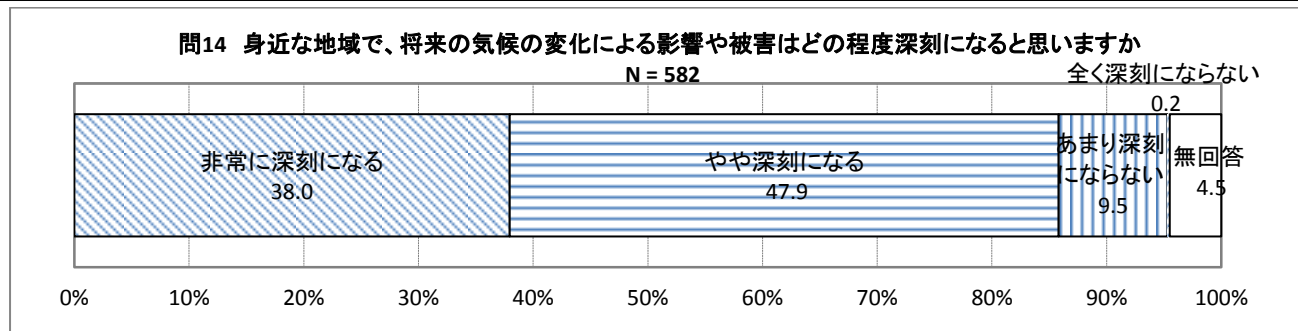
◆将来（およそ 50 年後）の気候の変化が身近な地域に何らかの影響や被害を生じさせると感じている人は、「かなり生じる」と「やや生じる」を合わせると回答者の 9 割近くとなり、多くの人が将来に身近な地域でも何らかの影響や被害が生じると考えている。この結果も第 1 回の調査とほぼ同じである。

問 13 あなたの身近な地域では、将来（およそ 50 年後）の気候の変化で次のような影響や被害が生じると思われますか。それぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。



◆将来の気候の変化で身近な地域で何らかの影響や被害が生じると考えられる分野として、「熱中症など暑さによる健康の被害が増える」や「短時間に降る強い雨による土砂災害が増える」については、「非常にそう思う」と回答した人が回答者の半数を超え、「短時間に降る強い雨による浸水被害が増える」でも「非常にそう思う」と回答した人が半数近くに上るなど、猛暑や豪雨に関する将来の影響や被害についての懸念が強い結果となっている。これらも第1回の調査とほぼ同様な傾向である。

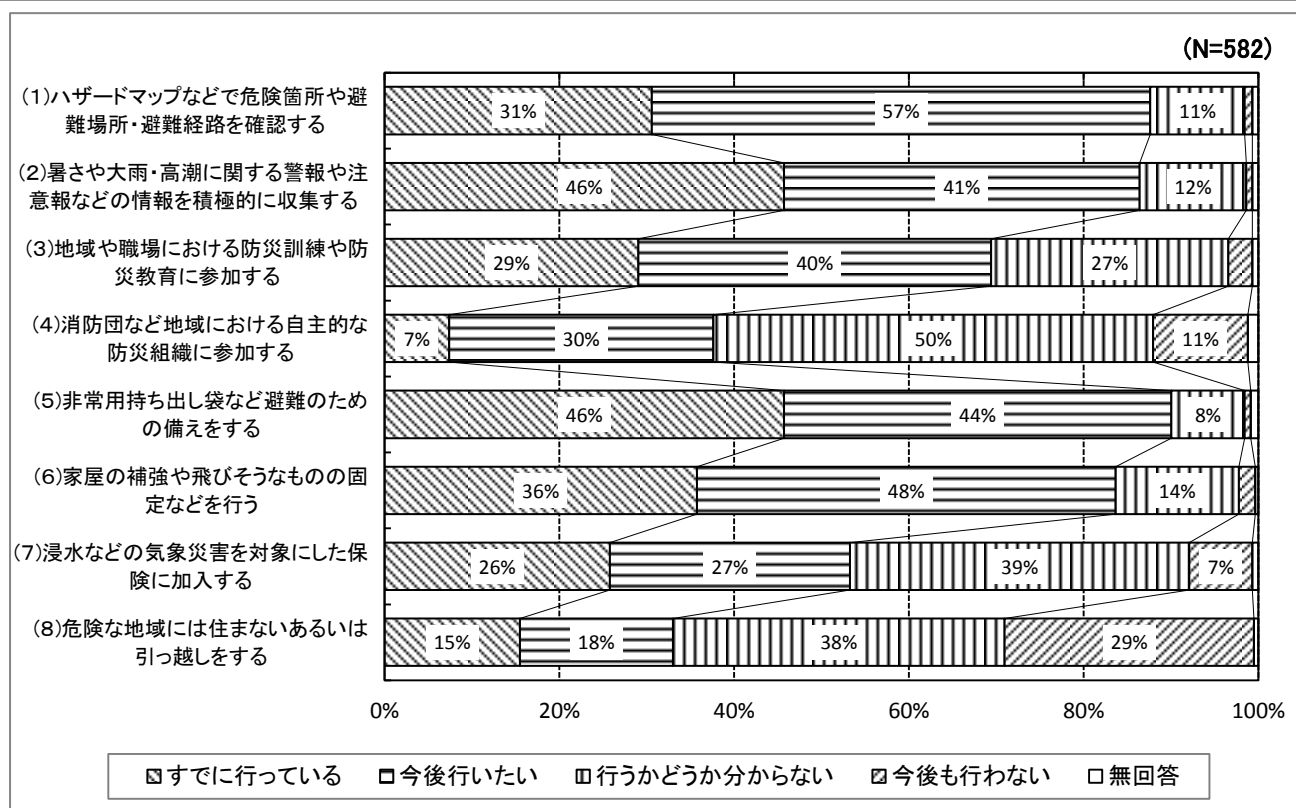
問 14 あなたの身近な地域で、将来（およそ 50 年後）の気候の変化による影響や被害はどの程度深刻になると思われますか。あてはまるもの一つに○をつけてください。



◆将来の気候の変化による影響や被害が身近な地域で「非常に深刻になる」と感じている人は回答者の約4割で、「やや深刻になる」と感じている人（約5割）と合わせると、第1回調査と同様に回答者の8割以上が身近な地域で将来の気候の変化による影響や被害は「深刻になる」と感じている。

(6) 対策への取り組みについて

問 15 あなたご自身は、気候の変化による被害を減らすために、次のような取り組みを行っていますか。それぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。



◆被害を減らすためにすでに行っているご自身の取り組みとしては、「気象情報の積極的な収集」と「非常用持ち出し袋などの備え」が5割近くで最も多く、これらに次いで「家屋の補強・固定」や「ハザードマップの確認」などの実施が多くなっている。第1回調査と比較すると「気象情報の積極的な収集」を「すでに行っている」とする人の割合は10ポイント程度少なくなっている。

4-3. 自由記述（気候変化やその影響、対策についての必要な情報）

問3 気候の変化やその影響、対策などに関して、このほかにもあなたが必要だと思う情報があれば、ご自由にお書きください。

- このリーフレットは不要と感じた。何を主張したいのか一切不明。目的も不明。何のためのものなのか分からない。無意味なことに資源と金を無駄に使ってるとしか考えられない。
- 結論、結局のところ思うことは、日頃から（日常生活）においてどれだけ相手のことを思いやり過ごしているかだと思います。（例）ゴミ出しや電気の使い方や外出時にゴミを捨てないなど基本的な事の積み重ねで環境が大きく変わると思います。自分一人ぐらい「いいや」ではなく、できることはする。これは人から気付かれることも少なく、褒められることもないと思いますが、何事も良く生きることが大事。この「良く生きること」とは哲学者でもあるソクラテスが言っていたことです。私もソクラテスに賛同することです。（良く生きるとは、正しく生きるという意味です。）
- パンフレットの紙が高いのではないのでしょうか。ゴミになるならそれこそエコや気候の変化を加速させていませんか。伝える回数を増やして認識してもらうことが大事。
- 市の大雨洪水などの地域のスピーカーでの警報を行ってくれているが、内容が聞き取りがたく改善要。また放送タイミングが遅い。
- リーフレットに書かれている内容の科学的根拠が示されていないので、分かりにくい。被害金額が示されているが、被害の実証が実感できない。
- 熱中症については外だけでなく、内でもなる危険も呼びかけた方がいい。政府ももう少し情報を出した方がよろしいと思う。
- 今冬の温暖化が不安。情報がほしい。
- 河川の水位情報について充実してほしい。
- 一日の間の気温変化。
- リーフレットに関してですが、誰もがテレビや新聞で得た情報を書いてあるだけで目新しくもなく、何の興味も持てません。あれだけのデータやら何やら、気候の変化や災害が起こるかもといった内容で、4 P目の「いかに対処すべきか」はお粗末なのは。この内容だったら表紙に1秒、見開きに19秒、4 P目に20秒目を通して捨てます。私ならば。災害を防ぐため、私たちがささやかでも工夫してできる事をもっと具体的に記してください。私はこのアンケートに横須賀の残された自然をいかに生かして、災害対策や気候の変動を抑制させるか、それに自分がどう協力できるかと考えて答えています。でもこのリーフレットは、制作してもムダだとは思えない内容でがっかりしました。
- 症状や前触れ
- 日々のCO₂の排出量
- 「あなたの身近な地域では、、、」の範囲が迷ってしまいます。個々人が思う地域でいいのでしょうか。
- 無駄な過剰な肉食は温暖化につながる原因。特に牛肉はエサと飼育に広い土地が必要であり、穀物をエサとすると貧しい人の食料が飢餓にもつながる。必要な分だけの生産にすべき、その他のファストファッションなども大量生産→余る→ゴミ→二酸化炭素→温暖化（質が良くないため、大事にせずすぐ捨てる）
- 真に勝手ですが、リーフレットに疑問などを記入させていただきました。ご迷惑でなければ、参考にさせていただければ幸いです。
- 健康への配慮が大切、その辺を誰もが心配していると思われる。後の検討材料としてほしい。

- より詳細な地域毎の現状と近い将来の予報（気候についての情報）及び危険性（災害発生の可能性）
- 気候の変化、影響は地域全体で考えるべきことだと思いますから、住居地域の情報が各市から具体的に周知することにより、なお一層関心を深めるものと存じます。地球温暖化等テレビ、新聞などで報道されていますが、認知は不足しています。今後も詳細な周知活動の推進を願い認識します。
- 熱中症予防に水分摂取を促すあまりに頻尿になったり、あわせて塩分を取るように言われるため、塩分を摂りすぎたりするケースがあるので、アドバイスは具体的に分かりやすく伝えてほしい。（もちろん人によって量などが変わるので、難しいと思うが。）熱中症のデータに気温のデータを載せてもらえたらもっと分かりやすいと思うのに、猛暑日のデータは1930-2010のもの。熱中症のデータは2012-2013のもので分かりづらい。
- 経年変化を示すデータの哲性に於いて、必ずしも悪化していない時も含め、正直な資料として示していくことが大変重要である。
- 対策でかかる費用
- 上記情報はニュースや天気予報などですでに知らされており、改めて必要と思わない。市としては地域の最新の情報を市民にどのように迅速に伝達するか、また、見回りや情報提供を通じ、土砂崩れの防止や津波対策などに努めてほしい。アンケート用紙に個人を特定できる番号が付されていることに違和感がある。アンケートを依頼する以上、調査結果は全員に送付した方がよい。2回に分けてほぼ同じ内容のアンケートには説明不足。
- よく大雨洪水警報のスピーカーが風向きで聞こえないことがほとんど。地域で1番身近な情報源なので（いつも外出時に聞くので危ない）伝達方法を改善してほしい。小学校の緊急連絡（台風、雪など）時のメールが遅い。8時20分頃入ってくる）せめて7時30分頃にしてもらえると助かります。
- スマートフォンのアプリなどを利用するなどして情報を得る事が必要だと思いました。また、スマートフォンを使っていない時にはテレビやラジオなどで呼びかけることがいいと思います。
- 地域ごとの具体的な身近にせまる情報が適度に提供してくれる環境があればいいと思う。媒体がテレビだけだという人でも、視聴していなければ、情報が耳に入ってくないので、防災放送等と同様に、1日数回でもいいので、周知させてくれれば、誰でも防げる災害はあると思われる。
- 熱中症などは自分自身で気を付けることで、ある程度防げらると思うので、予防の方法やならないという意識を周知に徹底する事も、大事だと思います。
- その他という訳ではありませんが、次に示すようなものの最新の情報を認識なり準備して有事の際、対応できる態勢を保つことがリスクを最小限に抑えることに繋がると思います。ただし、個人では疲れますので、自治会など地域で行うことが大事ですね。・電気・ガス・水道・飲料水・その他燃料・交通機関（鉄道、バス、道路）・安全（警察、海上保安庁、自衛隊）・病院・食料品（保存食、一般食）・家族との連絡網・各場所の避難経路
- 交通情報、雷
- それぞれの起こる要因を併記して有れば理解しやすい内容になるでしょう。交管庁が出すデータのみを集計するだけならばわざわざ新企画を立ち上げる必要はない。全国の原因が停止していった間にどれほどの海の中が改善され、従来の生物が戻ってきたかを思い出して見れば、役所などの公約機関の資料はあまり信じられないということになると思います。CO2だけが原因ではない。
- 温度が急に上がった、下がったり、10度以上の差が激しくて、衣類の調整が難しい。風邪をひきやすい。天気予報をこまめに見ます。
- 突風、竜巻。警報、対策。
- その土地の具体例などがあればとても良いと思います。「～地区は水害が過去に多く～」など

- 数年前近くで土砂崩れがあり、今だ対策がとれてない状態。心配です。
- 温暖化による海面の上昇による海岸の浸食。台風による高波や高潮について。
- 信頼性のある天気予報。
- 注意や配慮というような抽象的な言葉は避け、具体的な対策をパンフレットにまとめた方がより分かりやすくなると感じた。
- 年中行事（例 お正月 七五三）の時の前後の気象の変化。刻々と変わって温暖化しているのがよくわかります。緑がなくなり、エアコンを使ったり工業化が進んでいるので、難しいですね。
- 日頃何を心掛けていけばよいのかといったヒントのような情報を得る事が出来れば良いと思うのですが。
- 各町内にも情報を提供してほしい。
- 経済効果を待望のみでの都市計画による生態系への影響。住民環境の変化等を視野に入れた抜本的対策を含む。
- なぜそのような気候変動が起きているのかを皆が知る必要があると思います。その原因・要因への対策をとることが必要だと思います。
- 私自身が高齢者なので、もしも、避難所に避難した時にお医者様が何人かいてくださるのか。また高齢者はほとんどと言っていいくらい何らかの持病を持っているので薬は足りるのか。とっても心配です。
- 土砂災害など今後ありえそうな地域などもっと情報を多くその現場を公表してほしい。
- 情報は大変必要です。皆が情報に従い行動してしまったら、交通パニック等起き、身動きが出来なくなると思います。情報は慎重をお願いします。
- 今の場所に引っ越してきた時、窓から見える景色は緑の多い所でした。しかし、たった数年で山の木々は伐採せられ、緑はほぼなくなりました。その山で住んでいたであろう鳥たちも行き場をなくし鳴き声が響いています。伐採された跡地には住宅が建てられるようです。空き家も多いと聞く今、山を壊してまで住宅が必要なのか疑問です。
- もう既に気候の変化によって被害を受ける人々がいるのに情報だけでは足りないのでは。政府がもっと予算を組み、具体的に人々を救える（救助など）対策、シェルター、設備に早急に取り掛かるべきだと思う。
- 100年後も30年後や50年後のように近い将来についての予測を知りたいと思う。
- 防災放送の設備を増やす。
- 飼っている犬や動物への影響の有無。災害によって被害があった際、援助金が出るのか。避難所に犬は連れて行けるのか。などを知りたいです。
- 水不足や食料などの情報も早めに知りたい。
- 上記情報について（ピンポイントの位置）及び（正確な時間）の予測の確率を上げる事や、情報の伝達方法を検討する必要があると思います。
- 自分の地域でどんな対策をしているのか。どのような補助があるのかの情報が知りたいです。
- 狭い地域への適切な迅速な情報の提供
- 日中の寒暖の差
- 地球規模の時間スケールや自然の要因による変動もあるのが、人為的な要因で急速に変動している感がある。より多くの人が現状を認識（危機感）が持てるような啓蒙活動が必要かと思います。各情報は正確で理解しやすい内容であるべきです。
- 単発的でなく継続的に訴えかける取り組みが必要と思う。
- 気象現象は気象観測などの資源（人工衛星）により、予想がしやすくなっているが、他方の火山噴火や地震などによる被害の方が大きいことから気になる（津波、地震、噴火の情報）我が国は火山国であり、4つのプレートが組み合

っている。

- リーフレットの内容は人がに不安を煽るものです。雨量が増え、災害になり自害額が1000億になろうが1兆円になろうが、取るに足らぬことです。災害になりそうな場所に民家を建てる許可を出すことが悪なのです。
- 最近のニュース等では突風や竜巻に関するものも多く、その傾向や情報が知りたいと思います。
- がけ地の多い横須賀市の特徴から、がけ地防災対策が急務ではないか。
- 竜巻や突風による被害が増加すると思いますが、被害を最小限に防ぐ対策が必要で、行政の尽力を期待します。
- 居住地鴨居に住んで約40数年。数年前には降雪でこの地でチェーンを装置しなければ走行できなくなり、それ以前はそれほどの降雪ではなかった。又夏の暑さに対しては、クーラーを使わなかったが、それが蒸し暑さが夜遅くまで続き、クーラーを使わざるを得なくなった。住居が埋立地で前面海、後は崖で坂道津波に対しては、5M未満は上部の階へ行き、それ以上の際は避難をと思うが、坂道に行くのに早めの行動をと思っている。自分でできる対応についても考え、対応しています。東日本大震災の状況を踏まえ、3日～7日程度の最低限の生活を出来る備蓄と思っている。約半分以下の回収率私は60%以上あるのかと思った。
- 情報発信する仕掛けを構築する為の調整ですね？そうであれば市町村単位ではなく、国で考えてくださいと言いたい。
- 生活用水の影響と対策。具体的に知ること（地域ごとに）水不足は困る。
- 行政が速やかに災害が起こる前に的確に避難を呼びかける体制作りが必要だと思う。
- 暑い日が増えるのであれば食中毒関係の情報があってもいいと思った。
- 居住する地区には高齢者が多い。防災無線の音声聞き取りにくく、高齢者には内容が全く聞き取れていない。私にも???のことが多い。今のままでは全く意味が無いように思える。何らかの改善をお願いします。
- 避難場所の区別化。（土砂災害や浸水被害が想定される場合は、川の近くや海拔の低い避難場所へ向かうのはおかしい。危険な場所を通らなくても向かえるように地域ごとに明確に分かるようにする。）
- 台風も年々巨大化し、風雨勢力が強くなっている。雨もだが、強い風や竜巻などもとても心配。台風の進路や強風の情報もほしい。
- 情報はしても、各人に伝わらなければ用を足さない。例えば、今でも災害時に外で公の警報のアナウンスが流れているが、何を言っているのか聞き取れない。皆がそう思っています。メンテナンスをちゃんとしてください。
- 竜巻は防げないのでかなり怖い。
- 熱中症の自覚症状の説明を分かりやすく。災害が近づくことに気付く手だて等。
- 強風雨などの情報は各地域に具体的に届くと危険性が実感でき、対策しやすくなると思う。
- 住宅開発の為の山などへの土地開発は厳しく規制したらいい。町ぐるみでクールシェアする時間帯を設ける。（デパート、ショッピングモールなどで）又、その逆もあり。台風による浸水被害をもっと早めに。ラジオ、テレビで早めに避難を促す。（自然の被害は想定外なので、～だろうではよくない。
- 横須賀から緑地が極端に減ったと思う。これ以上の緑地の減少を止めるために、「開発」の名による湿地破壊を防止する政策を抽出してほしい。そして、できれば湿地保全だけでなく、緑地増設を図ってほしい。
- 身近に相談できる場所の情報。ホットラインの番号など。
- 農作物に与える影響。
- 他、防災無線（スピーカー）聞こえずらい。また、警報がでると天候が回復する（多少なり共に市民は思っています）職員や市民が意識を持ち、協力できるか（勝手に廻らない事を望みます。）
- クールビズを推奨させるような情報。
- 水不足に関する情報。気候変動による農水産物に関する情報。

- 気象災害について国、県、市はどのような対策をとっているか。またがとろうとしているか。(将来を見通して)
- 強風等の風に関する情報。
- いつか富士山が噴火するとしたら私はとても心配です。富士山が噴火するとどうなるのかを教えて下さればうれしいです。
- ハリケーン情報
- 中国からのPM2.5情報を知らせてほしい。
- 住宅への開発を減らし、森林の確保に重点を置くべきでは。
- あふれやすい排水溝などの情報。低い位置での危険性。
- 横須賀は気候が北関東の方に比べると穏やかなので、私の身近な地域で考えると、暑い日やゲリラ豪雨は少なく感じます。ただ山が多いので土砂災害が気になります。電車が止まった事がありましたが、車道も16号のトンネルで災害があった場合はどうなるのか心配です。気象情報で危険が予想される事、対策など私はテレビで見ますが、それ以外で情報を得る事がほとんどありません。停電になるとテレビが見られなくなってしまうし、テレビを見ない人はそう言った情報をどのように得ればいいのか。豪雨の時、放送（警報）だけで大丈夫か。聞き取れるのか。
- お年寄りの方は情報を知ることができる人とできない人がいると思うので皆に（特にお年寄りの方）を知らせる方法を考えていただきたい。
- ヴェネツィアや南極などのように景観が変わってしまうとか、横須賀でもありましたが、集中豪雨でがけ崩れが起こりやすくなるとか、写真で見せてもらった方が説得力があると思います。数字の変化に対しても、棒グラフなどで10年前～30年後などの予想図の方が分かりやすいと思います。
- 温暖化による海面の上昇による海岸の浸食。台風による高波や高潮について。海面上昇に関して、具体的な説明がほしい。台風による被害軽減策。高潮による被害を防ぐには。具体的にどのくらい海面上昇するかなど。
- 浸水、土砂災害の危険について手早い情報伝達の方法を工夫してもらいたい。情報を発信しても、受ける側へ正確に伝わっていない現実がある。
- 現状情報を伝えるものの強化が必要。
- 災害が心配される多方面からの情報発信の必要性。
- 必要な情報ではないですが、HP以外に、市の相談窓口や市役所のコーナー（あるのかわかりませんが）も案内もあると、高齢者の方に対してはいいと思います。
- リアルタイムな情報が必要である。
- 人工的な環境の実態について。
- 生鮮食品に携わっています。毎年入荷量が減っている。価格面でも上昇気味、さまざまところで変化がある。「急速」に。
- 石炭による火力発電の廃止。原発の再使用。火力発電（石油）を減らす。中華人民共和国の解体、革命による一党独裁の廃止。人民元の10分の1の価値にする。中国の石炭の発電の中止。焼畑の禁止。LNGによる発電。
- 何を根に回しているか理解できない。
- 短時間というのは個人差の考えがあり、行政側から言って頂いた方が、人は動くのだと私は感じています。
- お年寄りの方々に熱中症への対策を指導する機会があったのですが、変わる気候、増える災害の数値をグラフで表すより、「今後変わりますよ！増えますよ。」そのためにどんなことを備え、準備、対処すべきかを具体的にイラスト付きで提供した方が分かりやすいのではないのでしょうか。気温を調整する事。一言で言っても44度の室内で扇風機だけで過ごす方がどんなに多いことか。本人が平気だと思っていることが実は平気ではないことを、冷房が嫌いとか言

ってる場合ではないと、どうしたら知らせるることができるのか。と毎年夏が近付くと心配になります。こちらに書くべき内容とずれましたが、市として何とかお願いしたいと思います。

- 過去に大雨で平作川が氾濫し護岸工事が行われ平作川からの氾濫は起こらないでしょうが、大雨が降ったら雨水の水位が平作川の水位より高くなったら、雨水が平作川に流れ込めず、低位の地域は浸水してしまうのでは。そのような情報はどのように行うのか。
- 気象による被害が起こりやすい地域に、電光表示板などによる警報を発する。または、発生に可能性（確立）を表示して注意を促す。
- 浸水被害や土砂災害の緊急避難時は住んでいる地域のどこに行くべきか、普段に確認しておく必要があることをリーフレットで今一度呼びかける必要があるのでは。
- 災害弱者の為の情報。
- デング熱などの感染があるものの発生状況については早く詳しくみんなに伝わるようにしてほしい。発生箇所等。
- スズメバチなどの危険。
- 個人で実施できる地球温暖化の方法を具体的に発信してほしい。
- 自治体の現在。今後の取り組みについて。
- 世界的に行うCO2対策だと思うが。
- 短時間に降る強い雨と風との情報について。
- 暑い日が続くとき熱中症を防ぐのにエアコンを使うようにと言われていますが、全家庭でエアコンを使って更なる温暖化を招くことはないのでしょうか。
- 子供や年配者の対応や対策。PM2.5対策などについての情報。
- 特に高齢者に対する情報伝達が重要である。
- 災害時における備蓄は十分に市民に行き渡るのだろうか。状況によっては頂けないケース～当社東日本大震災の時、ある一部に行き、一部は全然連絡さえなく、一夜し、昼食後自宅へ帰る迄、食がなかったり、何もしががありました。その辺の連絡はいかにしているのか。防災放送ならかなり確実性があるのですが、衣食住はなくてはならないもの。一番弱い立場の人がいつも泣かされているのが実情である。不公平に欠けないよう行き届けて頂きたい。
- 若い人はあまり災害に対して関心がないと思うので、もっとインターネットの活用し、メルマガみたいなもので自分が住んでる所から最適な場所の避難場所を探せるサイトがあるといいかも。（内容：災害で起きた時にする事。最低でもこれくらいは持っていればしのげる等の商品紹介など）
- 気候変化の原因は何か。についての意識調査が必要と思う。「気候変化ありき」も対策は私にはあまり興味がない。
- 例えばアメッシュのようなリアルタイムの情報をもっと必要だと思う。
- 台風、大雨、強風などによるがけ崩れや倒木を防ぐために山を持っている地主は樹木などの手入れ（枝の伐採など）を定期的にするように行政が指導してほしい。
- 交通情報
- 被害にあってしまった場合、具体的にどうしたらよいのか、どこに何を連絡したらいいのか。ハザードマップを見たことがないので、一家に数枚、新しい情報を加えながら（更新）常備できるように、駅や店など身近なところに置いたり、町内で定期的に配布してほしい。
- 自然を相手なので公的機関の方に頑張ってほしいですね。デング熱など蚊の媒介については池、沼、湿地の多い場所、森林、公園の予防的措置は行ってほしいです。
- 夏にはエアコンをひかえめに！

- 設問の中で対策については、対策についての情報のため、具体性に欠けていて、答えにくい。
- 気候の変化の影響が分からないが（渡り鳥）のモズが異常繁殖しているように思う。今までにはなかったことです。
- 地域、地形、場所及び輻射熱等による体感温度の違いと危険性。
- 同じような質問がくどく、多いような気がしました。もっと質問を内容の濃いものにされた方が良いと思います。忙しい時間を使っていますので。
- 竜巻、突風。
- 何を言っても、急傾斜地域なので、大雨注意報である。
- 今住んでいる地域の情報がリアルタイムにお年寄りにも届くようなネットワークがあるといい
- 報道その他いろいろな場面で話題になり、本当にこれから地球はどの様になってしまうのか心配はつきません。前回でも記しましたが、地球上の人口があまりにも増加してしまったのではないのでしょうか。いくら地球にやさしい生活をと努力しても限界があり昔のような生活には戻れません。環境の悪化にともない生きていけなくあぶれた人々はどこは向かうのでしょうか、世界の地域で起こっている紛争、テロはこのような原因で向かわざるえない人々の道であると思います。人、一人生きていくためにはどれだけ森を伐採し畑から食料を得るのでしょうか・・・？プラスチック製品はなるべくさけ、自然素材、自然にかえる物を使い生ごみは庭へ肥料として返し、リサイクルへできるものは分別して出し、だれもがやっていることはしていますがどう考えてもやはり人間は地球汚染物質にすぎないと思うのは私だけではないでしょう。経済優先ばかりへはしっては、本当に取り返しがつきません。地球人口はどの程度の数が良いのか・・・と思う今日今頃です。
- 横須賀市のごみの量、動物「カラス」「野良猫」などは気候に関係、相関性はないのか？
- 地震に関する情報（断層等）、地域ごとのリスクマップ、避難場所（経路）について
- 天候による交通機関の情報
- きこうが変化しているのは感じますが実感としてまだ正直感じていない。排水溝、川の堤防等が安全なのか？すこし心配です。
- もしもの緊急連絡先や対応の仕方
- 各所の排水溝（側溝）に落ち葉や植物が根付いていたり・・・気になります。各自治体で号令（ボランティア）を掛け定期的にすると良いと思います。個人では勇気がありません。
- どの地域が今後危険な可能性があるか等、少し切り込んだ内容を伝えていただけたら役立てる思います。
- 温暖化の影響もあり、今後色々の災害、自然災害がおこる可能性は多いと思う。ヒートアイランドでもあり都会はびるばかり、これから先、自分たちは今、暑いときクーラーを使用したりする家電等に助けられているが、いざすべての電源が使用できなくなった時などの対応方法や節電に心がけたり自分たちでできることは少しでも助け合い考えていきたい。今後何十年先はこのままではどうなっていくのかがしんばいです。

5. 第1回調査から第2回調査における意識の変化

第1回調査と第2回調査においては、次のような内容において共通の質問を行った。

- ①気候変化による影響（被害）に対する不安感
- ②近年の気候の変化とその影響（被害）に対する実感
- ③将来の気候の変化とその影響（被害）に関する認識

第1回調査と第2回調査のいずれにも回答がある498名を対象に、共通の質問項目で回答に差があるかどうかをノンパラメトリック検定（対応サンプルによるウィルコクソンの符号順位検定）を行った。この結果、有意水準5%で統計的に有意な差が見られた項目は次の項目であった。

内容	質問項目	第1回	第2回
気候変化による影響（被害）に対する不安感	気候の変化による影響や被害に対して次のような不安がありますか。 (2)台風の勢力が強くなるかもしれない	問 14-2	問 4-2
	気候の変化による影響や被害に対して次のような不安がありますか。 (4)近くで浸水や洪水が起こるかもしれない	問 14-4	問 4-4
	気候の変化による影響や被害に対して次のような不安がありますか。 (5)近くでがけ崩れが起こるかもしれない	問 14-5	問 4-5
	気候の変化による影響や被害に対して次のような不安がありますか。 (6)自分も熱中症になるかもしれない	問 14-6	問 4-6
	気候の変化による影響や被害に対して次のような不安がありますか。 (7)避難ルートが通れなくなるかもしれない	問 14-7	問 4-7
	気候の変化による影響や被害に対して次のような不安がありますか。 (11)断水になるかもしれない	問 14-11	問 4-11
近年の気候の変化とその影響（被害）に対する実感	あなたの身近な地域では、10年ぐらい前に比べてここ数年間の気候（気温や降水量など）は変化したと思いますか。	問 1	問 5
	あなたの身近な地域では、10年ぐらい前に比べてここ数年間で次のような気候の変化が生じていると思いますか。 (1)暑い日や暑い夜が増えている	問 2-1	問 6-1
	あなたの身近な地域では、10年ぐらい前に比べてここ数年間で次のような気候の変化が生じていると思いますか。 (2)猛暑の続く期間が長くなっている	問 2-2	問 6-2
	あなたの身近な地域では、10年ぐらい前に比べてここ数年間で次のような気候の変化が生じていると思いますか。 (3)雨の降らない日が多くなっている	問 2-3	問 6-3
	あなたの身近な地域では、10年ぐらい前に比べてここ数年間で次のような気候の変化が生じていると思いますか。 (4)寒い日や寒い夜が減っている	問 2-4	問 6-4
	あなたの身近な地域では、10年ぐらい前に比べてここ数年間で次のような気候の変化が生じていると思いますか。 (7)台風の勢力が強くなっている	問 2-7	問 6-7

	あなたの身近な地域では、10 年ぐらい前に比べてここ数年間で次のような気候の変化が生じていると思いますか。 (8)海面の水位が上昇している	問 2-8	問 6-8
	あなたの身近な地域では、ここ数年間の気候の変化で次のような影響や被害が生じていると思いますか。 (1)熱中症など暑さによる健康への被害が増えている	問 4-1	問 8-1
	あなたの身近な地域では、ここ数年間の気候の変化で次のような影響や被害が生じていると思いますか。 (3)短時間に降る強い雨により浸水被害が増えている	問 4-3	問 8-3
	あなたの身近な地域では、ここ数年間の気候の変化で次のような影響や被害が生じていると思いますか。 (5)雨が降らない日が多くなり、水不足といった渇水が増えている	問 4-5	問 8-5
	あなたの身近な地域では、ここ数年間の気候の変化で次のような影響や被害が生じていると思いますか。 (6)砂浜の侵食がこれまでよりも激しくなっている	問 4-6	問 8-6
	あなたの身近な地域では、ここ数年間の気候の変化で次のような影響や被害が生じていると思いますか。 (7)高潮や波浪などの高い波による浸水被害が増えている	問 4-7	問 8-7
	あなたの身近な地域では、ここ数年間の気候の変化で次のような影響や被害が生じていると思いますか。 (9)桜の開花が早くなり、紅葉が遅くなるなどの変化が生じている	問 4-9	問 8-9
	あなたの身近な地域では、ここ数年間の気候の変化で次のような影響や被害が生じていると思いますか。 (10)近くで収穫される農林水産物の種類が変化している	問 4-10	問 8-10
	あなたの身近な地域では、ここ数年間の気候の変化による影響や被害はどの程度深刻だと思いますか。	問 5	問 9
将来の気候の変化とその影響（被害）に関する認識	あなたの身近な地域では、将来（およそ 50 年後）の気温や降水量などの気候は現在に比べて変化すると思いますか。	問 6	問 10
	あなたの身近な地域では、将来（およそ 50 年後）に次のような気候の変化が生じると思いますか。 (1)暑い日や暑い夜が増える	問 7-1	問 11-1
	あなたの身近な地域では、将来（およそ 50 年後）に次のような気候の変化が生じると思いますか。 (2)猛暑の続く期間が長くなる	問 7-2	問 11-2
	あなたの身近な地域では、将来（およそ 50 年後）に次のような気候の変化が生じると思いますか。 (3)雨の降らない日が多くなる	問 7-3	問 11-3

あなたの身近な地域では、将来（およそ 50 年後）に次のような気候の変化が生じると思いますか。 (4)寒い日や寒い夜が減る	問 7-4	問 11-4
あなたの身近な地域では、将来（およそ 50 年後）に次のような気候の変化が生じると思いますか。 (7)台風の勢力が強くなる	問 7-7	問 11-7
あなたの身近な地域では、将来（およそ 50 年後）の気候の変化で次のような影響や被害が生じると思いますか。 (1)熱中症など暑さによる健康への被害が増える	問 9-1	問 13-1
あなたの身近な地域では、将来（およそ 50 年後）の気候の変化で次のような影響や被害が生じると思いますか。 (5)雨が降らない日が多くなり、水不足といった渇水が増える	問 9-5	問 13-5
あなたの身近な地域では、将来（およそ 50 年後）の気候の変化で次のような影響や被害が生じると思いますか。 (9)桜の開花が早くなり、紅葉が遅くなるなどの変化が生じる	問 9-9	問 13-9
あなたの身近な地域では、将来（およそ 50 年後）の気候の変化による影響や被害はどの程度深刻になるとと思いますか。	問 10	問 14
あなたご自身は、気候の変化による被害を減らすために、次のような取り組みを行っていますか。 (2)暑さや大雨に関する警報や注意報などの情報を積極的に収集する	問 13-2	問 15-2

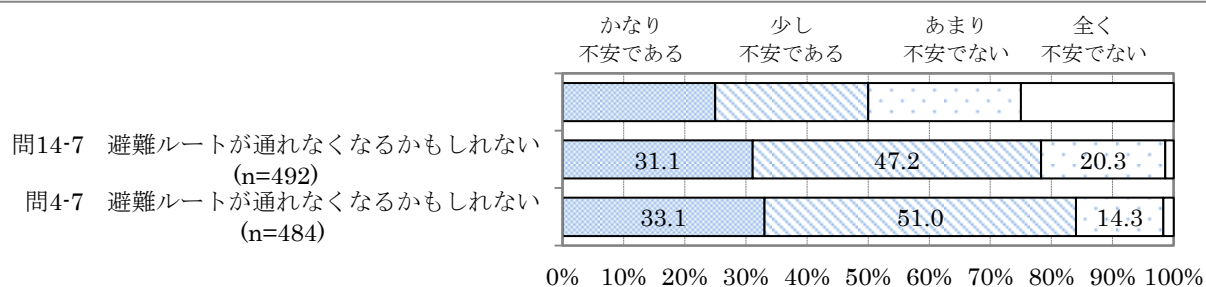
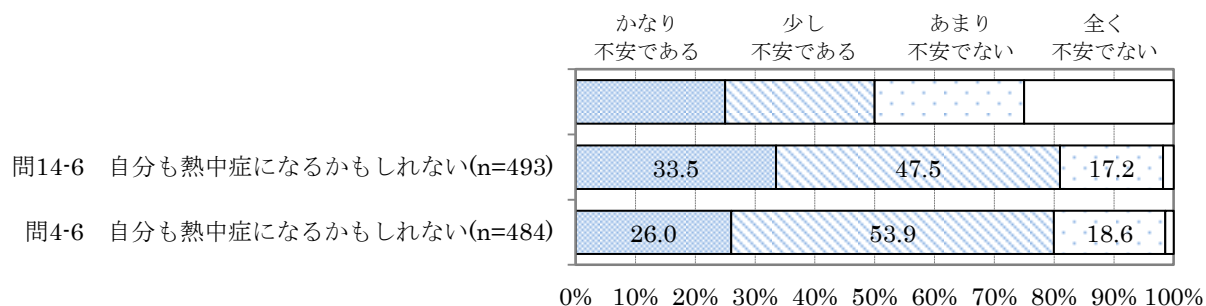
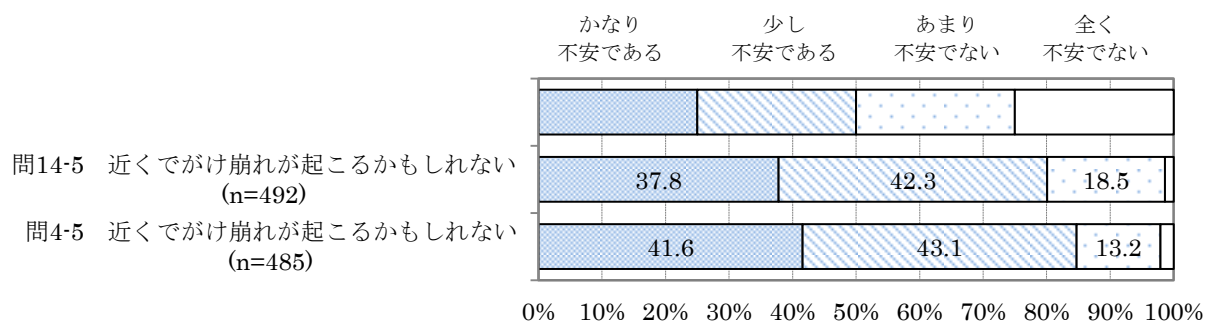
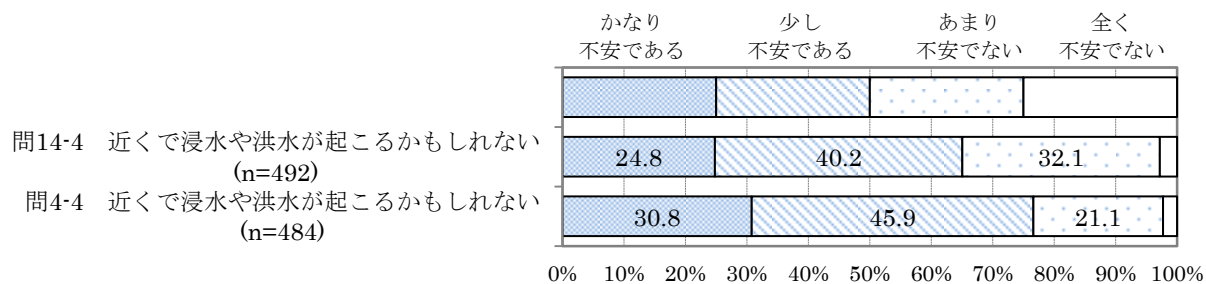
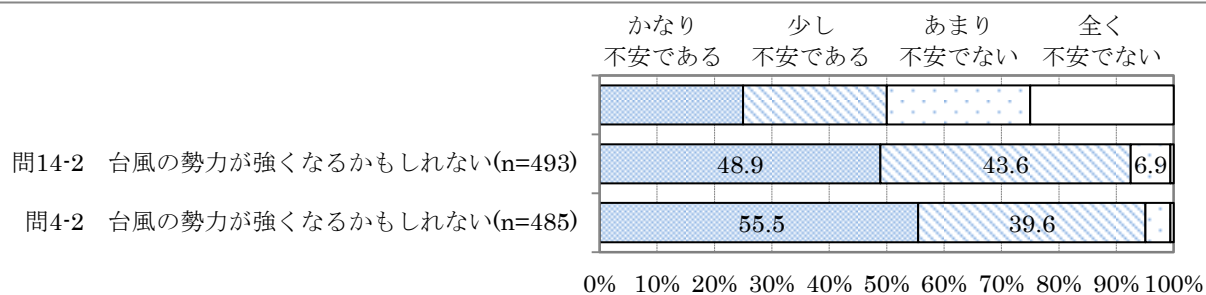
この結果、リーフレット（次章参照）を同封した第 2 回調査の方が第 1 回調査よりも気候の変化による影響について「近くで浸水や洪水が起こるかもしれない」や「近くでがけ崩れが起こるかもしれない」という危機感が増し、自分事として捉える人が増えていることが明らかになった。

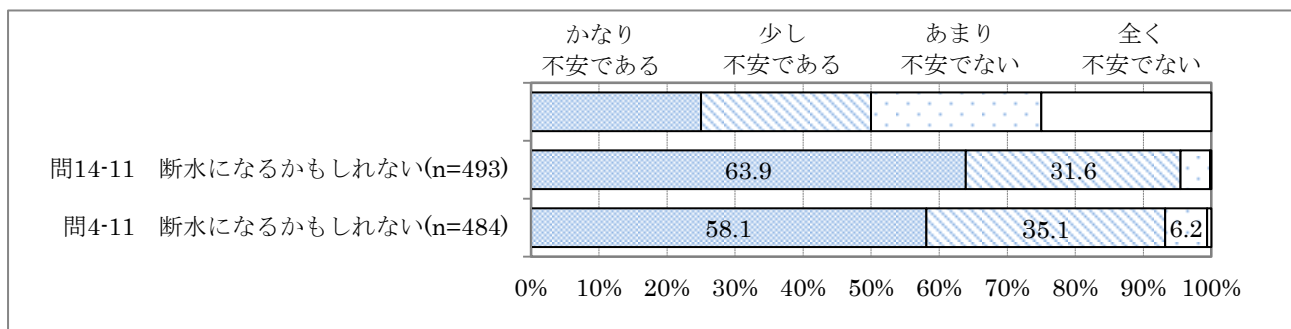
また、身近な地域における具体的な気候の変化として、「暑い日や暑い夜が増えている」や「猛暑の期間が長くなっている」ことの実感及び将来にこれらの気候の変化が生じることへの認識はやや弱まり、これらの影響として「熱中症など暑さによる健康被害が増えている」ことの実感及び将来生じることの認識も弱まっていると考えられる。これらの変化は、第 1 回調査（9 月～11 月）と第 2 回調査（11 月～翌年 1 月）で暑さに対する実感や認識に変化が生じた可能性が考えられる。

また、「身近な地域においてここ数年間で気候が変化した」や「将来の気候が現在よりも変化するか」との認識は、いずれも第 1 回調査では「非常に変化した（変化する）」とする回答が約 5 割～7 割であったが、第 2 回調査では「非常に変化した（変化する）」とする回答が 10 ポイント以上減少している。これらはリーフレットを通じた気候変化に関する情報提供により、認識が修正された可能性が考えられる。

以下では、これらの質問項目において第 1 回調査から第 2 回調査で具体的に回答にどのような変化があるのかを述べた。

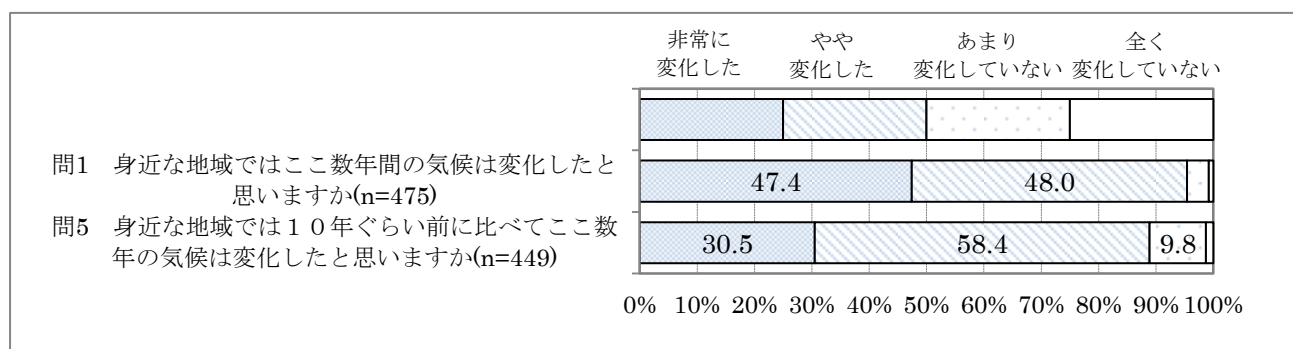
5-1. 気候変化による影響（被害）に対する不安感の変化



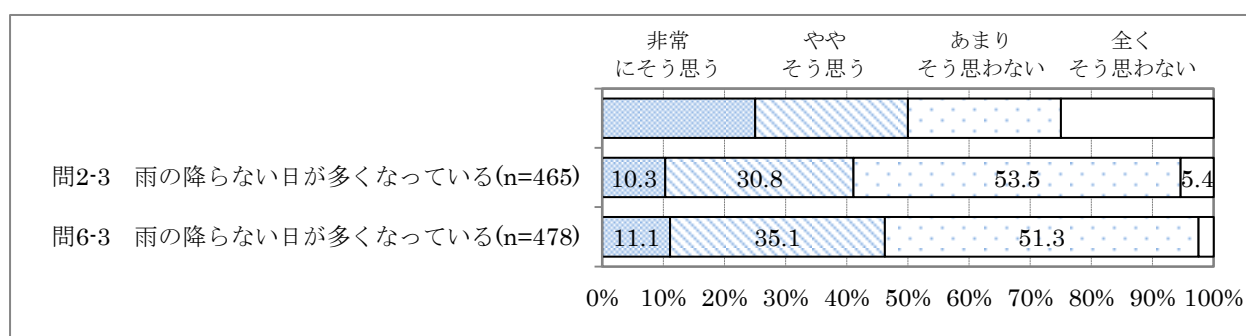
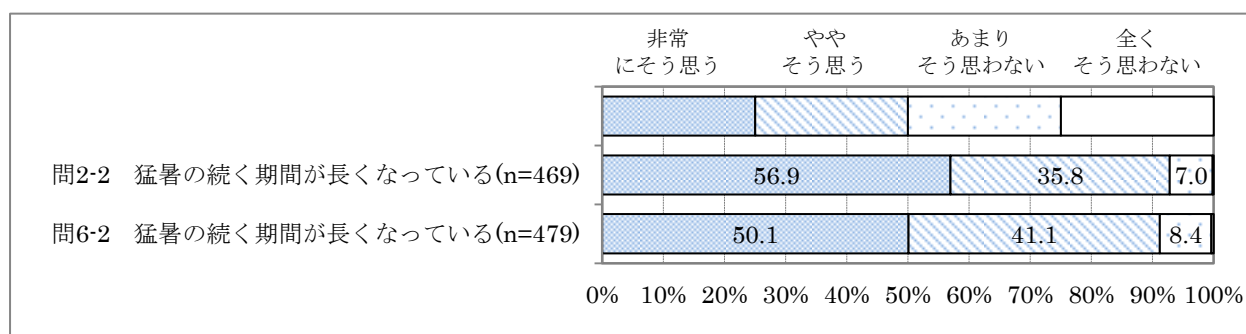
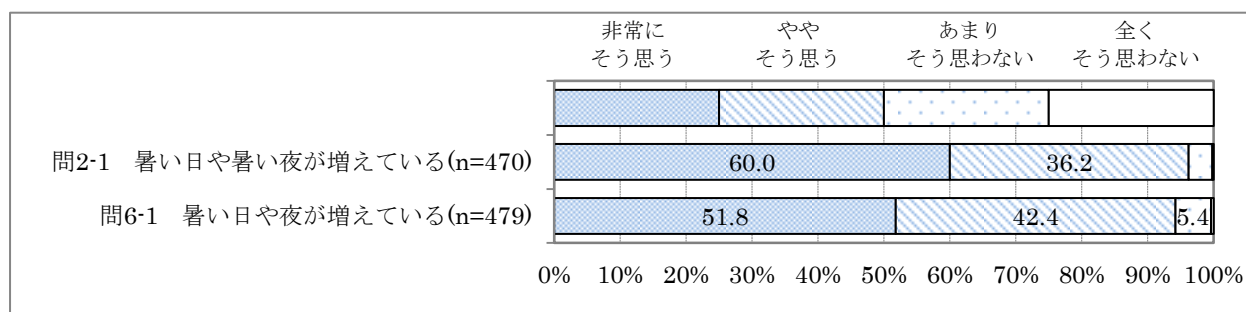


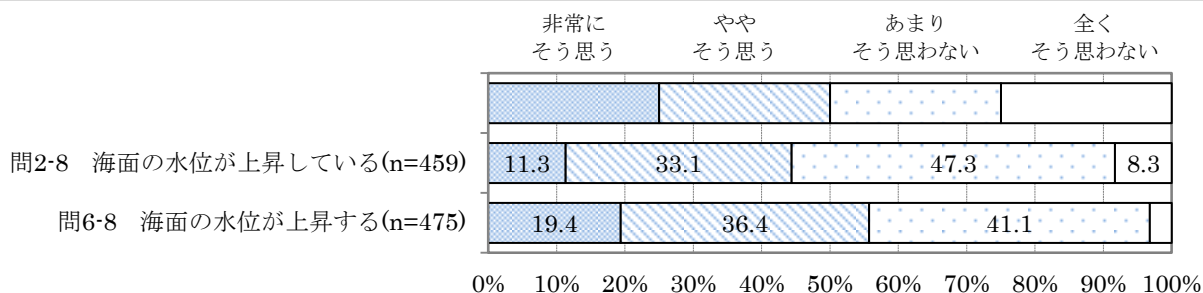
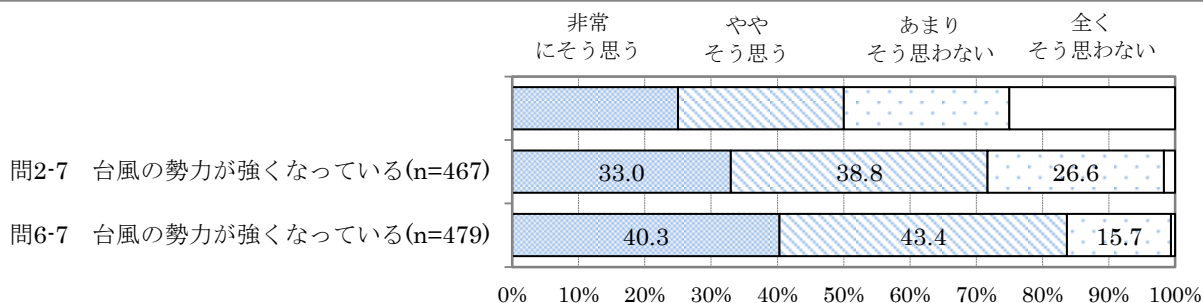
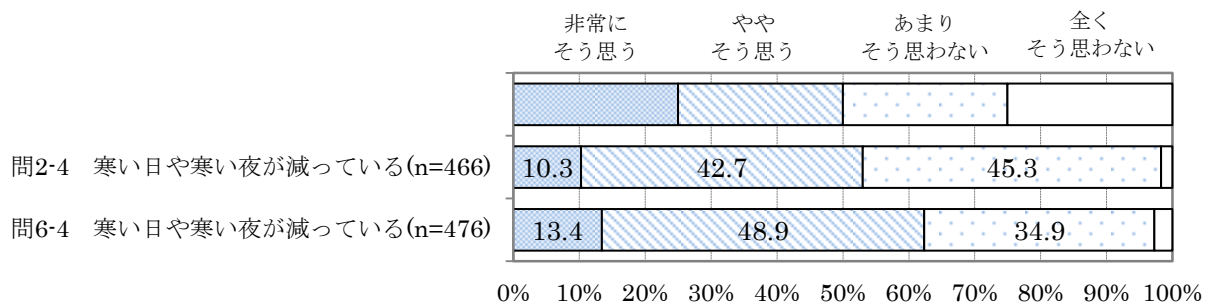
◆気候の変化による影響（被害）に対する不安感のうち、「台風の勢力が強くなるかもしれない」「近くで浸水や洪水が起こるかもしれない」「近くでがけ崩れが起こるかもしれない」などの身近で自分自身が直接的な被害を受ける可能性に対する不安において、第1回調査より第2回調査の方が「かなり不安である」とする回答が増え、「少し不安である」とする回答も多くの項目で増えている。一方で「自分も熱中症になるかもしれない」や「断水になるかもしれない」では、「かなり不安である」とする回答が減っている。

5-2. 近年の気候の変化とその影響（被害）に対する実感の変化

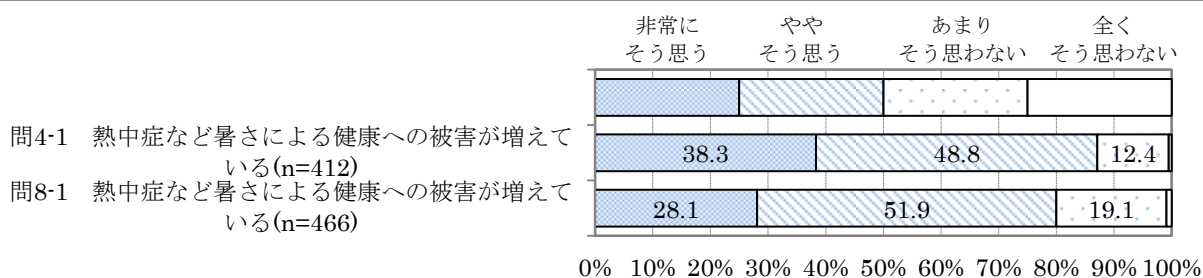


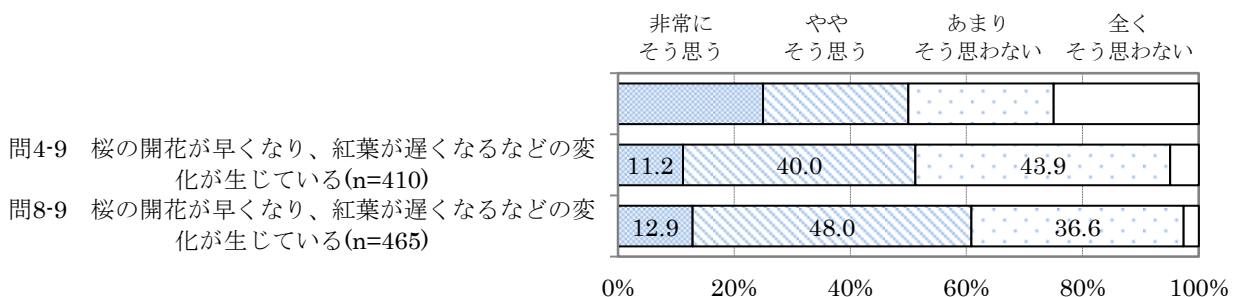
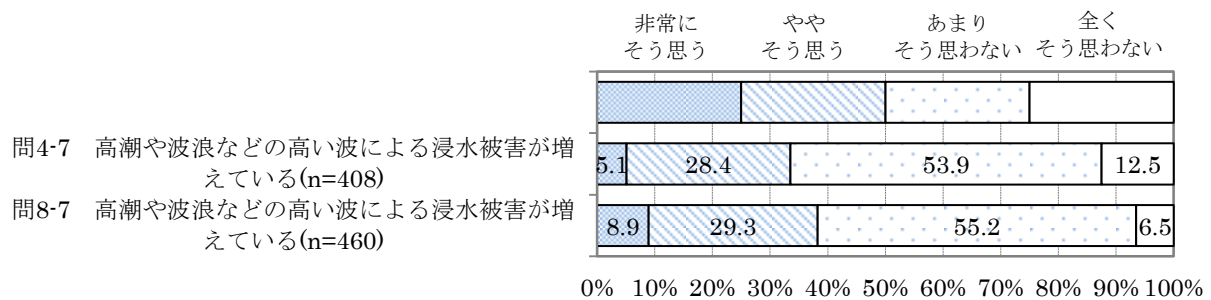
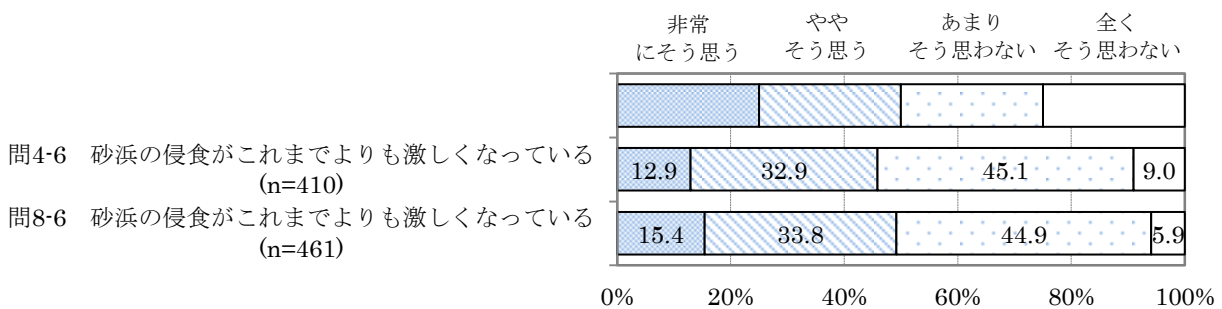
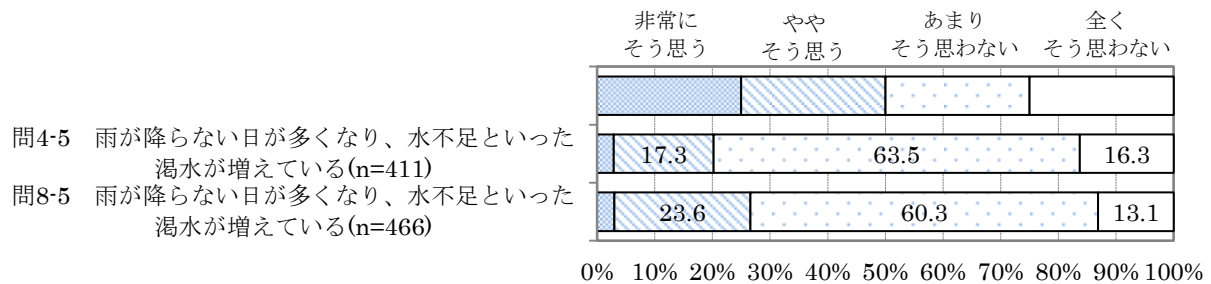
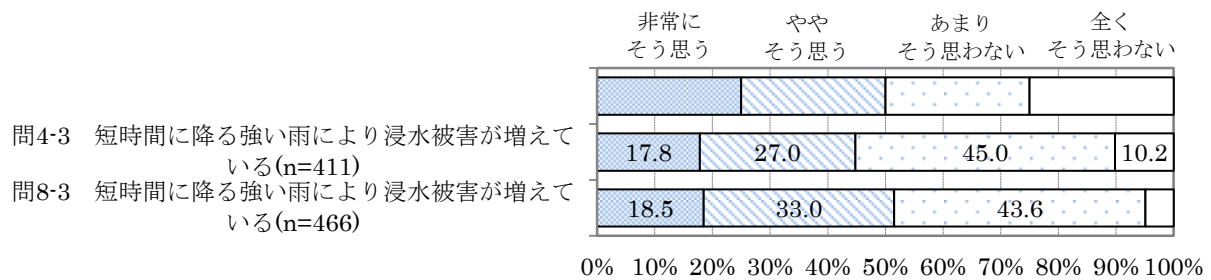
◆身近な地域におけるここ数年間の気候変化に対する実感は、第1回調査よりも第2回調査の方が、「やや変化した」とする回答が増え、「非常に変化した」とする回答が減っている。

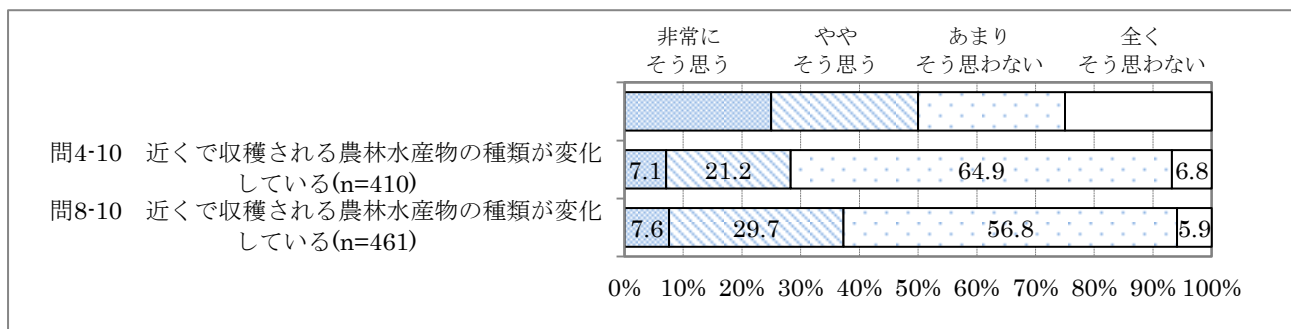




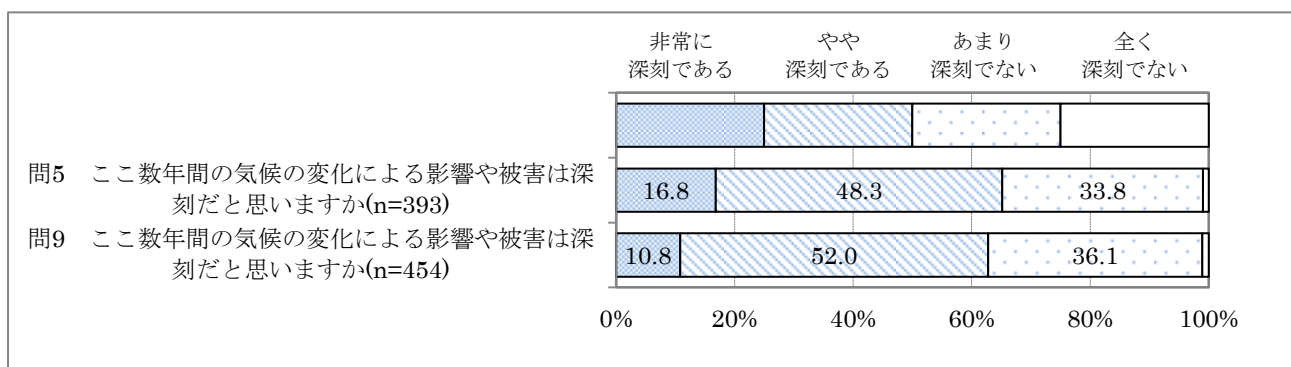
◆身近な地域におけるここ数年間で「暑い日や暑い夜が増えている」や「猛暑の続く期間が長くなっている」ことへの実感は、第1回調査よりも第2回調査の方が、「非常にそう思う」とする回答が減り、「ややそう思う」とする回答が増えている。調査時期の違いが影響していると考えられる。一方、身近な地域におけるここ数年間で、「寒い日や寒い夜が減っている」や「台風の勢力が強くなっている」「海面の水位が上昇している」などの実感は、第1回調査よりも第2回調査の方が、「非常にそう思う」「ややそう思う」とも回答が増え、これらの変化に対する実感は増している。





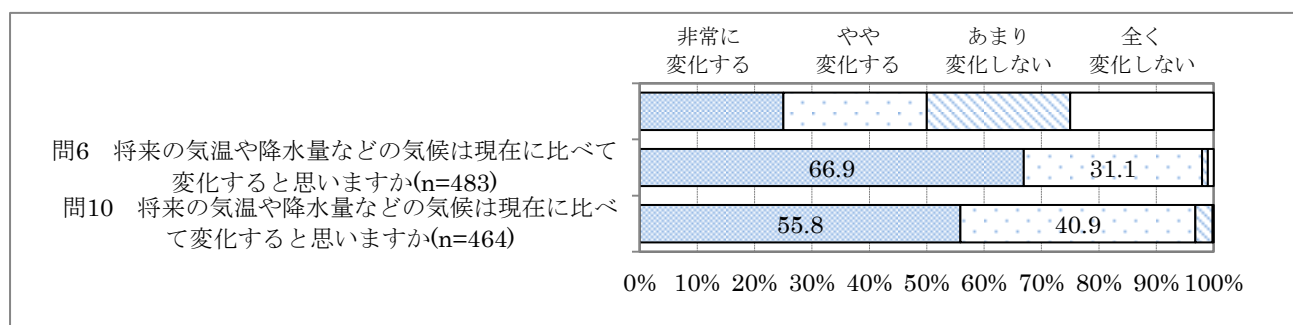


◆身近な地域におけるここ数年間で、「熱中症など暑さによる健康への被害が増えている」ことへの実感は、第1回調査よりも第2回調査の方が、「非常にそう思う」とする回答が減り、「ややそう思う」や「あまりそう思わない」とする回答が増えている。一方、身近な地域におけるここ数年間の気候の変化による影響について、多くの項目で第1回調査よりも第2回調査の方が、「非常にそう思う」や「ややそう思う」とする回答が増え、「あまりそう思わない」や「全くそう思わない」とする回答が減っており、気候の変化による影響への実感がやや増していると考えられる。

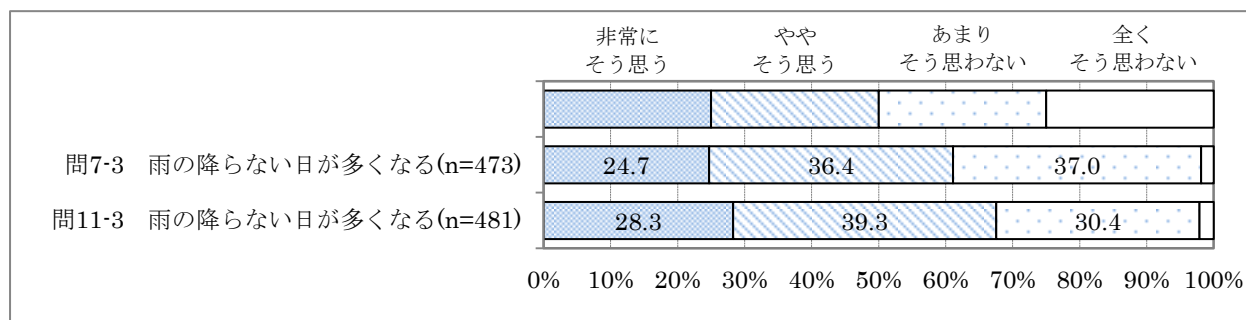
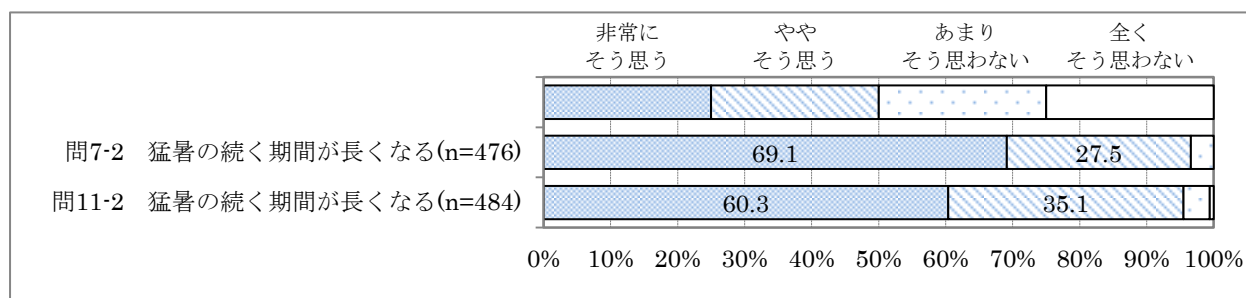
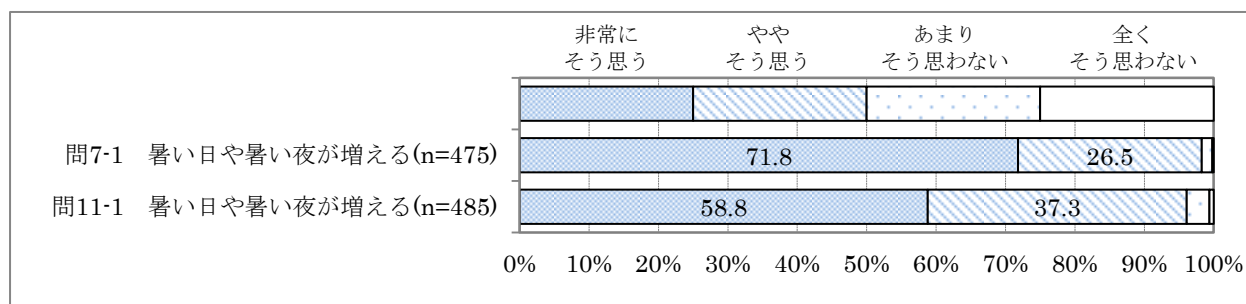


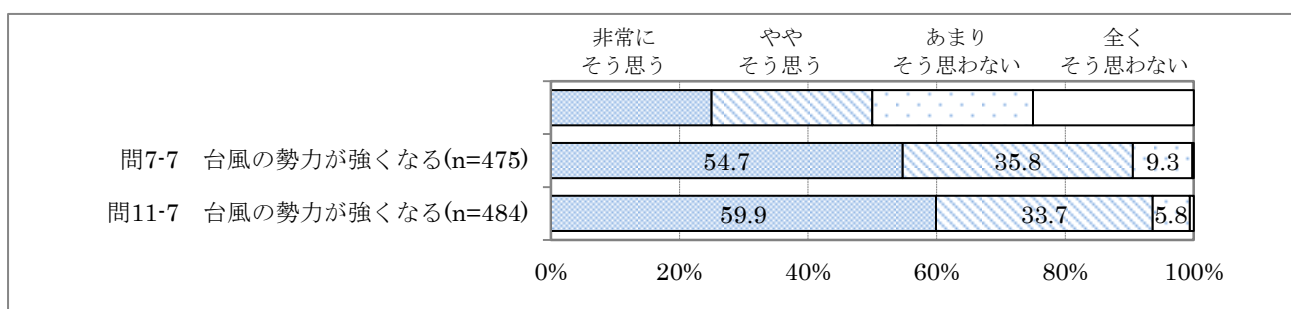
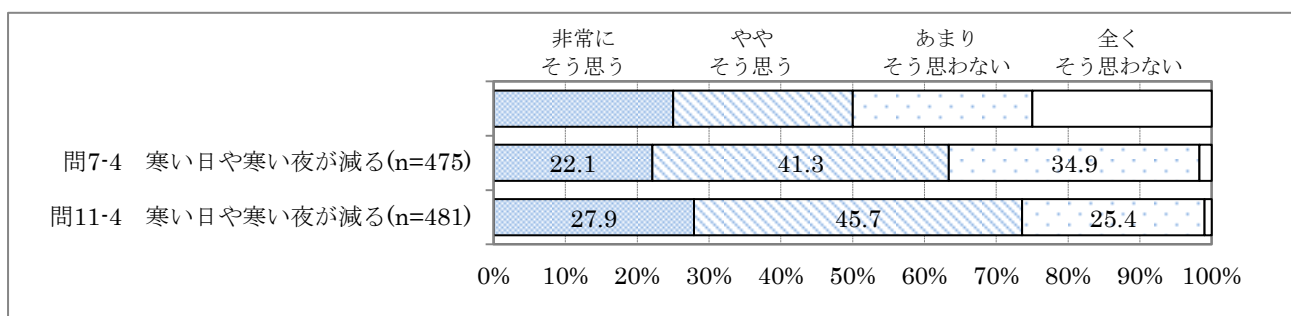
◆身近な地域におけるここ数年間の気候の変化による影響や被害の深刻さについては、第1回調査よりも第2回調査の方が、「非常に深刻である」とする回答が減り、「やや深刻である」と「あまり深刻でない」とする回答がいずれも増えている。

5-3. 将来の気候の変化とその影響に対する認識の変化

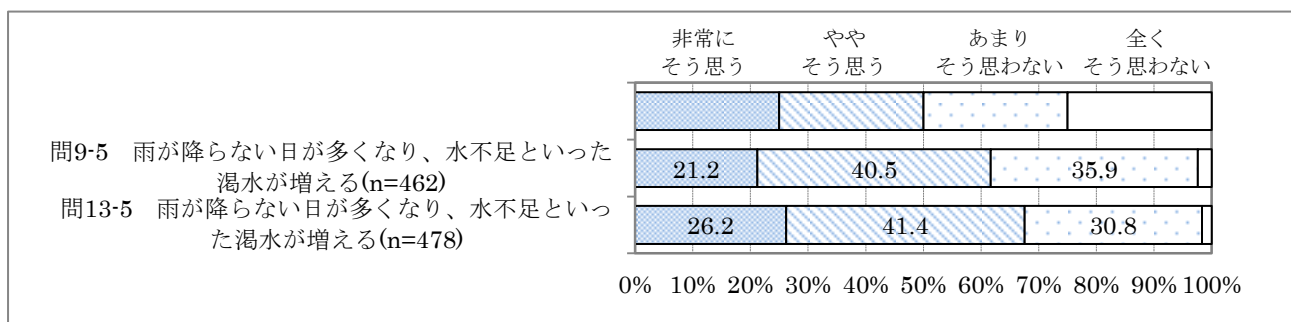
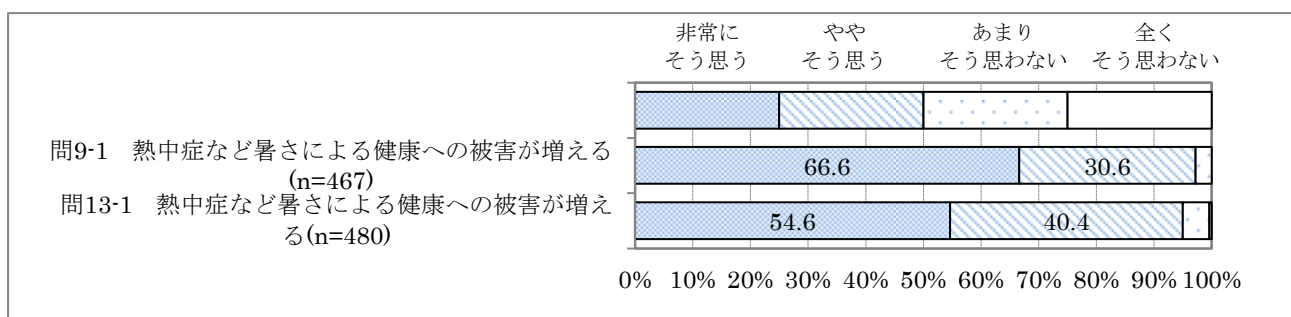


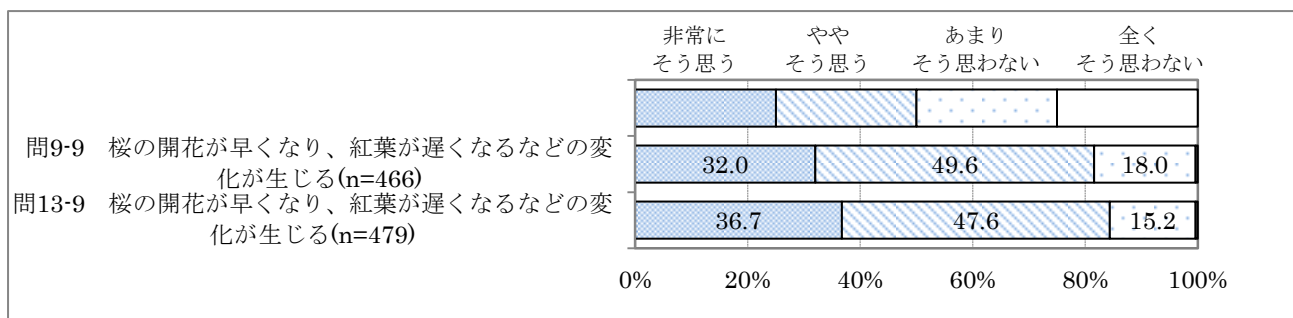
◆身近な地域における将来（50年後）の気候の変化についての認識は、第1回調査よりも第2回調査の方が、「非常に変化するか」とする回答が大きく減り、「やや変化するか」とする回答が大きく増えている。このように、将来の気候の変化についての認識はやや弱まっている。



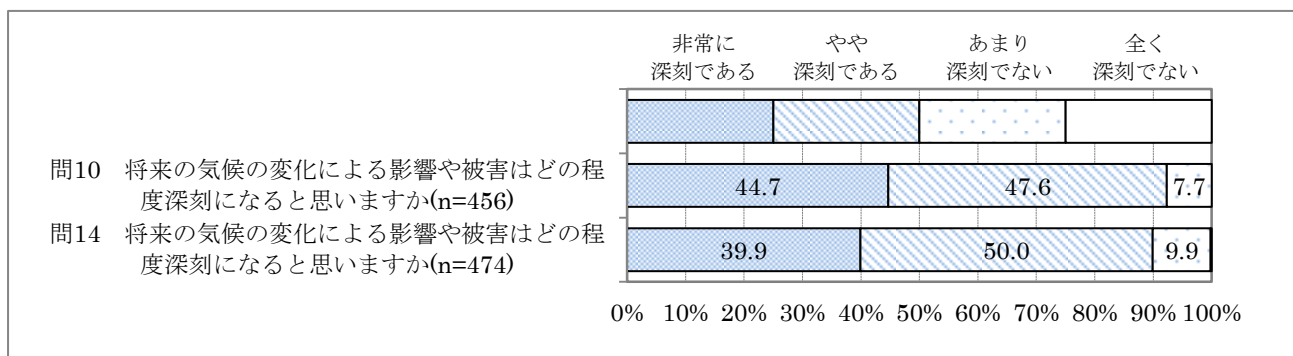


◆身近な地域における将来（50年後）の気候の変化のうち、「暑い日や暑い夜が増える」や「猛暑の続く期間が長くなる」との認識は、第1回調査よりも第2回調査の方が、「非常にそう思う」とする回答が減り、「ややそう思う」とする回答が増えている。一方で、「寒い日や寒い夜が減る」や「台風の勢力が強くなる」などでは、「非常にそう思う」とする回答が増えている。

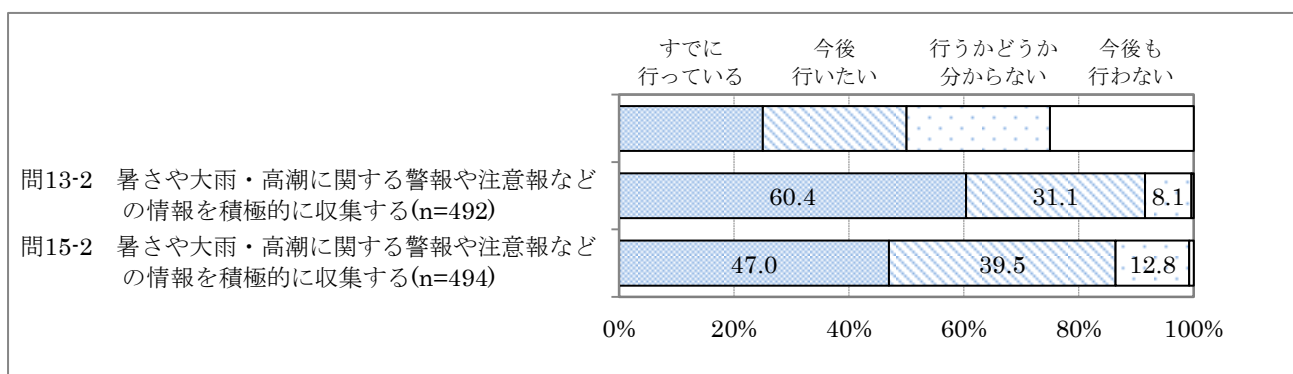




◆身近な地域における将来（50年後）の気候の変化による影響として、「雨が降らない日が多くなり、水不足といった渇水が増える」や「桜の開花が早くなり、紅葉が遅くなるなどの変化が生じる」との認識は、第1回調査よりも第2回調査の方が、「非常にそう思う」とする回答が増え、「あまりそう思わない」とする回答は減っている。一方で、「熱中症などの暑さによる健康への被害が増える」との認識は「非常にそう思う」とする回答が減り、「ややそう思う」とする回答が増えている。



◆身近な地域における将来（50年後）の気候の変化による影響の深刻さの認識は、第1回調査よりも第2回調査の方が、「非常に深刻である」とする回答が減り、「やや深刻である」「あまり深刻でない」とする回答が増えている。



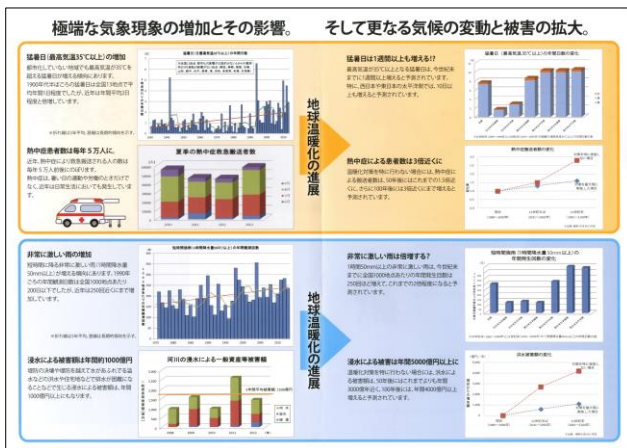
◆気候の変化による影響（被害）に対する対策への取り組みとして、「暑さや大雨に関する警報や注意報などの情報を積極的に収集する」は、第1回調査よりも第2回調査の方が、「すでに行っている」とする回答が大きく減り、「今後行いたい」や「行うかどうか分からない」とする回答が増えている。

6. リーフレット別の結果

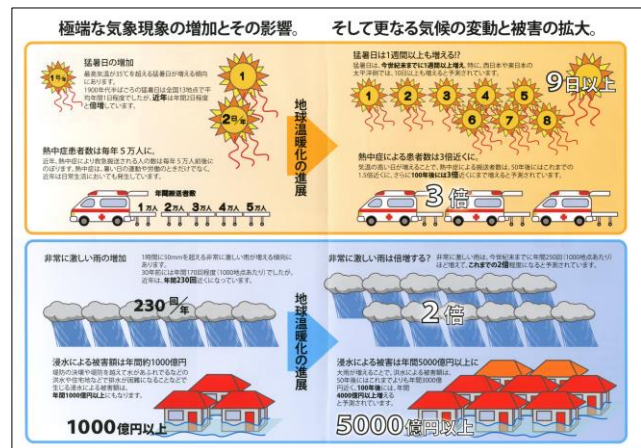
6-1. リーフレットの概要

◆第2回目のアンケート調査では調査票とともにリーフレットを同封し、地球温暖化に伴う異常気象（極端な気象現象）とその影響（被害）の現状及び予測について情報提供を行いました。具体的には地球温暖化に伴う異常気象として、第1回目のアンケート調査において実感が高かった「猛暑日（最高気温35℃以上の日）」と「短時間の強い雨（1時間50mm以上）」を取り上げ、その影響（被害）は「熱中症患者数」と「浸水被害額」について情報提供を行いました。

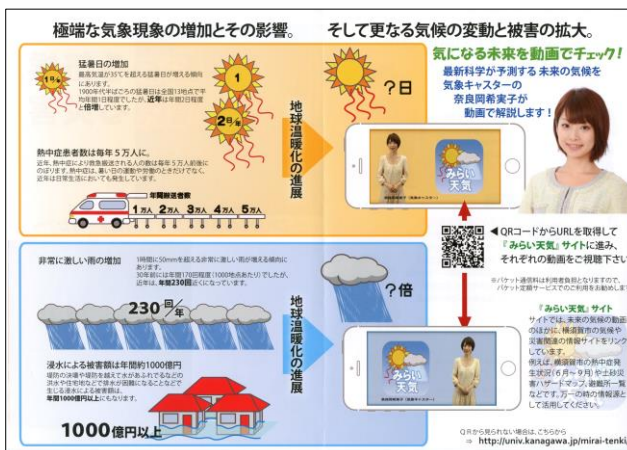
また、リーフレットは提供手法により3種類を作成し、調査対象者にはいずれかを同封しました。具体的には、①詳細な情報を文章とグラフで示したタイプA、②特に重要な情報のみを簡単な文章と図で示したタイプB、③タイプBの情報のうち将来予測を動画で紹介するタイプC、の3種類です。これら3種類のリーフレット別の回答者数はタイプAが199名、タイプBが204名、タイプCが179名の合計582名となっています。



リーフレット タイプ A



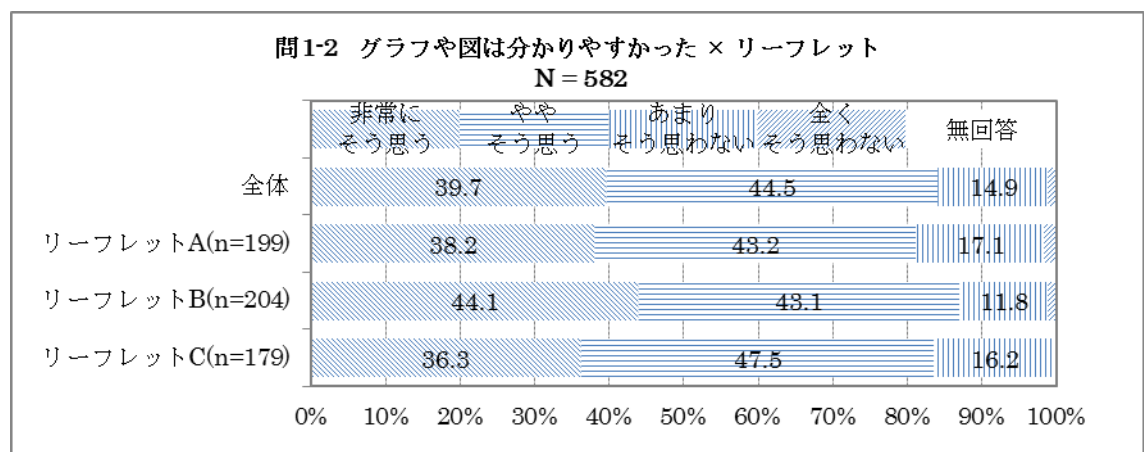
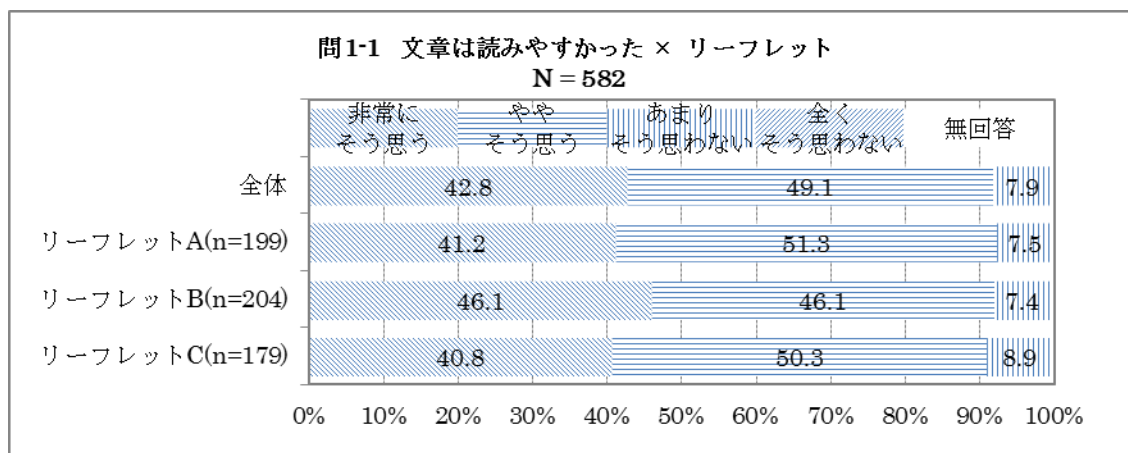
リーフレット タイプ B



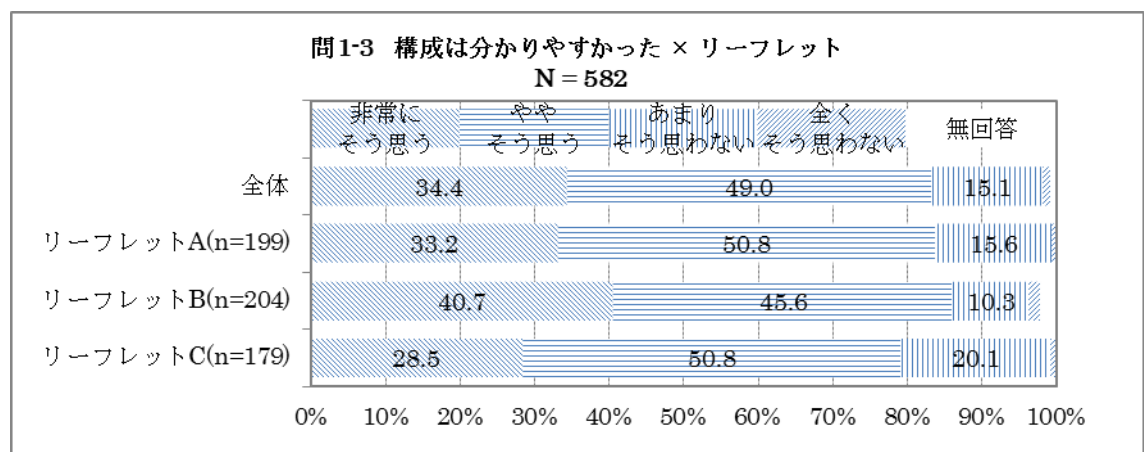
リーフレット タイプ C

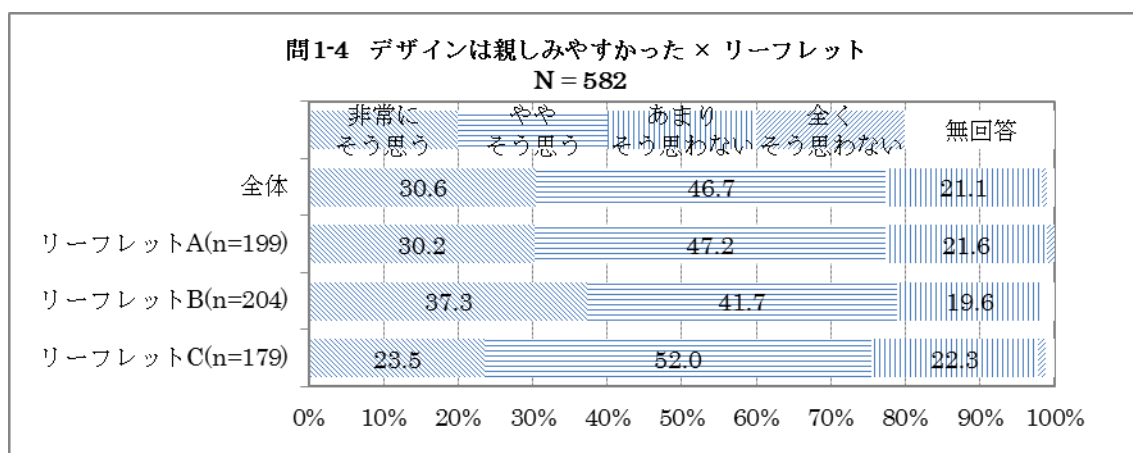
6-2. リーフレット別の集計結果

問1 同封しましたリーフレットの内容についてどのように思いましたか。それぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。

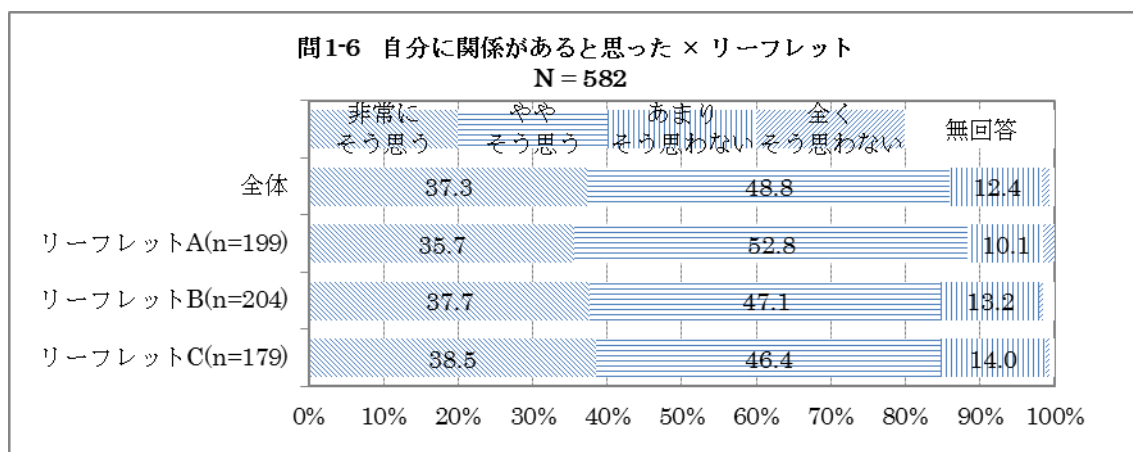
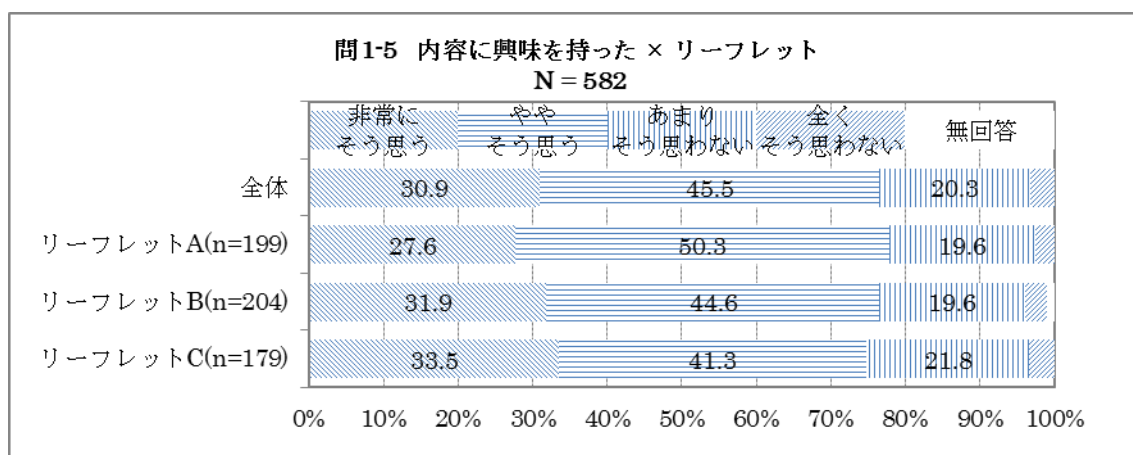


◆文章の読みやすさ、グラフや図の分かりやすさのいずれに対する評価でも、リーフレットBで「非常にそう思う」とする回答が多く、リーフレットCがやや少ない。一方、「非常にそう思う」と「ややそう思う」を合わせた肯定的な評価全体は、文章の読みやすさではリーフレットによりほとんど違いがなく、グラフや図のわかりやすさではリーフレットBとリーフレットCがリーフレットAより多くなっている。

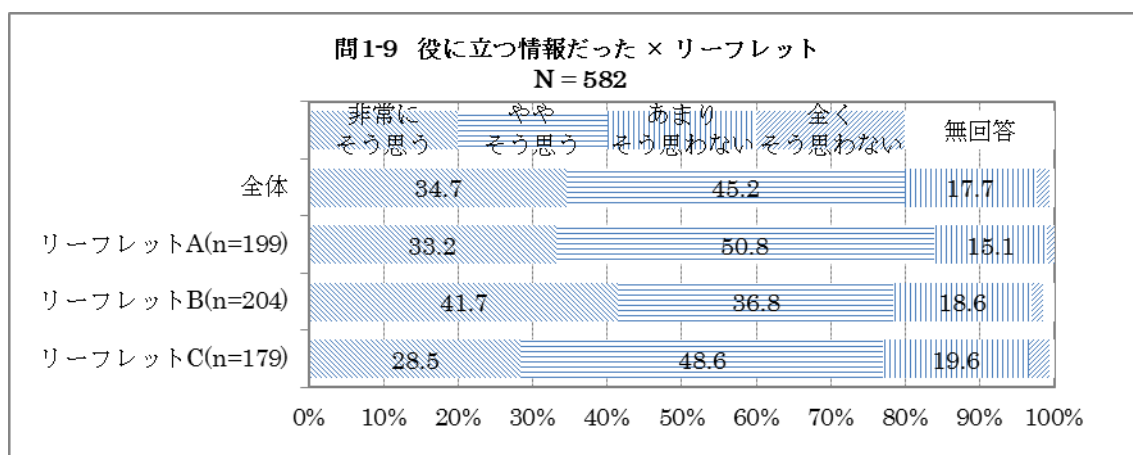
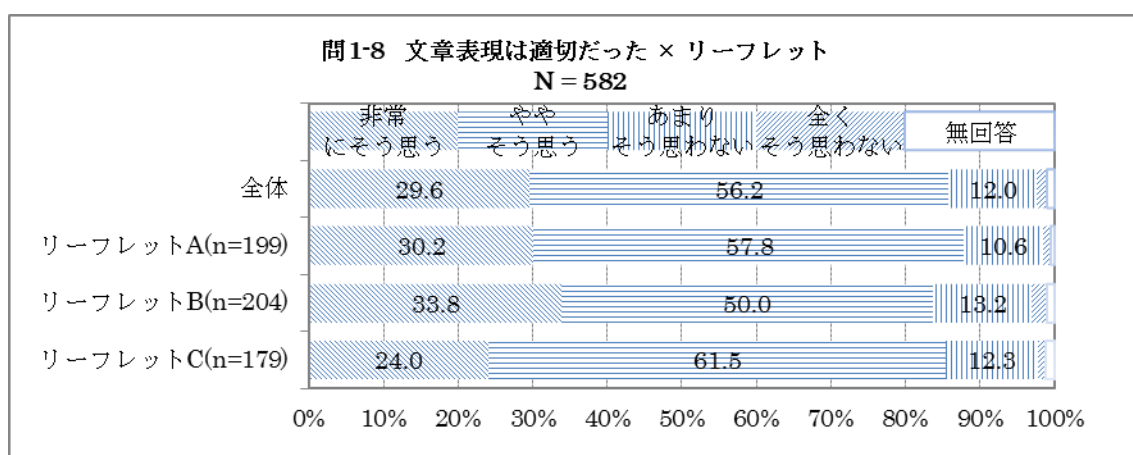
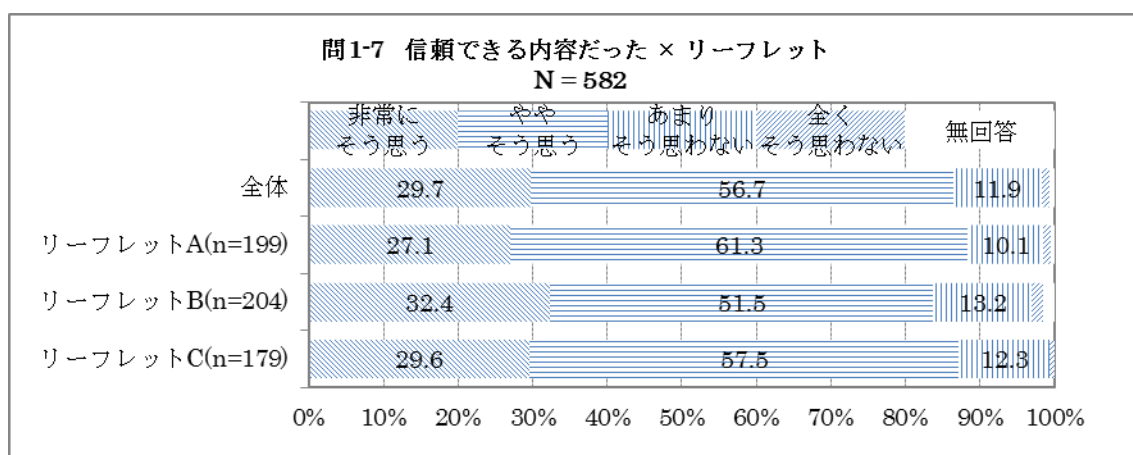




◆構成の分かりやすさやデザインの親しみやすさに対する評価においても、「非常にそう思う」とする回答はリーフレットBが多く、リーフレットCは少なくなっている。ただし、「非常にそう思う」と「ややそう思う」とを合わせた肯定的な評価全体ではリーフレットによる違いはほとんどみられない。



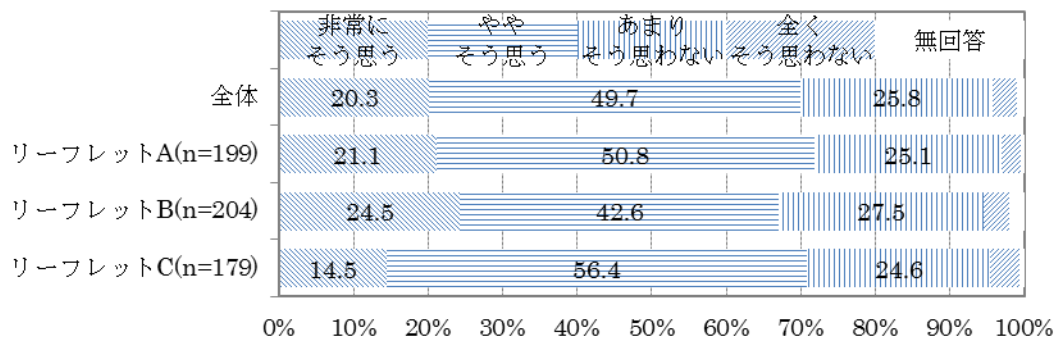
◆内容に興味を持ったあるいは自分に関係があると思ったなどの内容に関する評価では、「非常にそう思う」とする回答はいずれもリーフレットCがやや多く、リーフレットAがやや少なくなっている。ただし、「非常にそう思う」と「ややそう思う」とを合わせた肯定的な評価全体ではリーフレットAが、やや多くなっている。



◆内容の信頼性（信頼できる内容だった）に対する評価や、文章表現の適切さに対する評価、情報の有用性（役に立つ情報だった）に対する評価はいずれも「非常にそう思う」とする回答はリーフレット B が最も高くなっている。一方、文章表現の適切さに対する評価や情報の有用性（役に立つ情報だった）に対する評価はいずれもリーフレット C で「非常にそう思う」とする回答がリーフレット B に比べて、10ポイント前後低くなっている。

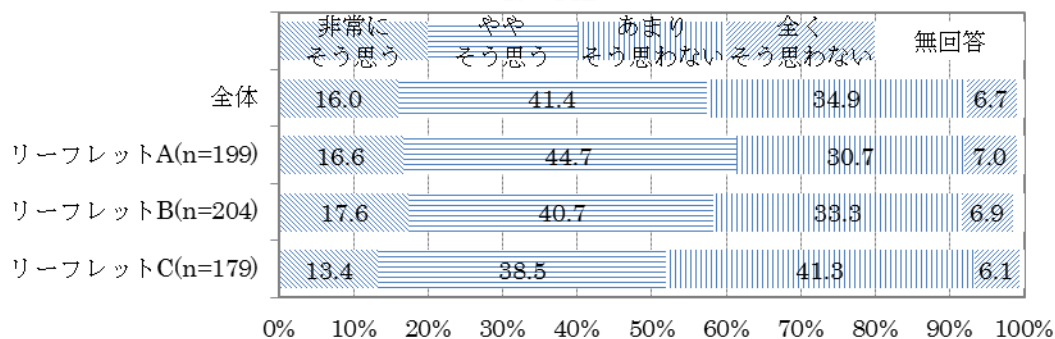
問1-10 説得力のある内容だった × リーフレット

N = 582



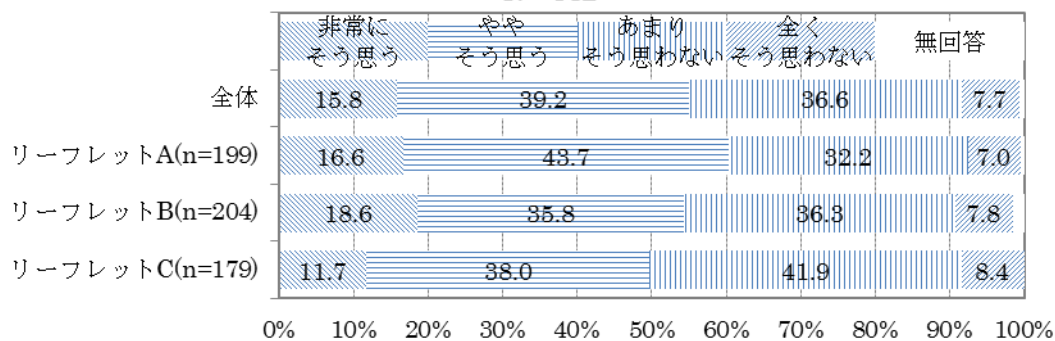
問1-11 内容に関して不安を感じた × リーフレット

N = 582



問1-12 内容に関して恐ろしさを感じた × リーフレット

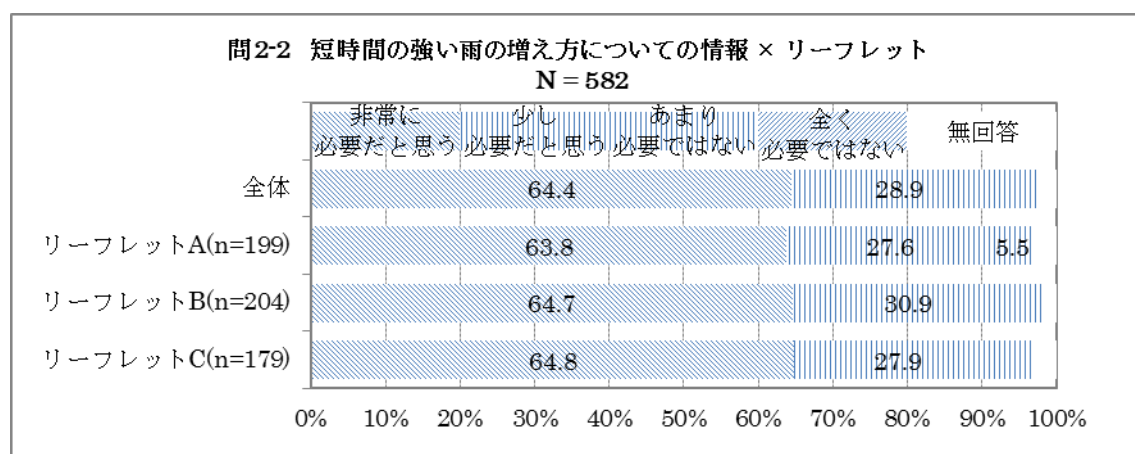
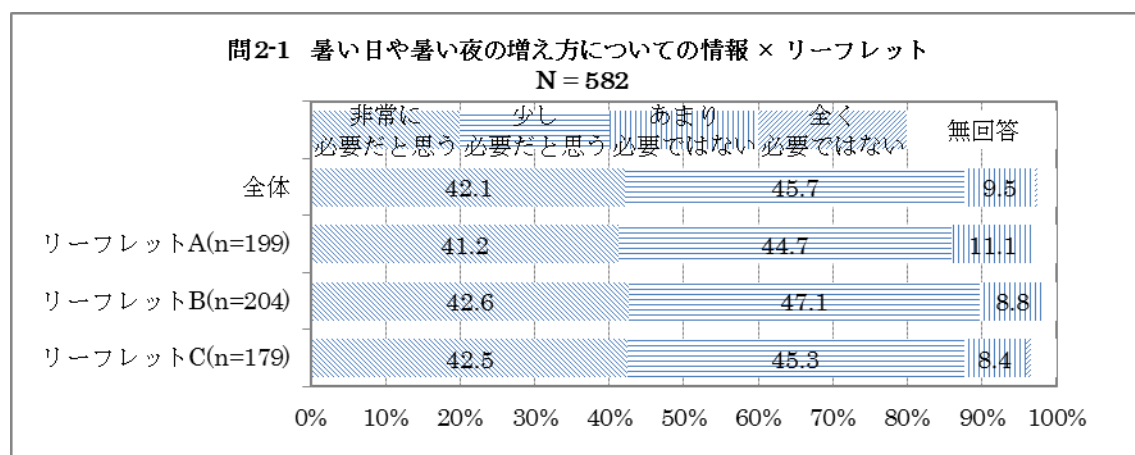
N = 582



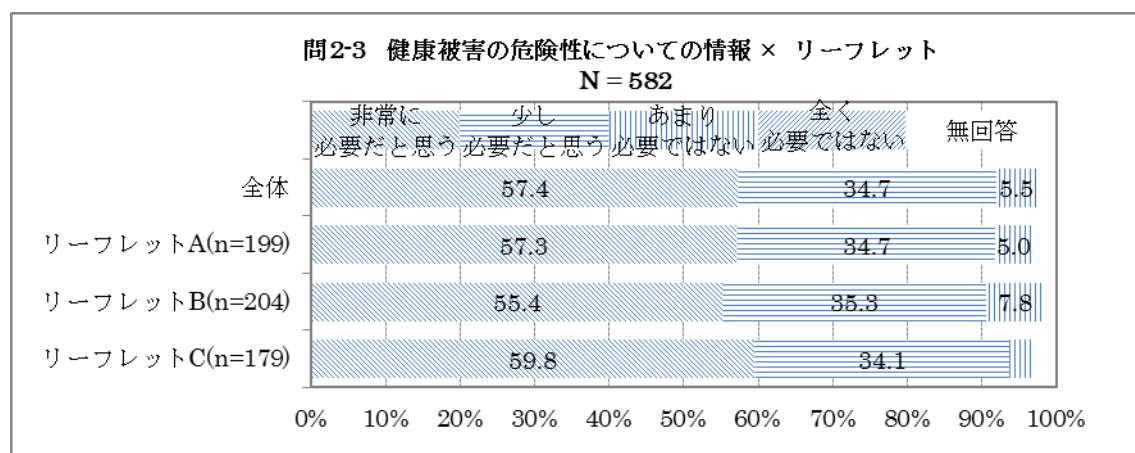
◆説得力のある内容だったとする評価、内容に関して不安を感じたとする評価、内容に関して恐ろしさを感じたとする評価はいずれもリーフレット B で「非常にそう思う」とする回答が最も高く、リーフレット C で最も低くなっている。ただし、「非常にそう思う」と「ややそう思う」とを合わせた肯定的な評価全体ではいずれもリーフレット A が最も高くなっている。

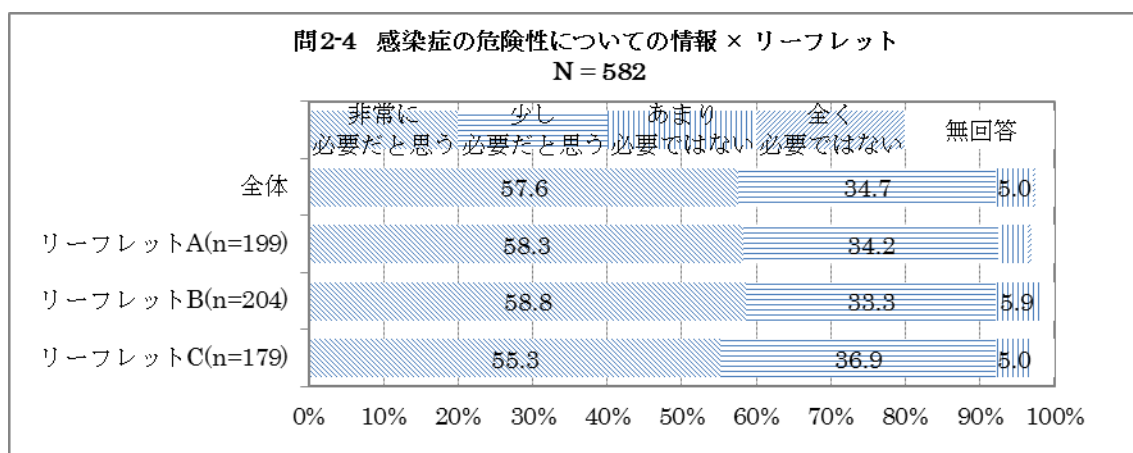
なお、これらの項目に対する評価はいずれのリーフレットに対しても「非常にそう思う」とする回答が他の項目と比べて比較的少なく、「あまりそう思わない」とする否定的な評価が多くなっている。とりわけ、内容に関して不安を感じたとする評価や内容に関して恐ろしさを感じたとする評価は、肯定的な意見と否定的な意見とが拮抗している。

問2 気候の変化やその影響に関して、あなたは今後、どのような情報が必要だと思いますか。それぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。

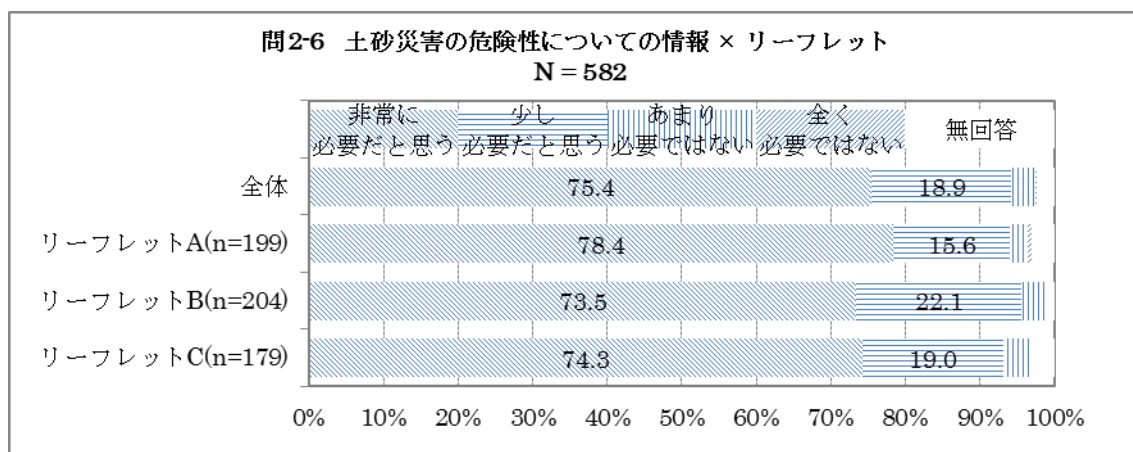
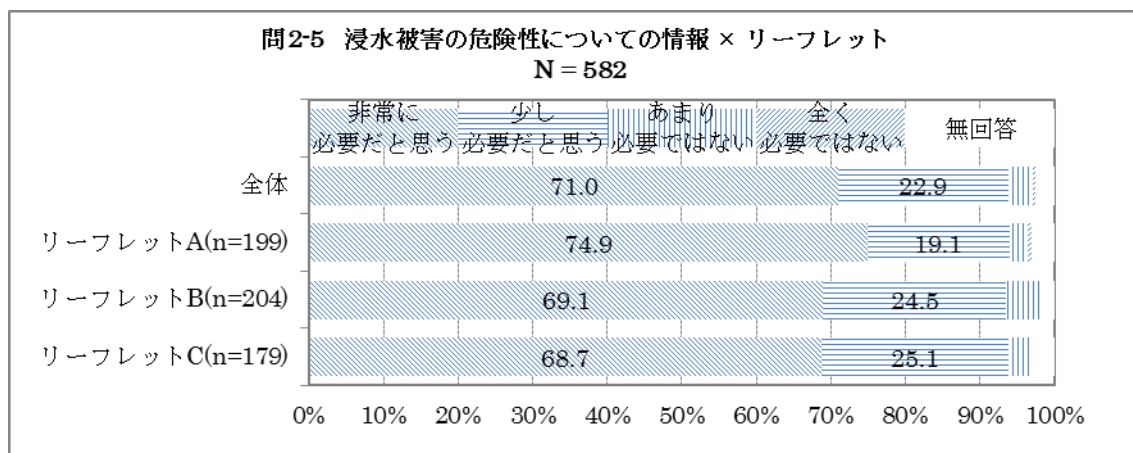


◆暑い日や短時間に降る強い雨などの異常気候の予測（増え方）についての情報を必要とする意見は、リーフレットの種類により大きな違いはみられなかった。いずれにおいても暑い日や暑い夜の増え方よりも、短時間に降る強い雨に関する情報の方が「非常に必要だと思う」とする意見が多くなっている。





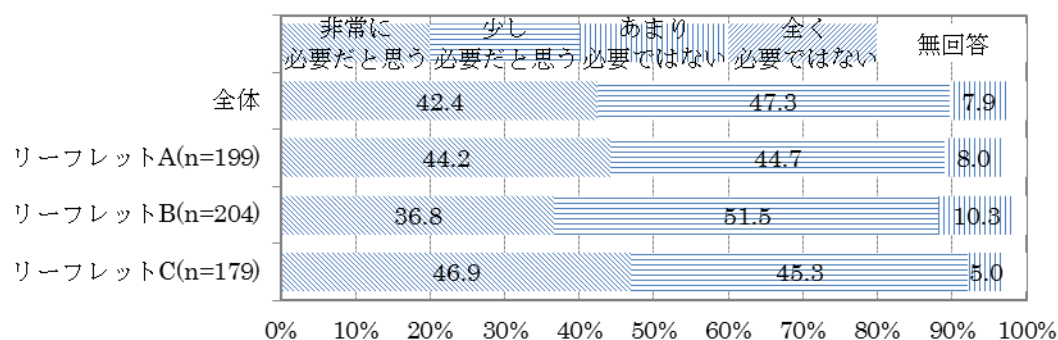
◆熱中症及び感染症といった気温が上昇することに伴う健康影響の危険性についての情報を必要とする意見はいずれもリーフレットの種類によりやや違いがあり、熱中症など暑さによる健康被害の危険性についての情報を「非常に必要だと思う」とする意見はリーフレットCが最も多く、デング熱など蚊が媒介する感染症の危険性についての情報はリーフレットAやリーフレットBがやや高くなっている。



◆短時間に降る強い雨による浸水被害や土砂災害の危険性についての情報を必要とする意見は、いずれも「非常に必要だと思う」とする回答はリーフレットAが最も多く、リーフレットBが最も低くなっている。これらの情報を「非常に必要だと思う」とする回答は70～80%程度を占めている。

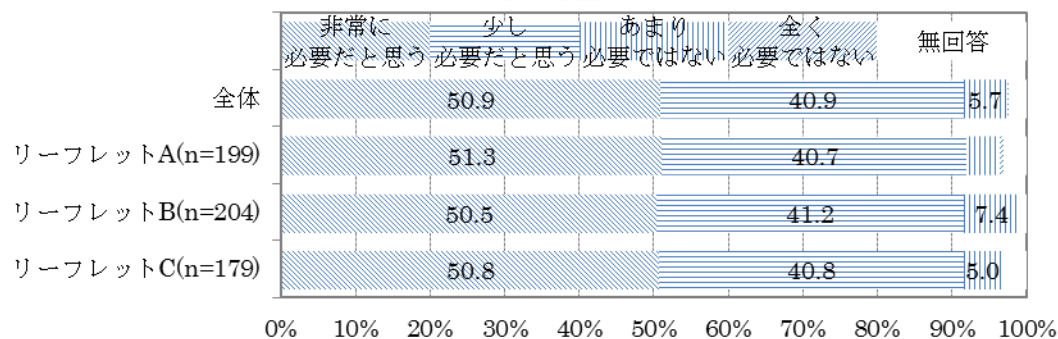
問2-7 健康被害を防ぐ対策についての情報 × リーフレット

N = 582



問2-8 感染症を防ぐ対策についての情報 × リーフレット

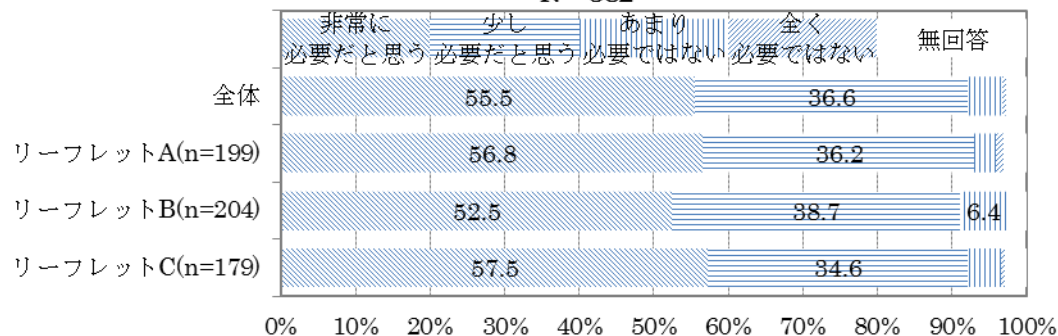
N = 582

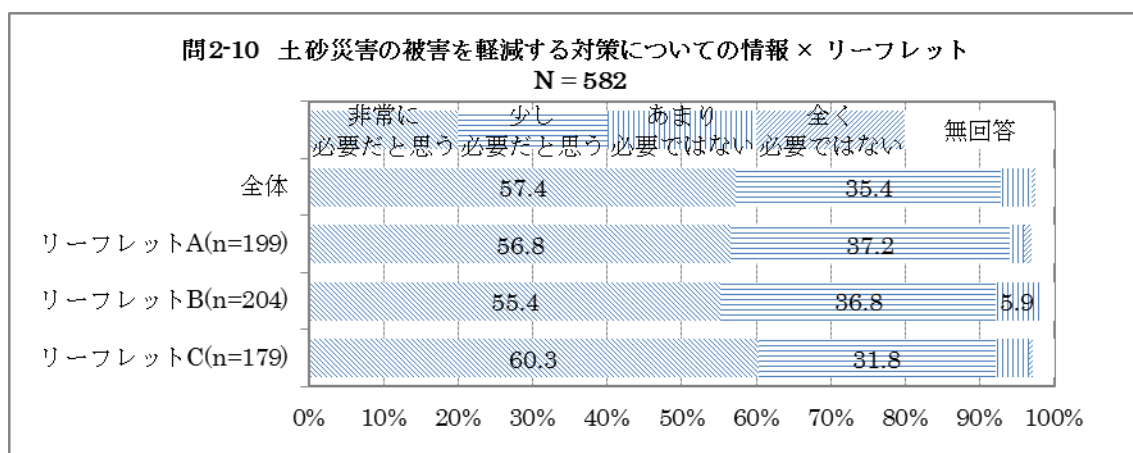


◆熱中症などの暑さによる健康被害を防ぐ対策についての情報を「非常に必要だと思う」とする回答はリーフレットCで最も高く、リーフレットBで最も低くなっている。これに対して、デング熱などの感染症を防ぐ対策についての情報を「非常に必要だと思う」とする回答はリーフレットの種類により大きな違いはない。

問2-9 浸水被害を軽減する対策についての情報 × リーフレット

N = 582





◆短時間に降る強い雨による浸水被害や土砂災害の被害を軽減する対策についての情報を「非常に必要だと思う」とする意見は、リーフレットによりやや違いがあり、どちらの項目においてもリーフレットCが最も多く、リーフレットA、リーフレットBの順に低くなっている。

7. 本調査のまとめ

以上、本調査の主な結果をまとめると次の通りである。

（１）市民の気候変化とその影響、対策に対する意識や行動について

- ◆ 身近な地域でここ数年間に気候が変化したと感じている人は回答者の 90%にのぼる。
- ◆ 気候が変化したと感じている分野として、暑さに関する項目を回答した人が最も多く、次いで豪雨に関する項目を回答した人が多くなっている。
- ◆ 身近な地域でここ数年間に気候の変化で何らかの影響や被害が生じていると感じるかは、回答者の間でもやや意見が分かれている。
- ◆ 身近な地域でここ数年間に気候の変化で影響や被害が生じていると感じている分野として、「熱中症など暑さによる健康の被害が増えている」と思う人が最も多くなっている。
- ◆ 身近な地域において将来（およそ 50 年後）の気候が現在に比べて変化すると考えている人は回答者の 90%以上にのぼる。
- ◆ 身近な地域において将来（およそ 50 年後）に気候が変化すると感じている分野としては、暑さに関することや、豪雨に関する事で回答が多くなっている。
- ◆ 将来（およそ 50 年後）の気候の変化が身近な地域に何らかの影響や被害を生じさせると感じている人は回答者の 90%近くになる。
- ◆ 将来の気候の変化で身近な地域で何らかの影響や被害が生じると考えられる分野として、「熱中症など暑さによる健康の被害が増える」ことを回答した人が最も多い。
- ◆ 身近な地域で将来の気候の変化による影響や被害については回答者の 80%以上が「深刻になる」と感じている。
- ◆ 気候の変化による影響や被害を抑えるための対策として、警報システムの整備や土砂崩れ対策などの設備の整備が「非常に有効」とする回答が多い。
- ◆ 気候の変化による影響や被害を抑えるための取り組みとして、国や自治体が責任をもって対策を行うべきだと強く思う人が 70%を超える。
- ◆ 被害を減らすために「すでに行っている」取り組みとしては、気象情報の積極的な収集のほか非常用持ち出し袋などの備えが多くなっている。
- ◆ 気候の変化による影響や被害に対する不安として、「近くで浸水や洪水が起こるかもしれない」など自分自身やその周辺での被災については、「かなり不安」とする回答が少なかった。

（２）性別・年齢層別の違いについて

- ◆ 男性よりも女性の方が、身近な地域でここ数年間に気候が「非常に変化した」と回答した人の比率が高くなっている。
- ◆ 具体的な気候の変化では、「暑い日や暑い夜が増えている」「雨の降らない日が多くなっている」「海面の水位が上昇している」の 3つの項目において、男性よりも女性の方が「非常にそう思う」と回答した人の比率が高くなっている。
- ◆ 具体的な影響では、ほとんどの項目で影響が増えていることに対して女性の方が「ややそう思う」

と回答した人の比率が高くなっている。

- ◆ 男性よりも女性の方が、身近な地域でここ数年間の気候の変化による影響や被害が「深刻である」と回答した人の比率は多くなっている。
- ◆ 将来の具体的な変化について、すべての項目において男性よりも女性の方が「非常にそう思う」と回答した人の比率が高くなっている。
- ◆ 将来の気候変化による具体的な影響についてもすべての項目において、男性よりも女性の方が「非常にそう思う」と回答した人の比率が高くなっている。
- ◆ 将来の気候変化による影響について、男性よりも女性の方が「非常に深刻になる」と回答した人の比率が高くなっている。
- ◆ 将来の気候変化による影響への対策について、ほとんどの対策について男性よりも女性の方が「非常に有効である」と回答した人の比率が高くなっている。
- ◆ 気候変化による影響に関する対策への取り組みについて、「ハザードマップなどを確認する」や「防災訓練や防災教育に参加する」では、男性よりも女性の方が「今後行いたい」と回答した人の比率が高く、「情報を積極的に収集する」「避難のための備えをする」「家屋の補強や固定などを行う」では、男性よりも女性の方が「すでに行っている」と回答した人の比率が高くなっている。
- ◆ 気候変化による影響に対する不安感ではすべての項目において、男性よりも女性の方が「かなり不安である」と回答した人の比率が高くなっている。
- ◆ 近年の気候変化の実感において40～50歳代で「非常に変化した」とする回答が多く、具体的な変化として、「暑い日や暑い夜が増えている」や「短時間の強い雨の回数が増えている」などで「非常にそう思う」と回答した人の比率が高くなっている。
- ◆ 近年の気候変化による影響については、年齢層が低くなるほど「かなり生じている」と回答した人の比率が高く、具体的な影響では、「熱中症などの暑さに健康への被害が増えている」については、20～30歳代及び40～50歳代で「非常にそう思う」と回答した人の比率が高くなっている。
- ◆ 近年の気候変化による影響に対して、年齢層が低くなるほど「深刻である」と回答した人の比率が高く、若年層ほど危機感がより強くなっている。
- ◆ 将来の具体的な気候の変化では、「猛暑の続く期間が長くなる」では60歳以上で「非常にそう思う」と回答した人の比率が低く、「寒い日や寒い夜が減る」では60歳以上で「そう思う」と回答した人の比率が高くなっている。
- ◆ 気候変化による影響への対策については、「土地利用規制を行う」では、年齢層が高くなるほど「非常に有効である」と回答した人の比率が高く、「家庭や個人が責任をもって対策を行うべき」とする意見に対しては、年齢層が高くなるほど「非常にそう思う」と回答した人の比率が低くなっている。
- ◆ 具体的な対策への取り組みについては、「ハザードマップなどで確認する」「非常用持ち出し袋などの備えをする」などで年齢層が高くなるほど「すでに行っている」と回答した人の比率が高くなっている。
- ◆ 気候変化による影響への不安感については、「近くで浸水や洪水が起こるかもしれない」「自分の家族は大丈夫だろうか」などでは、年齢層が低くなるほど「かなり不安である」と回答した人の比率が高くなっている。

(3) 第1回調査と第2回調査での変化について

- ◆ 気候の変化による影響（被害）に対する不安感のうち、「台風の勢力が強くなるかもしれない」「近くで浸水や洪水が起こるかもしれない」「近くでがけ崩れが起こるかもしれない」などの身近で自分自身が直接的な被害を受ける可能性に対する不安において、いずれも第1回調査より第2回調査の方が「かなり不安である」とする回答が増え、「あまり不安でない」とする回答が減っている。
- ◆ 身近な地域におけるここ数年間で「暑い日や暑い夜が増えている」や「猛暑の続く期間が長くなっている」ことへの実感は、第1回調査よりも第2回調査の方が、「ややそう思う」とする回答が増えている。「台風の勢力が強くなっている」「海面の水位が上昇している」などの実感は、第1回調査よりも第2回調査の方が、「そう思う」との回答が増え、これらの変化に対する実感が増している。
- ◆ 身近な地域におけるここ数年間の気候の変化による影響について、多くの項目で第1回調査よりも第2回調査の方が、「そう思う」とする回答が増え、気候の変化による影響への実感がやや増していると考えられる。ただし、身近な地域におけるここ数年間で、「熱中症など暑さによる健康への被害が増えている」ことへの実感は、第1回調査よりも第2回調査の方が、「そう思わない」とする回答が増え、熱中症による健康被害についての実感はやや減っている。
- ◆ 身近な地域における将来（50年後）の気候の変化のうち、「暑い日や暑い夜が増える」や「猛暑の続く期間が長くなる」との認識は、第1回調査よりも第2回調査の方が、「非常にそう思う」が減り、「寒い日や寒い夜が減る」や「台風の勢力が強くなる」などでは、「非常にそう思う」が増えている。
- ◆ 身近な地域における将来（50年後）の気候の変化による影響として、「雨が降らない日が多くなり、水不足といった渇水が増える」や「桜の開花が早くなり、紅葉が遅くなるなどの変化が生じる」との認識は、第1回調査よりも第2回調査の方が、「非常にそう思う」が増え、「熱中症などの暑さによる健康への被害が増える」との認識は「非常にそう思う」が減り、「ややそう思う」が増えている。
- ◆ 気候の変化による影響（被害）に対する対策への取り組みとして、「暑さや大雨に関する警報や注意報などの情報を積極的に収集する」は、第1回調査よりも第2回調査の方が、「すでに行っている」が大きく減り、「今後行いたい」とする回答が増えている。

(4) リーフレット別の評価について

- ◆ リーフレットに対して「文章は読みやすかった」「グラフや図は分かりやすかった」など多くの項目で肯定的な意見が8割以上を占めている。「説得力のある内容だった」については、「そう思わない」とする否定的な意見が約3割を占め、人々の認識を変えるまでの説得力のある情報提供には至っていないことが示唆される。内容に関して「不安を感じた」や「恐ろしさを感じた」に対する肯定的な意見は6割未満で、「そう思わない」とする意見も多くみられた。
- ◆ 今後、どのような情報を必要としているかについては、気候変動に伴う豪雨の増え方あるいはその影響、さらにそれらへの対策のいずれの項目においても「非常に必要だと思う」とする回答が多くを占めた。気候変動に伴う暑い日や暑い夜の増え方と暑さによる健康被害を防ぐ対策についての情報を「非常に必要だと思う」とする回答はいずれも40%程度であった。
- ◆ 文章の読みやすさ、グラフや図の分かりやすさのいずれに対する評価も、リーフレットBで「非常にそう思う」とする回答が多く、リーフレットCがやや少ない。
- ◆ 内容に興味を持ったあるいは自分に関係があると思ったなどの内容に関する評価では、「非常にそう

思う」とする回答はいずれもリーフレット C がやや多くなっている。

- ◆ 内容の信頼性（信頼できる内容だった）に対する評価や、文章表現の適切さに対する評価、情報の有用性（役に立つ情報だった）に対する評価はいずれもリーフレット B が最も高くなっている。
- ◆ 説得力のある内容だったとする評価、内容に関して不安を感じたとする評価、内容に関して恐ろしさを感じたとする評価はいずれもリーフレット B で最も高く、リーフレット C で最も低くなっている。
- ◆ 熱中症など暑さによる健康被害の危険性についての情報を「非常に必要だと思う」とする意見はリーフレット C が最も多く、デング熱など蚊が媒介する感染症の危険性についての情報はリーフレット A やリーフレット B がやや高くなっている。
- ◆ 短時間に降る強い雨による浸水被害や土砂災害の危険性についての情報を必要とする意見は、いずれもリーフレット A が最も多く、リーフレット B が最も低くなっている。
- ◆ 熱中症などの暑さによる健康被害を防ぐ対策についての情報を「非常に必要だと思う」とする回答はリーフレット C で最も高く、リーフレット B で最も低くなっている。
- ◆ 短時間に降る強い雨による浸水被害や土砂災害の被害を軽減する対策についての情報を「非常に必要だと思う」とする意見は、リーフレット C が最も多くなっている。

以上